調査資料 No. 48

パラグアイ邦人移住地概況

昭和40年3月

海外移住事業団

RY

国際協力事業団

受入月日 '84. 8. 20	708
	23.4
登録No. 13289	EM

目　　　次

まえがき
Ⅰ　パラグアイ共和国の外国人移住者導入の経緯 …… 1
Ⅱ　邦人移住の経緯 …… 2
Ⅲ　邦人関係移住地および農業協同組合の沿革 …… 9
1.　ラ・コルメナ移住地 …… 9
2.　チャベス移住地 …… 26
3.　フラム移住地 …… 36
4.　アルト・パラナ移住地 …… 71
5.　イタプア農業協同組合連合会 …… 99
6.　イグアスー移住地 …… 106
7.　アマンバイ移住地 …… 122
8.　アスンシオン近郊蔬菜地帯 …… 135
附　パラグアイ共和国の概要 …… 140

JICA LIBRARY
1028818[1]

ま　え　が　き

本資料は，当事業団アスンシオン支部が作成したものであり，移住実務担当者の執務参考資料として印刷に付した。

昭和40年3月

業　務　第　2　部

I　パラグアイ共和国の外国人移住者導入の経緯

概　　況

① パラグアイ国は，対ブラジル，アルゼンチンおよびウルグアイに対する三国戦争（１８６５年～１８７０年）により大敗北をきつし，人的物的資源は極端に枯渇した。

なかでも当時人口は２２８,０００人にまで減少したといわれている。

このため，歴代の政策は，国力恢復のためには資本，技術の導入と並んで労働力の拡充を絶対に必要として外国人移住者の導入をはかるため種々の奨励措置をとつてきた。

② このようにして導入された外国人移住者には，ドイツ系移住者（現在約３０,０００人），ポーランド系移住者（現在約１０,０００人），日本移住者（現在約６,０００人）および白系ロシヤ人移住者（約２,０００人）等がある。

③ 最近の移住者は殆んど日本人のみといつてもよい状態であるが，ベルギー，韓国等からも近々移住が開始されるという声もきかれる。

Ⅱ 邦人移住の経緯

1. 戦前のラ・コルメナ移住地の設定

ブラジルにおける日本移民がいわゆる「二分制限法」によつて困難になつて来た，１９３３年（昭和8年）頃から，パラグアイへの進出が有望視されはじめた。

その後，１９３５年（昭和１０年）にいたり「ブラジル拓植組合」（通称ブラ拓）は特に専務，宮坂国人氏名儀でパ国政府より日本移民１００家族導入の枠を取得することに成功した。翌１９３６年（昭和１１年）ブラ拓はアスンシオン市にパラグアイ拓植部を置き，東南方約１４０キロメートルのパラグアリー県ラ・コルメナに旧大地主より１0,８４９ヘクタールの土地を購入し，同年先ずブラジルから指導移民として５家族（３０人）次いで日本からの直来の第１回移住者１１家族（８１人）を入植せしめたのが対パ国移住のこう矢である。

2,

戦後の移住が再開され，かつ本邦内において移住の気運高まるにつれブラ拓は再びパ国政府に申請し，１９５２年（昭和２７年）１２０家族の邦人移住者導入の許可を得た。この移住者は当初ラ・コルメナに入植せしめる予定であつたが余地が少なかつたため，一部入植せしめたのみで他はパ国政府の移住地チャベス（Chaves）に入植させることに変更された。

そして，これをかわきりに１９５５年（昭和３０年）に誕生した移住振興会社によるフラム移住地（Fram）の購入決定および今日のアルト・パラナ移住地のはしりとなつたピラポ地区購入等と進展した。

一方１９５６年（昭和３１年）には米人経営のカフエー耕地（ＣＡＦＥ）

に邦人移住者38家族(260名)が雇用農業者として入植，1958年(昭和33年)までに138家族(900名)の入植を見た。かかる気運に応じてさらに将来の邦人の大量移住に備えて，1959年(昭和34年)には対パ船舶借款(380万ドル)の供与およびこれと見合せて30年間に85,000人の邦人入植，その他を定めた日パ移住協定が締結された。

このため移住振興会社は1960年(昭和35年)フラムの近傍に約84,000ヘクタールのアルト・パラナ移住地を開設し，さらにアスンシオンよりブラジルのパラナグア港に通ずるいわゆる国際道路沿線に，更に94,000ヘクタール(その後航空写真による測量の結果87,760ヘクタールとなる)の土地を購入しイグアスー移住地を開設した。

かくて邦人の対パ国移住は200,000ヘクタールに近い大集団移住地を控えて前途洋々たるものがある。

3. 邦人の入植および定着状況

入植地としてはラ・コルメナ，チャベス，フラム，アルト・パラナ，イグアスーおよびアマンバイ地区の6つの移住地があげられる。

次にこれ等移住地における邦人入植者の定着状況を表示すると

（1964年4月1日現在）

区分 / 移住地	入植		定着		定着率
	家族数	人員	家族数	人員	
ラ・コルメナ	130	825	78	500	60%
チヤベス，フラム、	519	3,355	473	3,113	91〃弱
アルト・パラナ	325	1,625	281	1,475	91〃〃
イグアスー	37	185	36	180	97〃
アマンバイ	137	907	126	585	92〃
合計	1,148	6,897	994	5,853	

（注）　定着家族数の場合，現地で分家した等の関係があるため現在世帯数とに差がある場合がある。

4. 邦人移住を推進するにあたつての特記事項

① パ国の場合，他の移住先国と異なり，特に次の3点について留意しなければならない。

イ．大集団移住地に対する集団入植であること。

ロ．自営開拓移住で然も遠隔地（奥地）農業であること。

ハ．パ国の未開後進性に対処しなければならないこと。

② 具体的措置として

イ．前項イの大集団移住地に対する集団入植を推進するため海外移住事業団（現地支部）において，㋑移住地を造成，管理，分譲している。㋺必要最少限（あるいはそれ以上）の施設を交付金にて建設している。㋩移住地毎に診療所を開設（日本人医師を派遣）し，移住者が安心して生活出来るように措置している。

ロ．前項ロに関しては，相当な奥地農業であるため，特に物心両面にお

ける相互扶助と協力が不可欠である。

従つて，当然のことではあるが，正常な状態における農業協同組合組織により共存態勢を整える必要がある。

そしてこの指導育成が他の移住先国のいずれよりも重要なる意味を有すると思われる。

ハ．前項ハについては，㋑移住地の営農関係において，信頼すべき資料が少ないことと，パ国側に於て具体的移住推進策がないためこれ等の面も事業団において補完している。㋺生産物の市場性について，従来相当問題にされたところであるが，理論的にはＬＡＦＴＡ（モンテビデオ条約）により前述したわけであるが，現実には幾多の問題を残している。今後ともこの市場確得については強力に推進する必要がある。㋩交通機関（道路，車輛等）の未発達のため生産物の輸送に問題があるが，これについては，パ国全体の問題とも関連がある。なお，この件に関してはパ国においても，目下これが開発整備に懸命の努力を傾けている。

◎ パ国における邦人移住地（1964年4月1日現在）

移住地名	地区面積（ヘクタール）	所在地	所属	移住形態	開設時期	主要土質	主要作物	現入植者数	ロッテ面積及び営農方式	自治協同組合組織（認可年月日）	主なる施設	摘要
ラ・コルメナ移住地	10,849	Paraguari 県アスンシオンより140粁	独立自治体	自営	1936年	砂岩の風化した砂地土	棉，玉ねぎ，大豆，稲，馬鈴薯，葡萄，柑橘	日本人 78戸 パ国人 500戸	20ヘクタール，短期作物（棉，大豆，等）及び葡萄の混合経営	ラ・コルメーナ農協（法定）（1948. 8. 5）	葡萄酒醸造工場，繰綿工場	10.849ヘクタールのうち5,000ヘクタールは邦人所有
チャベス移住地	80,000（16,000）	Itapua 県エンカルナシオンより16粁	パ国政府移住地	〃	1955年	玄武岩の風化した植土，いわゆるテーラロシヤ	油桐，マテ茶，柑橘，大豆，棉，トウモロコシ，野菜	日本人 122戸 パ国人 相当数	20〜25ヘクタール，永年作物（油桐，マテ茶，柑橘）及び短期作物（棉，大豆，トウモロコシ等）の混合経営	チャベス農協（法定）（1958. 7. 18）	校舎，倉庫	イタプア農協連の所属の下に麻袋工場，乾燥工場各1をエンカルナシオンにもつ。
フラム移住地	16,057	〃 エンカルナシオンより38粁	移住事業団移住地	〃	1956年	〃	油桐，マテ茶，柑橘，大豆，トウモロコシ，棉，稲，マンジョカ（小麦）	日本人 360戸 パ国人 若干	25ヘクタール，永年作物（油桐，マテ茶）主体経営	①富士（法定）（1957. 9. 23） ②ラ・パス（法定）（1957. 12. 25） ③サンタ・ロサ（法定）（1958. 2. 28）	校舎，共同販売所，倉庫，マテ茶工場，農場，診療所	
アルト・パラナ移住地	83,579	〃 エンカルナシオンより80粁	〃	〃	1960年	〃	油桐，マテ茶，柑橘，大豆，棉，トウモロコシ，雑豆，マンジョカ	日本人 281戸 パ国人 若干	30ヘクタール，永年作物（油桐，マテ茶）主体経営	アルト・パラナ農協（〃）	収容所兼校舎，倉庫，共同販売所，診療所，農場，（事業団事業所）	
イグアス移住地	87,763	Alto Parana 県アスンシオンより280粁	〃	〃	1961年	〃	油桐，柑橘，棉，豆類，トウモロコシ，煙草，米，マンジョカ	日本人 36戸 パ国人 若干	30ヘクタール，永年作物（油桐，柑橘）及び短期作物（大豆，棉等），並に畜産混合経営	イグアス農協（任意組合）	収容所兼校舎，共同販売所，倉庫，農場，診療所	
アマンバイ移住地	2,530	Amamby 県アスンシオンより360粁	パ国政府移住地	〃	1960年	〃	コーヒー，マテ茶，小麦，トウモロコシ，大豆，ニンニク，薄荷	日本人 117戸	10〜50ヘクタール，コーヒー主体経営	アマンバイ農協（法定組合）	薄荷蒸留工場，倉庫，精米精粉工場設置の予定	

Ⅲ　邦人関係移住地および農業協同組合の沿革

1. ラ・コルメナ(LA COLMENA)移住地

(1) 移住地の創設

イ．土地取得および入植許可

１９３６年（昭和１１年）ブラ拓は，パラグアリー県ラ・コルメナの地に４００家族の日本人移住者に分譲する（１家族１ロッテ）目途で約１１,０００ヘクタールの土地を大地主より購入し，２０ヘクタール１ロッテとして造成した。

パ国に対する日本人移住者導入の申請は，１９３５年（昭和１０年）に１００家族が認められていたが，１９３６年の政変で登場したフランコ政権の内部には，この許可に反対する空気が強く，ために許可は一時停止となつた。

しかし同年かなりきびしい条件が付加されて再び認められることになつた。

（注）…この条件とは大統令第１０２６号の第３条および第４条で

「日本移民は農業以外に従事してはならない。また生産物は輸出する目的でのみ従事しなくてはならない。」

「日本移民はパラグアイ人の部落や人口の集中地点に住むことは禁止する」というものであつた。

入植は先ず１９３６年にブラジルから指導移民として５家族３０人に引続き，日本直来の第１回１１家族８１人が入植，以後１９４１年（昭和１６年）までの５ヶ年間に指導移民３回，日本直来２８回と合計１２３家族７９０人が相次いで入植した。

この間パラグアイ側では１９３８年（昭和１３年）に１００家族の

入国を許し，１９３９年には１００家族の入国期間延長を許可，１９４１年（昭和１６年）には，さらに１００家族の入国を許すというように日本人の入国の許可枠をひろげていつた。

しかし１９４１年第２次世界大戦勃発により第２８次移住をもつて戦前の移住に終止符がうたれた。

（注）…当時の入植者の資格条件としては家族営農資金として３００円以上を携行しなければならなかつた。

日本政府としては「海外移住連合会」を通じて１家族あたり５００円の貸付けを行つた。

土地の分譲方法は１ロッテ２０ヘクタールを７2,０００ペソ（約1,２００円）で１０年間に支払うことになつていた。

日本政府から渡される支度金は１２才以上のものに５０円，７～１２才のものに２５円，３～７才のものに１2.５円であつた。

ロ．入植の経路

入植経路としては，大部分はブラジル国のマット・グロッソ州カンポグランデより乗船しパラグアイ河を下りアスンシオンに上陸したが，最終回の第２８次移住者は第２次大戦直前のためパナマ運河の航行を禁止されやむを得ず，南米大陸の最南端マゼラン海峡を経由し，ブエノス・アイレスに着いたものである。

ブエノス・アイレスよりは河船に乗り替え，アスンシオンに向い同地に上陸。

ハ．戦後の移住

戦後の入植者としては，１９５２年（昭和２７年）に，この地に対し１２０家族導入の枠を取得したが，１９５４年（昭和２９年）３家

族19人，1955年（昭和30年）6家族34人が入植したのみで，他に適地なく，やむを得ず当時創設されていたチャベス移住地へ振りむけることになつた。

ニ．造　成

ブラ拓による造成のうちロッテ割は，川の流れを基本とし，各ロッテが必ず川に接するようにした。このため間口120メートル奥行1,000メートル余というような短冊型の細長い耕地となつた。

造成に着手した当時の土地の状況は原始林（Monte）地帯約8,000ヘクタール，原野（Campo）地帯約1,500ヘクタール，山岳地帯約1,400ヘクタールであつた。このうち耕地に利用出来る地帯は主としてMonte 地帯であつた。

造成としては，この他市街地が設定され，ブラ拓の事務所，倉庫，繰綿工場，精米所等が建設された。

(2) 移住者の動向

イ．入植123家族中26パーセントにあたる32家族は1941年までに退耕した。

1942年（昭和17年）パラグアイ国は日本との国交を断絶し，1945年（昭和20年）には，日本に対し宣戦を布告するにいたつた。このためパ国政府はラ・コルメナを日本人の送り込み地として，すべての日本人をここに送りこんだ。そして「干渉官」をおき，日本人を監視した。当初は日本人小学校に対する干渉のみであつたが，後に移住地全体についての干渉というように内容がひろげられた。しかし日本人は他地域への旅行が制限され，また日本人小学校が廃止されるなどの不便はあつたが，生産者として従来どおり生産をつづけることには支障はなかつた。このような経緯のなかで，日本人移住者は全

く不安な気持で毎日をすごさなければならなかつた。

しかし終戦とともに生気をとりもどし，生産も徐々に高まり希望がよみがえつて来たかにみえた。

ロ．その後1948年にいたり政変とインフレーションのため大量17家族97人の脱耕者を一時に出した。

その後も毎年若干づつの脱耕者が出，1955年（昭和30年）までに入植以来の総合計85家族518人がラ・ユルメナより他の地に土地を求めあるいは職業を変えて去つていつた。

（なおこの中にはチヤベス移住地へ転住した8家族も含まれている）

ハ．ラ・ユルメラの移住地には以上のような入植，脱耕，分家等を経て現在日本人93家族（内市街地22家族）が生活をつづけている。

（注…ラ・ユルメラには現在日　併せて約600家族3,000人が居住）

(3) 教　育

イ．日本語教育

ブラ拓は，移住地建設計画のなかで教育を重視し，小学校を建て日本の正規の小学校教員を招いて純日本式の義務教育を実施した。したがつて入植当初より第2次大戦まで，この地では日本の農村と同様の教育が行われた。

（なお，スペイン語学校には日本語小学校3年終了後1年生として入学する方式をとられておつた）。

その後第2次大戦終了とともに日本語小学校は閉鎖，没収されてしまつた。

今日ではわずかに週2回程度希望者による日本語学校が開設されている程度である。

ロ．スペイン語による教育

現在パ国の小学校（６年制）および中学校（３年制＝１９５７年開校）が市街地にある。

ハ．次に，１９６４年度のパ国の小・中学校および日本語学校の生徒数を参考までにかかげると

(イ) パ国教育

④ 小学校（市街地）

a．生　徒　数

国籍別＼学年別	1年			2年			3年			4年			5年			6年			合計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
日本人（日系人）																			110名
パラグアイ人																			658 〃
合　計	105	71	176	71	75	146	79	79	158	69	25	94	47	80	128	18	48	66	768 〃

（注）　他に夜間部として５年生２７名，６年生１８名あり

b．教　師

（本　校　　　　　１５名
　分　校（５校）　２５名）

⑩ 中学校（３年制）

a．生　徒　数

国籍別＼学年別	1年			2年			3年			合計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
日本人（日系人）			8			6			4	18
パラグアイ人			14			9			8	31
合　計			22			15			12	49

b. 教　師

(ロ) 日本語学校

㋑ 生 徒 数

学年別 男女別	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合 計
男 子	10	15	12	13	−	−	50
女 子	8	15	10	18	−	−	51
計	18	30	22	31	−	−	101

㋺ 教 師 名　髙橋春子，日沖てつ

㋩ 教　課　国語，社会，音楽，家庭科

(4) ラ・コルメナ農業協同組合

イ．設立の経緯

1948年頃より主作物である「棉」が土地生産力の低下のため，いちじるしく減収しはじめた。また米，トウモロコシ，ポロット，落花生等も市場の狭小のため思うように販売出来ず，生産を何で支えていつたらよいか苦悩があらわれて来た。この状況を自覚し初めたとき多くの人々のなかに農業協同組合（Sociedad Cooperatira Agri-colo）を結成しなければならないの気運が盛り上がつて来た。組合の結成にあたつては同じ移住者仲間よりの強い反対もあつたが，ブラ拓の資産である，事務所，商店部，繰綿工場，精米工場および牧場300ヘクタールを移譲されるということが切り札となり，先ず74人の組合員3,700グアラニーの資本金で結成されることになつた。現在はその後の分家加入，脱退（除名）等を経て74家族（内パ国人14家族）の組合員である。

ロ．組合の認可年月日

1948年8月5日

ハ．組合の事業区面積

10,849ヘクタール（うち邦人関係は5,000ヘクタール）。

ニ．組合員数

74戸（475名） 内パ国人14戸

ホ．組合の役員数

理事　8名（内パ国人1名）任期1年，専務常勤

監事　3名（内パ国人1名）　〃

ヘ．出　資　金

(イ) 1口，　35,000グアラニース

（加入時出資額500グアラニース）

(ロ) 組合の目標額　3,490,000〃

(ハ) 既払込出資額　2,902,000〃　（1961年1月末現在）

ト．組合の資産

(イ) 建　物……事務所（煉瓦），倉庫，車庫，精米所，職員住宅

(ロ) 車輌類……トラック　1台（7t）
小型トラック　1台（2t）
トラクトール　1台

(ハ) 機械類……ディーゼルエンジン，小麦収穫機

(ニ) 工場施設

a．ブドウ酒醸造工場（コルメニータ）

（建物2棟，樽27本，その他
年間　22万リットル）

b．繰絹工場

（建物1棟，繰絹機
年間　17万キログラム）

（注）　ブドウ酒醸造工場の運営は特別出資により行う。

利益配当は　５０％は償却積立

１８％は出資金に積立

３２％は現金として組合員に比率により配当

チ．営農状況

(イ)　永年作物

主なる永年作物はブドウで，その植栽面積は５２ヘクタールであるが，最盛期に達しているものは$\frac{2}{3}$位と思われる。

その他柑橘，桃，梨等も有るが出荷する程の生産はない。

(ロ)　短期作物

筆頭にあげられるものは，棉花で，以下ポロット，玉ねぎ，落花生，小麦，馬鈴薯等をあげることが出来る，

(ハ)　組合員所有家畜

牛	５２８頭	（肉牛）
馬	１６２〃	（乗馬，耕馬）
豚	４１５〃	（油，肉豚）
鶏	2,４５０羽	

(ニ)　土地所有状況

耕作面積	７２７	ヘクタール
休閑地	６８４	〃
森林地	1,５４５	〃
草原牧野	７０５	〃
計	3,６６１	〃

（１戸平均耕作面積　１1.０ヘクタール）

（１９６４年８月実施の営農実態調査４０人分の平均）

(ホ) 1戸当り平均粗収入

230,630グアラニース

(ヘ) 1戸当り平均生活費

83,660 〃

(ト) 1戸当り平均営農費（含租税公課）

97,690 〃

リ．参考事項

(イ) 1962年度収穫状況表（組合員中74戸中の67戸分についての統計である）

種類	作付面積（ヘクタール）	収穫量（キログラム）	自家保有（キログラム）	販売額（グラニース）
ぶどう	31.0	64,120	—	641,200.—
小麦	74.0	48,300	29,630	121,355.—
玉ねぎ	75.0	262,500	—	2,415,000.—
馬鈴薯	45.0	151,600	—	1,485,680.—
落花生	56.0	84,800	10,800	592,000.—
棉	210.0	193,800	—	3,682,200.—
米	22.0	85,400	52,000	267,200.—
ポロット	187.0	93,030	6,140	1,042,680.—
マイス	83.0	97,900	88,300	34,200.—
その他	108.0	10,670	—	215,000.—
合計				10,496,575.—

(ロ) 最高級経営者の営農状況

a．（MO＝1938年5月入植，家族11人　稼働者2人）

土地所有面積　218.0ヘクタール

開墾済面積　　23.9ヘクタール

（普通畑17.9ヘクタール，樹園地（ブドー）3.0〃，その他3.0〃）

資　産　畜舎1棟（120㎡），収納舎2棟（144㎡）

動噴1台（4戸共同）

所有家畜　馬2頭，牛18頭，豚42頭，鶏30羽

収　入

農業収入(A)

葡　萄	1,200本（3ヘクタール）	10,972キログラム
ケナフ	3.0　ヘクタール	8,600　〃
稲	2.75　〃	9,100　〃
玉ネギ	1.2　〃	10,532　〃
馬鈴薯	0.2　〃	350　〃
マイス	3.0　〃	4,000　〃
落花生	1.0　〃	1,413　〃
棉	2.0　〃	1,510　〃
雑　豆	4.0　〃	6,000　〃
マンジョカ	3.5　〃	35,000　〃

現金収入

短期作	296,191グアラニース	414,373〃 (A)
永年作	70,182　〃	
畜　産	48,000　〃	

農外収入(B)

給　料　21,000　〃

（謝　金）

自家保有	食糧	70,770 クラニース	117,570 〃
（評価）	飼料	46,800 〃	

支出

家計費(C)

主食 副食調味料	34,100 〃	
被服	27,200 〃	
教育	40,400 〃	（弟1人医大予備校に通学）
医療	6,800 〃	
その他	27,600 〃	
計	136,100 〃	

営農費(D)

伐開	0 クアラニース
人夫	178,350 〃
農約肥料	17,800 〃
材料	28,000 〃
飼料	5,000 〃
その他	18,000 〃
計	247,150 〃
諸負担 租税公課(E)	29,504 クアラニース

差引余剰 （A＋B）－（C＋D＋E）＝22,619 クアラニース

b．（MG＝1937年8月入植，家族10人，稼働者3人）

土地所有面積　60.0ヘクタール

開墾済 〃　17.35 〃

（普通畑13.35ヘクタール，樹園地（ブドウ）4.0〃）

資　　産　　収納舎2棟（132㎡）

　　　　　　動噴¼台（4戸協同）

所有家畜　　馬1頭，牛4頭，豚10頭，鶏70羽

収　　入

農業収入(A)

葡　萄	1,600本（4ヘクタール）	
玉ネギ	2.3ヘクタール	32,786キログラム
馬鈴薯	1.1　〃	3,941　〃
マイス	2.0　〃	800　〃
落花生	0.25　〃	300　〃
棉	4.5　〃	2,775　〃
雑　豆	2.0　〃	1,947　〃
マンジョカ	1.2　〃	12,000　〃

現金収入

短期作	294,243グアラニース	389,249〃 (A)
永年作	94,006　〃	
畜　産	1,000　〃	

農外収入(B)　　0　〃

自家保有（評価）	食　糧	22,000グアラニース	35,200〃
	飼　料	13,200　〃	

支　　出

家計費(C)

主　食	33,800グアラニース
副食調味料	

被服	19,210	グアラニース
教育	14,690	〃
医療	5,650	〃
その他	39,650	〃
計	113,000	〃

営農費(D)

伐開	0	グアラニース
人夫	101,000	〃
農業肥料	25,000	〃
材料	55,000	〃
飼料	2,000	〃
その他	28,300	〃
計	211,300	〃

諸負担 租税公課(E) 24,136 グアラニース

差引余剰 (A+B)−(C+D+E)=40,813 グアラニース

(ハ) 融資貸付状況

(1963年3月現在，単位 グアラニース)

種類	貸付額	貸付残額	備考
長期営農資金	1,047,500	874,500.82	2 件
短期 〃	1,116,000	0	2 件 (完済)
団体設備資金	3,448,304.40	1,333,528.86	4 件 (内1件完済)
団体運転資金	567,000	567,000	1 件
計 (1人当り平均)	6,178,804.40 (78,212.71)	2,775,029.68 (35,126.96)	9 件 (内3件完済)

ラ・コルメナ農業協同組合貸借対照表

1964年7月31日現在　単位 %

資産の部		負債資本の部	
勘定科目	金額	勘定科目	金額
資本金未払金		資本金	
資本金未払金	1,060,710.68	資本金申込金	4,345,000.00
固定資産		法定積立金	
土地建物	2,535,372.76	準備積立金	257,683.44
備品什器	301,730.01	株金払戻積立金	242,786.63
機械器具	1,150,807.70	厚生積立金	25,210.51
醸造器具	850,783.21	償却積立金(為替差)	473,187.42
車輌	619,156.38	信用部積立金	60,858.29
	5,457,850.06		1,059,726.29
現金及預金		諸積立金	
現金及預金	1,098,761.87	共済資金積立金	31,704.00
貸付金		退職給与積立金	12,350.00
貸付金	2,334,759.34	15周年誌発刊積立金	42,296.15
生産物及商品		ボーナス支払保留	45,000.00
醸造部	2,134,350.00		131,350.15
ピーノ	294,000.00	借入金	
綿桿部	993,089.50	借入金	5,081,655.09
棉花部	60,375.00	預り金	
購買部	1,167,104.10	預り金	2,229,413.10
精米精粉	6,320.00	諸勘定	
運輸部	5,259.00	諸勘定	1,785,801.98
トラクトール部	14,876.00		
ブドウ園	32,493.55	剰余金	691,846.08
ピーノ容器	46,200.00		
空袋	139,354.00		
ア市自動車部	1,488.00		
ピーノ(ア市)	223,751.14		
容器(ア市)	76,670.00		
農産物(ア市)	2,246.00		
	5,197,566.29		
当座勘定			
組合費外(ア市)	175,144.45		
計	15,324,792.69	計	15,324,792.69

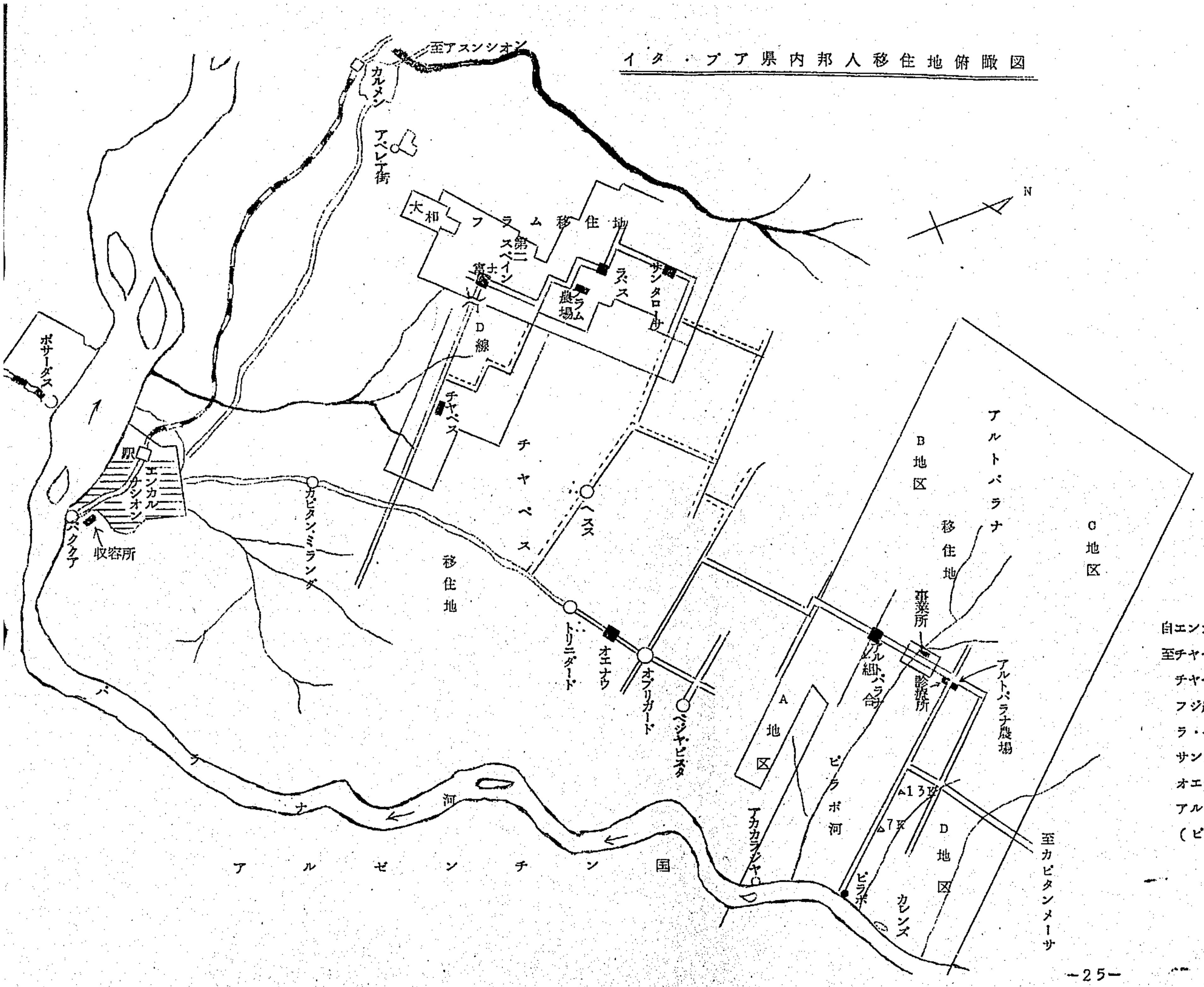
ラ・コルメナ農業協同組合損益計算書

自　1963年8月　1日
至　1964年7月31日

単位　%

損失の部		利益の部	
勘定科目	金額	勘定科目	金額
本部		ビーノ部	532,506.00
業務担当費	346,093.87	醸造部	151,535.05
俸給給与	611,306.00	棉花部	73,016.58
プレビシオン・ソシアル	79,470.23	繰棉部	368,259.79
諸雑費	164,411.42	種子部	136,184.05
旅費	90,039.94	雑穀部	65,628.96
予備費	12,524.00	疏菜部	26,007.79
借入金利子	325,282.67	購買部	672,353.83
信用部支払利子	68,390.68	運輸部	96,255.00
建物機械維持費	13,589.00	トラクトール部	72,036.10
育英費	10,250.00	糈米精粉	23,191.65
退職給与金	15,000.00	ビーノア市販売部	689,321.34
小麦試験場	1,700.00	農産物販売部	169,757.75
火災保険	34,332.40		
アスンシオン市販売所	—		
業務担当費	214,899.04		
俸給給与	250,985.00		
プレビシオンソシアル	32,209.56		
諸雑費	70,594.00		
予備費	485.00		
旅費	3,840.00		
宣伝費	38,805.00		
剰余金	691,846.08		
合計	3,076,053.89		3,076,053.89

イタ・プア県内邦人移住地俯瞰図



自エンカルナシオン

至チャベスD線入口	20	Km
チャベス農場	26	〃
フジ農場	40	〃
ラ・パス農場	50	〃
サンタロサ農場	60	〃
オエナウ市	40	〃
アルトパラナ移住地（ピラポ市街地）	85	〃

2. チャベス(CHAVES)移住地

① 移住地の創設

チャベス移住地は，1953年パ国貧民救済事業の一環として農業改良局(Instituto de Reforma Agraria = I.R.A.)管理のもとに創設されたもので，時の大統領の名前を記念して，CHAVES移住地と命名したものである。所属自治区はカピタン・ミランダ郡。

移住地の総面積は，約8万ヘクタールで，1ロッテの面積は，20乃至25ヘクタール(奥地へ入ると面積がふえる)である。

② 入植の経緯

日本人移住者の当移住地に対しての入植の経緯は，1952年(昭和27年)有限責任ブラジル拓植組合が，ラ・コルメーナ移住地に邦人120世帯導入の枠を取得したが，入植適地が殆んど無かつた為受入れ不能の状態であつた。

当時，在パの笠松，石橋，日沖氏等は，この状態の打開を兼ねて，当チャベス移住地に邦人を導入すべく，引受機関として「日芭拓植組合」を設立し，併行して120家族(各戸当り20ヘクタール)受入れの枠を取得した。

そこで先ず第一陣として1953年に，ラ・コルメーナより邦人8家族が転住した。その後，1954年(昭和29年)に日本からの第一陣6家族を受入れ，以来1956年まで，前後9回に亘り，110家族が入植した。以上の様な経緯の為，この地区は，他のフラム，アルト・パラナ等の移住事業団造成の移住地と異り，日芭混合の植民地である。

③ チャベス農業協同組合

イ．設立の経緯

１９５６年８月（昭和３１年）邦人入植者３４戸をもつて任意組合を結成したが，１９５８年に至り，法定組合として正式に認可を取付けた。

当時の組合員６４名，その後一時組合員数約１００戸となつたが，組合指定農産物横流し等のため，約６０％の離脱者ないし除名者を出し，わずか４１戸の小組合となつた。又，一時イタプア農協連（後述）から脱退する等，若干の混乱を経て今日に至つている。

現在の組合員数４５戸（内パ国人３名）。

ロ．組合の認可年月日

１９５８年７月１８日

ハ．組合の事業区面積（別添図面参照）

チヤベス移住地約８0,０００ヘクタールの内，邦人関係は国道西側約１6,０００ヘクタールの中である。

ニ．組合員数

４５戸（内３戸パ国人）（２４７名）

ホ．組合の役員数

理　事　　７名（任期２年）専務理事常勤。

監　事　　３名（任期３年，毎年１名ずつ改選）。

ヘ．出　資　金

(イ)　１口　４0,5００グアラニース。

内訳：加入即時金　１5,０００グアラニースの３０パーセント。

（約5,０００.－グアラニース）。

加入年度内に，１5,０００グアラニースより３０パーセントを差引いた金額を納める。

残は，指定農産物代金の４パーセントを目標額に達するま

で積立てる。

(ロ) 組合の目標額　1,984,500グアラニース

(ハ) 既支払込出資額　765,570.53 〃

(1964年2月末日現在)

ト．組合の資産

(イ) 建　物　職員宿舎　2棟

(ロ) 車　輌　トラック　1台(いすゞ6屯車)

(ハ) 機械類　トラクター　1台

チ．営農状況(組合員のみ)

(イ) 1963年度までの永年作物植栽面積

年次別／種類	年次別							
	57年(8年生)	58年(7年生)	59年(6年生)	60年(5年生)	61年(4年生)	62年(3年生)	63年(2年生)	計
油　桐	58.5	15.5	9._	35.5	95._	63._	113.5	390._
マテ茶	—	—	23.5	7.6	3.5	1._	—	35.6
柑　橘	—	—	7.6	2.3	6._	24.2	2.4	42.5
ポメロ	—	—	5._	6.2	3.5	8._	1.6	24.3

(単位ヘクタール)

(注) a．1964年度には100ヘクタール(組合員)の油桐作付が計画されている。

b．チャベス移住地には，前表数字の約2倍の永作物が組合員外の邦人(80家族)により作付されている。

(ロ) 1963年度末所有家畜数

牛　63頭 (役牛34，乳牛29)

馬　　47頭　（耕馬，乗馬）

豚　　263頭　（油豚，肉豚）

鶏　1,018羽

(ハ)　1963年度作付耕地総面積

756.5ヘクタール（1戸平均　18ヘクタール）

(ニ)　1戸当り平均粗収入（農業収入のみ）

142,300グアラニース

(ホ)　1戸当り平均生活費　　55,300グアラニース

(ヘ)　〃〃　　営農費　　71,700　〃

リ．参考事項

(イ)　1963年度作付（短期）面積　（単位ヘクタール）

マイス	230.2	ヘクタール
大豆	250._	〃
棉花	48.6	〃
雑豆	104.9	〃
米	10.7	〃
その他	62.3	〃
合計	706.7	〃

（注）　特色　その他作物62.3ヘクタールは，トマト，人参，キャベツ等都市向け蔬菜が主である。

(ロ)　1963年度組合員総収入および総支出明細。

◎（収入）	マイス	274,200	グアラニース
	大豆	1,463,245	〃
	棉花	533,150	〃
	雑豆	310,550	〃

その他（米も含む）	2,129,400グアラニース	
油　桐	1,243,983	〃
ポメロ	36,812	〃
ジエルバ	2,100	〃
農業収入合計	5,991,340グアラニース	
農外収入	794,000	〃
（給料，年金，機械賃貸料他）		
農家総収入	6,785,340グアラニース	

◎（支出）

生活費	2,323,340グアラニース	
営農費	3,013,165	〃
支出合計	5,336,505グアラニース	

（注）組合分担金，学校協力費，その他の支出は，農外支出にて差引いている。

ハ．最高級所得者の営農状況

（A氏　稼働者　4人　1955年8月入植）

耕地所有面積　47ヘクタール（永年作24　短期作39.3　1部間作）

◎　農業収入（組合を通じた農産物のみを記載）

永年作物	油　桐	59,100グアラニース	
	マテ茶	2,100	〃
	ポメロ	12,000	〃
短期作物	マイス	18,000	〃
	大　豆	91,300	〃
	棉　花	72,600	〃
	雑　豆	11,700	〃

その他　141,000グアラニース

農業収入合計　407,800グアラニース

農外収入　21,000　〃

収入合計…Ⓐ　428,800グアラニース

◎ 支　出　営農費　275,000グアラニース

生活費　101,000　〃

その他支出　4,400　〃

支出合計…Ⓑ　380,400グアラニース

◎ 差引余剰　Ⓐ−Ⓑ＝　48,400グアラニース

(二) 融資貸付状況　（単位グアラニース）

	使途別貸付金	貸付年月日	貸付金額	備考
チャペス農協	永年作・家畜導入資金	1959. 3. 31	1,000,000	
	油桐マテ茶増植資金	1961. 12. 14	327,000.	
	トラクター購入資金	1961. 12. 21	412,650	
	短期営農資金	1963. 9. 6	800,000	
	大豆再播資金	1963. 12. 24	63,000	
	トラック購入資金	1964. 5. 4	600,000	
	短期営農資金	1962. 11. 6	399,924	償還済
	合計		3,602,674	

チャベス農業協同組合貸借対照表

1964年2月29日現在

単位 %

資産の部		負債資本の部	
科目	金額	科目	金額
現金	137,372.73	預り金	577,325.97
銀行預金	4,893.87	定期預り金	30,000.00
連合会預金	357,473.07	借入金	1,814,546.89
売掛金	122,781.94	買掛金	55,260.00
立替金	103,626,57	仮受金	72,560.00
前渡金	380,500.00	前受金	632,500.00
貸付金	1,262,520.00	助成金	160,000.00
仮払金	137,811.00	減価償却引当金	685,773.65
繰越商品	247,634.35	出資金	1,984,500.00
未収金	354,447.83	当期利益金	6,489.82
系統機関出資金	216,529.15		
繰越損失金	137,124.25		
備品	50,728.00		
建物	255,667.10		
車輛	655,160.00		
機械器具	330,120.00		
前払用品費	15,000.00		
前払消耗備品費	2,772.00		
前払修理費	22,580.00		
土地	5,285.00		
未払込み出資金	1,218,929.47		
合計	6,018,956.33	合計	6,018,956.33

チャベス農業協同組合損益計算表

自　1963年3月　1日
至　1964年2月29日

単位　%s

損失の部		利益の部	
科目	金額	科目	金額
仕入	1,827,797.16	売上	1,571,554.46
会議費	5,708.00	支部売上	450,287.84
役員報酬	108,700.00	受取運賃	276,251.49
給料	208,800.00	受取手数料	132,446.99
諸手当	65,525.00	受取利息	148,649.98
法定福利	28,913.72	人件費助成費	22,950.00
支所家賃	6,000.00	組合員負担金	112,800.00
旅費	24,340.00	雑収入	102,515.95
交通費	11,145.00	固定資産処分益	7,865.00
用品費	16,070.00	為替差益	52,270.00
消耗備品費	8,824.00		
消耗品費	4,241.00		
通信費	307.00		
光熱費	2,326.00		
燃料費	63,230.60		
修理費	146,646.00		
交際接待費	21,135.00		
指導育成費	1,810.00		
非経済援助費	2,164.00		
図書費	100.00		
諸税公課	3,990.00		
支払運賃	9,177.51		
支払手数料	195.77		
支払利息	91,592.44		
減耗損失	20,664.09		
減価償却費	140,785.10		
施設費	1,945.00		
予備費	994.50		
雑費	8,975.00		
連合会負担金	30,000.00		
厚生費	9,000.00		
当期利益金	6,489.82		
合計	2,877,591.71	合計	2,877,591.71

④ 教　育

イ．パ国教育

(イ) 小学校生徒数

国籍＼学年	1年			2年			3年			4年			5年			6年			計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
日本人	8	9	17	11	3	14	9	4	13	5	6	11	4	4	8	3	1	4	67
パ国人	49	46	95	47	31	78	37	17	54	16	23	39	13	10	23	8	3	11	300
計	57	55	112	58	34	92	46	21	67	21	29	50	17	14	31	11	4	15	367

（注）　a．本統計はチャベス中央校（ニッポ・パラグアシヤ）およびウルグアイ小学校の補助金建築２校のみのものである。

b．ウルグアイ小学校は分校的な学校で４年までである。

c．この他に日本人子弟２０名位が他の小学校に通学している。

(ロ) 教　師

ニッポ・パラグアシヤ校　　１級２名，５級１名，７級１名

ウルグアイ校　　４級１名，５級１名

ロ．日本語教育

(イ) ニッポ・パラグアシヤ校

a．生徒数

性別＼学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
男子	7	11	9	3	4	3	37
女子	6	4	2	5	4	1	22
計	13	15	11	8	8	4	59

b．教　師　根本和昌　北山　猛

c．教　課　国語

(ロ) ウルグアイ校

a．生徒数

性別＼学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
男子	3	2	3	1	—	—	9
女子	4	3	3	1	—	—	11
計	7	5	6	2	—	—	20

b．教　師　加藤幸太郎

c．教　課　国語

⑤ 治安

イ．警察

管轄としては，地区を二分（E線）して，ヘスス警察とカピタン・ミランダ警察が，治安の任にあたつて居る。カピタン・ミランダ管轄には，派出所（D線添農協隣）が設置されている。コミサリオ他兵隊3名。

ロ．判事

カピタン・ミランダ判事事務所に所属

⑥ 地域内に在る事業団建築の施設

イ．小学校　2棟（木造，中央校，ウルグアイ校，各1校）

なお，39年度中に中央校に，煉瓦建1棟および教員住宅1棟を建築する。

ロ．倉庫　1棟（農協事務所，販売所，物品倉庫として利用）

3. フラム（FRAM）移住地

① 移住地の創設

フラム移住地は，旧移住振興会社（１９５５年発足）が，１９５６年にフラム土地会社の所有地の内から，１５,７３０ヘクタール（実測の結果１６,０５７ヘクタール）を分割購入し，造成した移住地である。現在フラム市（自治区＝市役所アベレア）に所属している。フラム移住地と称しているなかには，旧移住振興会社により造成された部分の他一部直接フラム土地会社より分譲を受けたものも含まれている。

② 入植の経緯

１９５５年（昭和３０年）に，フラム土地会社の分譲地（１ロッテ５０ha）に６家族入植したのが始まりである。当初の頃しばらくは，カルメン・アベレアを経由して入植が続いた。これ等のうち一部は，アベレア地方のロシア人移住者の古い耕地を入手し落着いたものもある。

その後，１９５６年末には，広島県の沼隈町を中心とした分村移住，更に１９５７年には，高知県大正町を中心とした分村移住が行なわれ間もなく満植となつた。これ等の入植者は，それぞれ地域別に，富士，ラ・パス，サンタ・ローサの三農業協同組合を結成し，今日に至つている。

③ 造　成

イ．本移住地は，旧移住振興会社の発足と同時に買収し，また時を同じくして入植が開始された。

従つて造成完了後分譲（入植）するという時間的余裕がないまま入植が併行して行なわれたものである。

なお，分譲価格を極度に低くおさえなければならなかつたため，重機械による造成が出来なかつた。そのため引続き買収造成した，アル

ト・パラナ移住地に比し道路等は相当劣悪の状態であつた。

ロ．市　街　地

当初移住地のほぼ中央に市街地を予定したが，その土地は取得出来なかつた。

そのため一応（I・R・Aに対し届出上必要）現サンタ・ロサ組合事務所所在地のカンポを市街地（図面上）とした。ただし実際的には何等市街地としての造成も行なわず，公共的施設は各地に分散建設されていつた。

最近にいたり，同移住地の総合的発展のため早急に市街地の造成が必要とされるようになつた。このため事業団としては本年度予算であらためて市街地の適地調査を行なうことになつた（8月現在2ケ所の調査結果を本部あて提出済）。

（注）　なお，この市街地調査にあたつては，新規の移住地と異なり，既に満植の移住地であるため，無条件に最適地を選定することは困難である。然し㋑移住地のほぼ中央にあること，㋺相当面積がまとまつて残つていること，㋩飲料水が充分であること，㋥そのための追加買収は考えられないこと，等の最低条件をみたす必要があつた。

市街地決定後は，早期に次の公共的施設の建築が予定されている。

市役所（総合事務所）10舎，判事事務所，郵便局，中学校，病院，新・旧キリスト教会等

ハ．ロツテの分譲

本移住地は，前記のようにすでに満植で，新規の入植は行なつていない。

ただし地区内に現在約100ロツテ（造成606ロツテ中）の未

分譲地があるが，　地形 地味等からみて必ずしも芳しい状況ではない。従つて今後速かに市街地，その他公共的施設の建築用地等決定のうえ残地については，近傍類似の価格等を考慮し，適正な価格に調整のうえ，既入植者の増地として分譲する予定。

◎　現在迄の分譲価格（１ロツテ２５ヘクタール）

(イ)　旧価格　（１ヘクタール当り原価　１４.７８弗）

一括払　　１３３,０００円（３６９.４５弗）

分割払　　１５５,６４０〃（４３２.４４弗）

（頭金７２,０００円以下１０価格と同様）

④　移住地内（含エンカルナシオン市）の事業団機関（施設）

イ．エンカルナシオン事業所

主としてチヤベス，フラム植民地の定着ならびに営農指導の任にあたることになつているが，その他アルト・パラナ，イグアスー等他植民地入植者の受入れ業務も行なうため，エンカルナシオン市内パククアの収容所に同居している。

◎　関係施設等

(イ)　車　輌　　（ジープ４台

（　〃　１〃（嘱託歯科医に貸与）

グレーダー１台（アルト・パラナ事業所に一時保管）

○この他トラック５台（うち２台イタプア農協連，１台富士，１台サンタ・ロサ組合貸与。１台はニツポニヤ　へスクールバスとして貸与）

(ロ)　収容所　　（場所パククア，敷地２ヘクタール）

収容能力　　１２０人（ベツト数）

建　坪　　約１,９００平方メートル

○　現在はフラム中学校仮校舎として一部利用中。

(ハ)　倉　庫　　第1倉庫は建坪592平方メートルで市内目抜きに建築されイタプア農協連（別途説明）と賃貸し，同農協連の事務所および倉庫として利用中，

第2倉庫は建坪834.62平方メートルでパクク ア収容所に隣接して建築されイタプア農協連と賃貸契約が約束され目下手続中。

ロ．フラム種畜牧場

(イ)　1957年（昭和32年）3月，主としてチヤベス，フラム両移住地の営農指導を目的とし，併せて作物栽培試験，種苗の配布等を行なうため，ラ・パス地域内の5号線Q線の交叉点附近に総面積約200ヘクタールの「フラム試験農場」が開設された。

(ロ)　その後1961年（昭和36年）アルト・パラナ移住地内に新たに農場が設立されるにおよび，当フラム農場は，従来ややもすれば作物一辺倒であつた移住者の営農形態を，所謂有畜農業形態に改変すべく，"畜産指導の基地"として，畜産専門の職員を配属（1963年）し，種畜の配布，畜産の指導に重点をおくことになつた。

なお，40年度よりは完全な種畜牧場として運営すべく検討中。

(ハ)　圃場の利用状況

a．現在の牧場面積　　60ヘクタール

（内）　造成牧野　　20　〃

林間放牧地（油桐）　11　〃

b．所有家畜　　17頭（サンタ・ゲルトルーデス）

（内訳）　雄　　4〃

雌　　13〃

(ニ) 主なる施設物

事務所本館（木造一部二階，144㎡）　1棟

職員宿舎（木造，51.25㎡）　1〃

畜　舎（木造，36㎡）　1〃

その他　宿舎兼炊事場，種子庫（煉瓦建），収納舎，車庫，

農具舎，鶏舎，浴場（煉瓦建）等有り。

(ホ) 車　輛　類

トラック（トヨタ6屯），ジープ，トラクター，各1台を常備

(ヘ) そ　の　他

獣医関係器具一式，無電機

ハ．フラム診療所

現在フラム農場用地内に木造平屋建（建坪165平方米）の事業団直営診療所が開設されている。

この診療所は，1960年3月より産婦人科兼外科の医師（野口医師）に委託運営して来たが，事業団移行とともに直営に切替え，診療費も実費を立前に運営している。

なお，昨年より，毎週1回現地人歯科医師をエンカルナシオン市から派遣し（嘱託）歯科診療に従事せしめている。

現在常駐医師としては，産婦人科兼外科医1名であり，入院も可能であるが，特に重症患者については，エンカルナシオン慈善病院と提携し，殆んど無料に近い診療費で，入院出来ることになつている。

病院の規模

病棟（木造）　1棟

病室　4　ベット8

主な医療機械器具類

レントゲン機械	1式
手 術 台	1台
外科手術機械	1式
シンメルブッシュ蒸汽滅菌器	1組
産婦人科応診要具	1式
その他	

車 輌 類

ジープ（トヨタ）	1台

従 業 員

看護婦3名，事務員1名，炊事婦1名

⑤ 参　考

◎ フラム中学校

イ．1963年度においてフラム植民地内に，中学校の設立が認められ（6年制の予定），3月より開校した。この中学校はパ国予算の都合で，本年度は一応私立として発足したが，来年度（1965年度）からは国立に移管される予定である。

校舎は敷地選定，建築等の都合上昭和40年度に建築することに延期した。なお，その間はエンカルナシオン市内パククアの事業団収容所を一時仮校舎として使用している。

生徒は全員収容所内に寄宿。

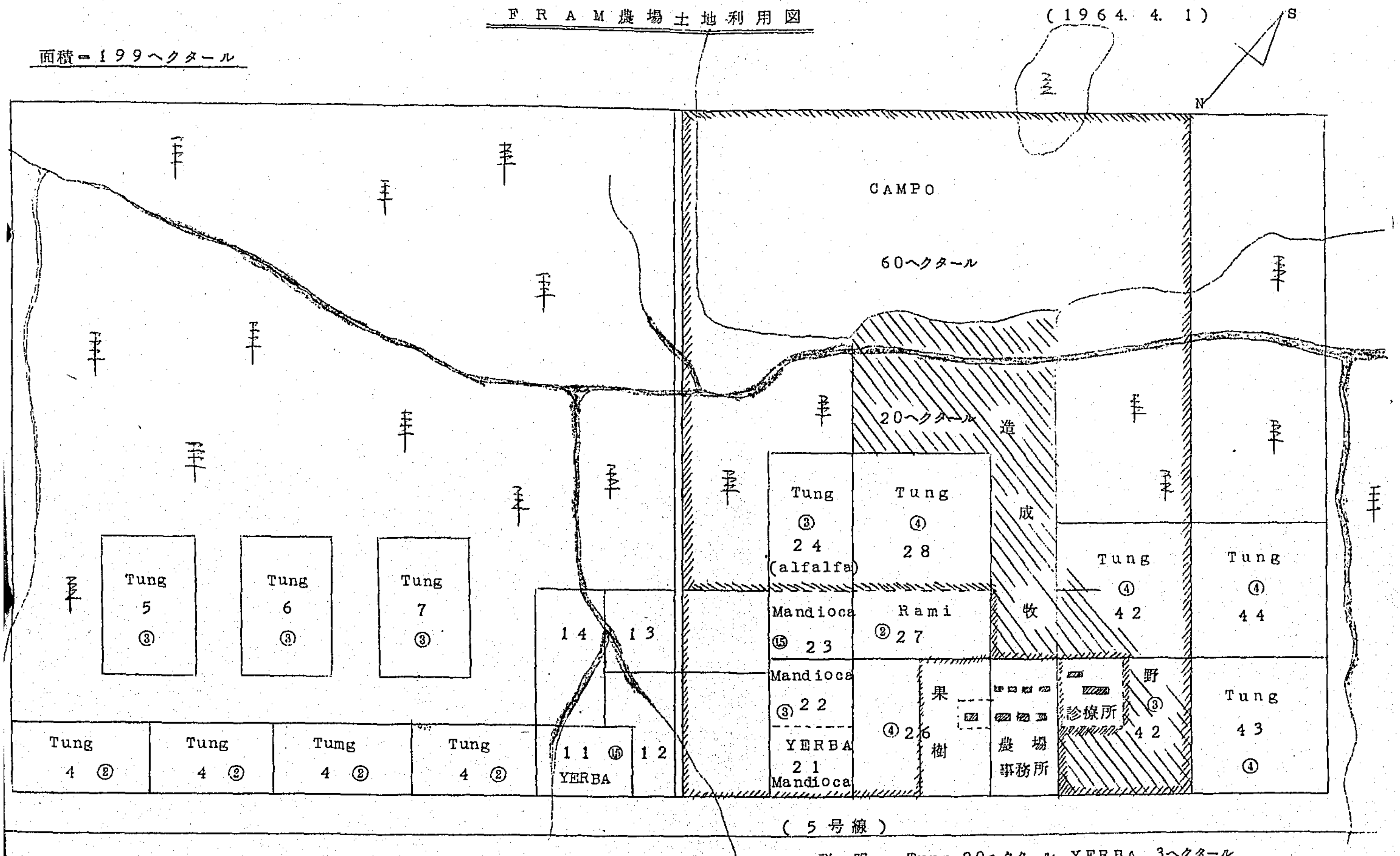
（注） a．パ国の年度は3月より始まり翌年2月に終るため，日本の予算年度と1ケ月ずれが有る。

従つて現在入学している生徒は3月に入学したものであるが全員1年生である。

ＦＲＡＭ農場土地利用図

（1964. 4. 1）

面積＝199ヘクタール



説明　Tung 20ヘクタール，YERBA 3ヘクタール

造成牧野　20ヘクタール（牛（サンタゲルトルーデス）♂4，♀13.）

‥‥‥‥　40年後拡張予定

b．パ国の中学校は，3年制と6年制があり，3年迄が日本の中学校に相当し（義務教育ではない），4年以上は高等学校に相当するものである。

c．校舎建設敷地はフラム市街地（目下調査中）を予定している。

ロ．生　徒　数

男子　5名（内1名パラグアイ国籍）

女子　5名

ハ．教　　師

専任　2名（内1名は校長兼務），時間講師　5名

ニ．教　　科（1年生のみ），週

課　目	時間数（週）	備　考	課　目	時間数（週）	備　考
スペイン語	5		音　楽	2	
数　学	6	パ国文部省の規定では週5時間であるが，本校は6時間	体　育	2	
			クラブ活動	2	
歴　史	3				
地　理	3		日本語	3	課外
理　科	3				
図　画	3				

ホ．主なる教材，備品

（教　材）

幻　灯　機　　1台（スライド付）

テープコーダー　1〃

顕　微　鏡　　1〃

地　球　儀　1台

実験器具類

書籍，辞典類

跳　　箱　1台

（備　品）

謄　写　版　　1式

机，椅　子　３４

戸　　棚　　４

黒　　板　１２

本　　棚　　８

テーブル　　６

寝　　具（マット，毛布）

食　器　類

⑥　富士農業協同組合

イ．設立の経緯

１９５６年１１月アペレア，大和地区の入植者を除く（アペレア，大和地区の者は，当時ラ・パス農協に加入した。）３６戸にて共同の経済的発展を企図して，任意組合を結成した。

１９５７年9月に至り，法定組合としての「富士農業協同組合」が認可された。認可時組合員数１０５戸，その後アペレア，大和地区の入植者も，ラ・パス組合より移り，１９６１年には一時１４０戸を数えたが，組合の運営の拙劣による経営不振，指定農産物の横流し等の為，脱退者，除名者が続出し，現在僅か７８戸を数える状況である。組合運営の下部機構として次の８実行組合がおかれている。

千代田，エスペランサ，セントラル，愛媛，新生，富士，大和，ア

ペレア。

ロ．認可年月日　　　1957年9月23日

ハ．組合の事業区域　（別添図面参照）

フラム土地会社の分を併せて68,400ヘクタール

ニ．組合員数　　78戸（485名）　1964年2月末日現在

ホ．組合の役員数　　理事　9名（任期2年）内専務理事を含め常勤理事3名。

監事　3名（任期2年）

ヘ．出　資　金

(イ)　1口　40,000グアラニース

内訳：加入時現金　　1,000グアラニース

残は指定農産物販売代金の6％を積立てる。

なお出資額21,000を越えた場合は4％を積立てる。

(ロ)　組合の目標額　3,198,000グアラニース

(ハ)　既払込出資額　1,044,263　〃

ト．組合の資産

(イ)	建　物	事　務　所	1棟	
		共同販売所	1〃	
		炊事場兼職員宿舎	1〃	
		車庫兼農機具舎	1〃	
(ロ)	車　輌	トラック	1台	（いすゞ6屯車）
		ジ　ー　プ	1〃	（トヨタ）
(ハ)	機　械	澱粉加工機	1〃	

(ニ)　他に事業団よりトラック（いすゞ6屯）1台の貸与をうけている。

チ．営農状況

(イ) 1963年度までの永年作物植栽面積

年　　次	種　類　別　(単位＝ヘクタール)			
	油　桐	マテ茶	ポメロ	その他
58年(7年生以上)	34.7	—	1.5	3.5
59年(　〃　)	12.2	8.1	7.	6.5
60年(　〃　)	19.5	19.	5.7	1.8
61年(　〃　)	172.3	16.7	14.3	5.6
62年(　〃　)	179.	4.	—	6
63年(　〃　)	197.	7.	—	
合　　計	614.7	54.8	28.5	26.9

(注) a．1964年度，油桐342ヘクタールを作付ける計画をもつ。

b．以上の他，地域内組合員外邦人(58戸)の油桐栽培面積は，組合員の半数の面積がある。

(ロ) 1963年度所有家畜数

牛　　133頭(主に肉牛であり，乳牛は約10頭)

馬　　133頭(耕馬，乗馬)

豚　　989頭(油，肉兼用)

鶏　3,258羽(肉用鶏)

(ハ) 1963年度耕地面積　　1,404ヘクタール

(1戸平均　18ヘクタール)

(ニ) 1戸当り平均粗収入　　97,100グアラニース

(農業収入のみ)

(ホ) 1戸当り平均生活費　　47,900グアラニース

(ヘ)　〃　営農費　　52,100　〃

リ．参考事項

(イ) 1963年度作付面積（単位ヘクタール）

マイス	631.8
大豆	436.8
棉花	194.4
雑豆	72.9
その他	56.7
合計	1,392.6

(ロ) 1962年度組合員総収入および総支出明細

◎ 収入（農業収入）

マイス	2,038,140	グアラニース
大豆	2,773,680	〃
棉花	1,464,840	〃
雑豆	272,220	〃
その他短期	540,930	〃
油桐	473,694	〃
マテ茶	12,000	〃
合計	7,575,504	グアラニース
（農外収入）	898,235	〃

（注） 上記農外収入は農外支出を差引いた純益を計上した。

農家収入合計	8,473,739	グアラニース

◎ 支出	生活費	3,736,200	グアラニース
	営農費	4,063,800	〃
	農家支出合計	7,800,000	〃

(ハ) 最高級所得者の営農状況　（1964年2月現在）

（S氏＝1958年9月入植　家族数8人，稼働者5人）

土地所有面積　88ヘクタール

開墾済面積　46　〃

所有家畜　牛3，馬1，豚21，鶏50

◎ 収入 (A)農業収入　324,000グアラニース

内訳 マイス　60,000　〃

大豆　140,000　〃

棉花　100,000　〃

雑豆　2,000　〃

その他　5,000　〃

油桐　5,000　〃

マテ茶　12,000　〃

（以上，農協を通じ販売したもののみ）

(B)農外収入　65,000グアラニース

◎ 支出 (C)営農費　162,500　〃

(D)生活費　83,500　〃

(E)農外支出（その他）　53,600　〃

差引余剰　（A＋B）－（C＋D＋E）＝89,400グアラニース

(一) 融資貸付状況　（単位 グアラニース）

	使途別貸付金	貸付年月日	貸付金額	備考
富士農協	永年作家畜導入資金	1959. 3.31	2,150,000.__	
	ジープ購入資金	1958. 9.24	244,650.__	
	トラック購入資金	1958. 9. 9	455,003.78	
	短期営農資金	1962.10.25	1,000,000.__	
	団体運転資金	1963. 5.25	500,000.__	
	大豆再播資金	1963.12.24	599,760.__	
	農機具購入資金	1964. 3.10	1,000,000.__	
	トラック購入資金	1964. 6.23	677,628.__	
	合計		6,627,041.78	

フジ農業協同組合貸借対照表

1964年2月29日現在

単位 $

借方（資産の部）		貸方（負債・資本の部）	
勘定科目	金額	勘定科目	金額
現金	160,669.__	預り金	66,55998
預金	41,511.__	当座借越	366,25423
未達現金	1,087,369.__	買掛金	13,550.__
立替金	151,56761	受託販売	1,410.__
雑誌代	7,828.__	未払金	256,122.10
仮払金	120,60756	前受金	341,213.__
未収金	296,201.76	仮受金	24,12750
前渡金	221,19736	定期預り金	2,099,600.__
売掛金	25,012.40	短期借入金	2,099,790.__
繰越商品	385,91820	未払込出資金	789,830.82
前払用品費	26,688.__	長期借入金	3,577,063.75
貯蔵品	67,160.__	資本金	3,198,000.__
農機具	24,000.__	資本金払戻引当金	81,22630
短期貸付金	1,830,434.11	減価償却引当金	253,870.62
未収道路工事立替金	92,86366	貸倒引当金	45,954.73
長期貸付金	1,278,900.__	為替差損引当金	12,000.__
土地	30,628.__	前期修正損益	12,899.025
建物	325,46660		
車輛	324,592.__		
機械	112,750.__		
備品	106,56250		
有価証券	1,000.__		
出資金	1,100,000.__		
未収資本金	2,153,737.25		
未収弁償金	284,19252		
欠損金補填分担金	9,833,147.05		
合計	11,239,472.055	合計	11,239,472.055

フジ農業協同組合損益計算書

自　1963年3月　1日
至　1964年2月29日
単位　$b

借方（損失之部）		貸方（利益之部）	
勘定科目	金額	勘定科目	金額
売上原価	2,150,672.38	売上	2,373,081.20
仕入運賃	40,405.14	仕入値引	44.—
仕入雑損	41.67	現金過不足	105.37
購買経費	15,030.—	販売手数料	34,761.45
販売経費	5,433.60	販売分担金	281,443.98
トラック燃料費	108,788.50	受取運賃	503,911.60
トラック修理費	44,389.50	荷役料	16,075.73
トラック支払運賃	51,583.74	トラック雑収入	890.—
トラック運転経費	16,324.—	使用料	56,024.—
トラック消耗部品	40,400.—	ジープ雑収入	500.—
トラック雑費	645.—	利用料	2,102.50
ジープ燃料費	50,615.—	受取手数料	24,786.25
ジープ修理費	34,723.—	受取利益	257,118.69
ジープ消耗部品	6,460.—	固定資産処分益	1,726.—
ジープ雑費	2,470.—	現金割引	285.—
動噴修理費	518.—	助成金	52,000.—
出張旅費	24,882.20	為替差益	214,022.—
交通費	18,385.—	雑収入	6,095.—
支払手数料	6,115.—	道路管理引当金	879.—
出務手当	27,950.—	未記入利益金	95,491.68
事務用品費	22,159.—		
役員報酬	186,200.—		
職員給料	159,600.—		
諸手当	75,381.—		
消耗備品費	11,760.—		
支払利息	438,582.58		
光熱費	9,083.50		
接待費	2,263.—		
会議費	11,890.—		
交際費	5,343.—		
事務用経費	4,778.—		
未収金回収費	300.—		
厚生費	19,480.—		
修繕費	430.—		
負担金	30,810.—		
貸倒引当金	28,714.73		
減価償却費	68,600.—		
為替差損金	12,000.—		
治安維持費	4,550.—		
雑支出	1,781.—		
法定福利費	8,326.50		
営農研究費	901.—		
退職手当	7,500.—		
未記入損失金	154,875.35		
合計	4,007,343.36	合計	4,007,343.36

⑦ ニッポニア(NIPONIA)町

イ．結成の経緯

富士農業協同組合は，過去における放慢な運営の為，相当な赤字を出し，現在再建途上にある。この事もあずかつて，従来他の農協と同様にあつかつていた非経済的業務（行政関係事務等）一切を切離した。この為，富士地域の全員（組合員，非組合員の別なし，但しアベレア地区は除外）で，非経済的業務を取扱う機関として，任意的自治団体「ニッポニア町」を結成した。

ロ．取扱業務

教育，治安，厚生，土木

諸手続等農協に属さない事項すべて。事務所は現在農協の倉庫内に置いている。

ハ．役　員　　町長（公選）

助役，収入役（兼書記）議会の同意を得て町長が任命。

ニ．議　員　　各区より1名選出（千代田，エスペランサ，セントラル，愛媛，新生，富士，大和の七区で，アベレアは地域的な関係で不参加。）

ホ．予　算　　各戸より分担金で徴収。

町費：各戸毎月20グアラニースの他，特別戸数割として各戸年間300グアラニース）

教育費：各戸毎月30グアラニースと児童1人に付毎月40グアラニース

治安費：各戸毎月45グアラニース

⑧ 教　　育

イ．パ国教育

(イ) 小学校生徒数

学年／国籍	1年			2年			3年			4年			5年			6年			合計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
日本人	8	8	16	13	3	16	10	14	24	14	18	32	8	12	20	13	9	22	130
パ国人	20	14	34	9	5	14	8	10	18	14	9	23	10	3	13	—	—	—	102
合計	28	22	50	22	8	30	18	24	42	28	27	55	18	15	33	13	9	22	232

（注） a．本地区は昨年度千代田，大和，富士の3校を統合し，本年度更にセントラル校を併合した。

b．通学は，事業団貸与の中古トラックをスクールバスとして利用。

c．この他，アペレア校，その他現地人小学校に通学している日本人子弟約30名と推定。

(ロ) 教　師　　1級2名，　4級2名

ロ．日本語教育

(イ) 生　徒　数

学年／性別	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
男子	4	8	3	8	—	2	25
女子	7	10	3	18	4	3	45
計	11	18	6	26	4	5	70

(ロ) 教　師　　石垣政美，　片岡亮一

(ハ) 教　課　　国語，スペイン語

⑨ 治　安

イ．警　察

従来の請願巡査に変り，大市に権限を有する警察学校出の有資格のコミサリオが，本年度より派遣され，治安の任にあたつている。

ロ．判　事

最近新たに，フラム移住地（主として日本人移住地）を，司法区とした判事が任命され，近く決定される市街地に常駐することになつている。この為，従来，手続には，アペレアまで行かなければならなかつた不便は解消される。

⑩ 地域内に在る事業団建築の施設。

イ．小学校　2棟（木造，旧富士校及び旧大和校の一部を移築）
ロ．教師住宅　1〃（木造，旧千代田校の一部を移築したもの）
ハ．公会堂　1〃（木造，旧大和，千代田校の半棟残置部分）
ニ．倉　庫　1〃（木造，農協所在地に購売品，販売品倉庫として利用）
ホ．なお，39年度中に煉瓦建校舎1棟，教員宿舎1棟，及び警察屯所1棟を建築する。

⑪ ラ・パス農業協同組合

イ．設立の経緯

1956年末より，広島県沼隈町の分町移住者第一陣が，アペレア経由入植した。（この経路は第三陣以後チャベス経由に変る。）

これ等の集団移住者57家族は，当初，備後開拓組合をつくつてあつたが同一地域及び若干離れてはいるが，アペレア，大和地区に入植した他県よりの入植者とも共同して，経済の発展をはかるべく協同組合を結成し，1957年末に法定組合として認可されるに至つた。その後，アペレア，大和地区の入植者が，地理的な関係等から離脱し富士組合に移つた。

又，一時組合の運営に関する意見の衝突等あり，十数名の除名者を出し混乱したが，現在は平穏にもどつている。

ロ．認可年月日　1957年12月25日

ハ．組合の事業面積　（別添図面参照）

約　3,000ヘクタール

ニ．組合員数　69戸（322名）……（組合員中には全然農業に従事していない世帯6戸有り）

ホ．組合の役員数　理事　7名（任期2年）

監事　3名（任期3年，毎年1名づつ改選する。）

ヘ．出資金

(イ)　1口　20,500グアラニース

内訳　加入時現金　500グアラニース

残は指定農産物販売代金の4%を積立てる。

(ロ)　組合の目標額　1,414,500　グアラニース

(ハ)　既払込出資金額　706,277.60　〃

ト．組合の資産

(イ)　建物　炊事場兼会議所　1棟

倉　庫　2棟（1棟農協，1棟は九州地区）

(ロ)　車輛　トラック　1台（いすゞ6屯車）

チ．営農状況（組合員のみ）

(イ)　1963年度までの永年作物植栽面積

年次	種類別（単位ヘクタール）			
	油桐	マテ茶	ポメロ	その他
59年（6年生）	6.__	—	—	—
60年（5〃）	25.__	35.__		
61年（4〃）	83.__			
62年（3〃）	150.7			
63年（2〃）	195.8			
合計	460.5	35		

（注） a．1964年度に組合員により175ヘクタールの油桐作付計画がある。

b．上表の外，地区内非組合員11戸分油桐約100ヘクタール，マテ茶約10ヘクタールがある。

(ロ) 1963年度末所有家畜数。

牛　41頭（主に肉，耕牛）

馬　57頭（耕馬，乗馬）

豚　388頭（油，肉）

鶏　1,200羽

(ハ) 1963年度作付耕地面積　1,085.6ヘクタール

（一戸平均15.7ヘクタール）

但し実際の営農従事者は61戸であり，その平均作付耕地面積は，17.8ヘクタールである。

(ニ) 一戸当り平均粗収入　104,000グアラニース

（組合取扱農産物のみ計上）

(ホ) 一戸当り平均生活費　45,300グアラニース

(ヘ) 一戸当り平均営農費　　　61,437グアラニース

リ．参考事項

(イ) 1963年度作付（短期）面積　（単位ヘクタール）

マイス	331
大豆	95
棉花	156
小麦	60
その他	130
合計	772ヘクタール

(ロ) 1963年度組合員総収入及び総支出明細

◎ 収入（農業収入）組合取扱農産物のみ計上。

	マイス	1,147,783グアラニース
	大豆	2,088,673　〃
	棉花	2,911,852　〃
	その他	200,099　〃
	合計	6,348,408グアラニース
	農外収入	1,021,433　〃
	農家総収入	7,369,841グアラニース
◎ 支出	生活費	2,765,374グアラニース
	営農費	3,747,667　〃
	農家総支出	6,513,041グアラニース

（注） 組合員は68名であるが実際の営農従事者は61名である。

(ハ) 最高級所得者の営農状況　（1964年2月末現在）

（M氏　1957年入植　家族8人　稼働力5人）

土地所有面積　50ヘクタール

開墾済面積　　　　４３ヘクタール

（収　入）　(A)農業収入　　　　４５８,４８０グアラニース

内訳　大　　豆　　　５２,２９０　〃

棉　　花　　３８４,７１０　〃

雑　　豆　　　１,５００　〃

米　　　　５,４００　〃

そ　の　他　　　９,０００　〃

油　　桐　　　５,５８０　〃

(B)農外収入　　　５,０００　〃

（支　出）　(C)営　農　費　　１３１,７００グアラニース

(D)生　活　費　　５８,２５０　〃

(E)農外支出　　１００,０００　〃

（土地を購入）

差引農家余剰

（Ａ＋Ｂ）－（Ｃ＋Ｄ＋Ｅ）＝１７３,５３０グアラニース

(二)　融資貸付状況　　　　（単位グアラニース）

	使途別貸付金	貸付年月日	貸付金額	備考
ラ・パス農協	永年作家畜導入資金	1959. 3.11	360,000._	
	農機具購入資金	1960. 2.12	761,000._	
	大豆脱穀機購入資金	1961. 9.26	168,000._	
	役畜導入資金	1961.12.20	500,000._	
	短期営農資金	1962.12. 5	600,000._	
	トラック購入資金	1963. 1.23	630,000._	
	短期営農資金	1963. 9. 6	727,650._	
	農機具購入資金	1963.10.16	853,398._	
	大豆再播資金	1963.12.24	299,880._	
	短期営農資金	1958. 4.26	450,000._	償還済
	トラック購入資金	1958. 9. 9	455,000.78	〃
	農地開発資金	1959. 8.17	250,000._	〃
	農地開発資金	1960. 9.22	500,000._	〃
	合計		6,554,931.78	

⑫ 教　育

イ．パ国教育

(イ) 小学校生徒数

国籍＼学年	1年			2年			3年			4年			5年			6年			合計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
日本人	6	4	10	3	5	8	9	6	15	8	5	13	8	4	12	7	7	14	72
パ国人	2	—	2	1	2	3	—	—	—	1	1	2	—	—	—	—	—	—	7
合計	8	4	12	4	7	11	9	6	15	9	6	15	8	4	12	7	7	14	79

（注） 第二小学校は現在廃校状態で全員第一小学校へ通学。

(ロ) 教　師　　1級2名，　5級1名

ロ．日本語教育

(イ) 生　徒　数

性別＼学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
男子	5	6	15	4	—	—	30
女子	1	10	10	5	—	—	26
合計	6	16	25	9	—	—	56

(ロ) 教　師　　溯政忠義，小田孝子，北川芳雄

(ハ) 教　課　　国語，算数

⑬ 治　安

(イ) 警　察　　ニッポニア町の場合と同様本年より有資格のコミサリオが配属になり，治安の任にあたつている。

(ロ) 判　事　　フラム植民地全体を司法区とする判事。（ニッポニア町と同様）。

⑭ 地域内に在る事業団建築の施設

イ．小学校　　2棟（木造，第一，第二小学校各1棟）

ロ．共同販売所　　1棟（木造，農協事務所，購売部として利用）

ハ．なお，39年度中に煉瓦建校舎1棟，教員住宅1棟建築のほか警察官宿舎兼屯所1棟建築等予定。

⑮ サンタ・ローサ農業協同組合

イ．設立の経緯

1957年，高知県大正町を中心とした集団入植者は，フラム移住地の最北端に入植すべくエンカルナシオンより国道を北上し，ヘスス街を経由して，現地点に入植した。これ等の21家族は任意組合フラム大正農業協同組合を設立した。その後，後続移住者の入植と同一地区に入植した他県のものを含め，1958年正式に「サンタ・ローサ農業協同組合」として法定組合の認可をうけ，今日に至つている。

なお，当初創つたフラム大正農業協同組合は，サンタ・ローサ農業協同組合設立と同時に解散した。

ロ．認可年月日　　1958年2月28日

ハ．組合の事業面積　（別添図面）

ニ．組合員数　　143戸（794名）

ホ．組合の役員数　　理事　10名（任期2年）

（専務理事常勤）

監事　3名（任期2年）

ヘ．出　資　金

(イ) 1口　41,000グアラニース（最高2口）

内訳　加入時現金　1,000グアラニース

残は指定農産物販売代金より4％の積立。

(ロ) 組合の目標額　　6,191,000　グアラニース

(ハ) 既払込出資金額　　2,550,035.29　〃

ト．組合の資産

(イ) 建　物　　組合事務所　　1棟

職員住宅　　2〃

炊　事　場　　1〃

職員住宅兼診療室　　1〃

倉　庫（販売）　　1〃

保安官駐在所　　1〃

支　所　　1〃

(ロ) 工　場　　マテ茶第一次加工工場　3棟

（処理能力　1日　生葉3トン）

(ハ) 車　輌　　トラック　　3台　（新車2，中古1，各6屯車）

ジープ　　2〃　（トレーラ付2）

(ニ) 他に事業団よりトラック（いすゞ6屯）1台の貸与をうけている

チ．営農状況　（組合員のみ）

(イ) 1963年度までの永年作物植栽面積

年次	種類別（単位ヘクタール）			
	油桐	マテ茶	ポメロ	その他
58年（7年生）	11.8	54.2	83.	
59年（6〃）	200	183.65	31.3	
60年（5〃）	74.7	90.2	25.1	
61年（4〃）	358.1	42.2	11.1	
62年（3〃）	346.2	31.1	17.7	
63年（2〃）	475.7	15.4	17.8	
合計	1,286.5	416.75	186.0	24.8

（注）　a．本年度（1964）作付計画は，油桐500ヘクタール
マテ茶30.5ヘクタール
その他71　ヘクタール

b．その他永年作物にブドウ，柑橘，桃，ペカン等がある。

(ロ)　1963年度末所有家畜数

牛　214頭（肉牛56，乳牛103，役牛55）

馬　105頭（車馬17，耕馬26，乗馬62）

豚　1,695頭（成豚842，仔豚853）

鶏　4,598羽（成鶏2,784，雛1,814）

(ハ)　1963年度作付耕地面積　3,233ヘクタール
（1戸平均22.6ヘクタール）

(ニ)　1戸当り平均粗収入　131,700グアラニース

(ホ)　〃　生活費　40,671　〃

(ヘ)　〃　営農費　73,728　〃

リ．参考事項

(イ)　1963年度作付（短期）面積　（単位ヘクタール）

マイス（一期）	680.2
〃　（二期）	35.2
大豆	1,713.4
棉花	230.5
雑豆	74.4
米	83.2
合計	2,816.9ヘクタール

(ロ)　1963年度組合員総収入および総支出明細

◎　収入　（農業収入）　単位グアラニース

マイス	2,084,550.56
大豆	10,416,834.77
棉花	4,065,722.50
雑豆	361,289.91
米	1,115,021.15
その他	52,128._
油桐	164,393.80
ポメロ	53,900._
豚油	115,819.18
生豚	409,707._
合計	18,839,366.87

（注） 当農協はマテ茶を生産しているが，価格の調整がつかず，販売を見合わして本年度に現物を持越している為収入なし。

（農外収入）	3,181,920._	グアラニース
農家総収入	22,021,286.87	

◎ 支 出

生活費	5,804,035.	グアラニース
営農費	10,543,144.	〃
運賃	1,254,828.	〃
販売手数料	837,787.	〃
土地代	1,832,526.	〃
出資積立金	833,292.	〃
合計	21,105,612.	グアラニース

(ハ) 最高級所得者の営農状況 （1964年2月末現在）

（J氏，1957年11月入植，家族10人，稼働力6人）

土地所有面積　　　　　　　　　585ヘクタール

開墾済面積　　　　　　　　　　75　〃

所有家畜　　馬1頭　豚55頭　鶏35羽

◎ 収　入

(A)農業収入　　　　　　　　737,876グアラニース

内　訳	マイス	12,000	グアラニース
	大　豆	630,376	〃
	棉　花	25,502	〃
	雑　豆	10,000	〃
	畜　産	60,000	〃
	（豚油，生豚）		

(B)農外収入　　　　　　　　40,000　〃

（注）　機械賃貸料，農産物搬送運賃収入他。

(C)生活費　　　　　　　　　94,800グアラニース

(D)営農費　　　　　　　　　441,058　〃

(E)土地代　　　　　　　　　168,000　〃

差引農家余剰　（A＋B）－（C＋D＋E）＝142,018グアラニース

(一)　融資貸付状況　　　　　　　（単位　グアラニース）

	使途別貸付金	貸付年月日	貸付金額	備　考
サンタ・ローサ農協	永年作・家畜導入資金	1959. 3.31	2,570,000. __	
	マテ茶乾燥工場建設資金	1962. 2.23	920,001.60	
	トラック購入資金	1962. 4.24	999,999. __	
	短期営農資金	1963. 9. 6	625,590. __	
	大豆再播資金	1963.12.24	441,000. __	償還済
	大豆作付資金	1963.10.31	945,000. __	償還済
	トラック購入資金	1958. 9. 9	455,003.78	〃
	農地開発資金	1959.10. 6	450,000. __	〃
	農地開発資金	1960. 9.30	500,000. __	〃
	短期営農資金	1962.11. 8	600,000. __	〃
	合　　計		8,506,594.78	

サンタ・ロサ農業協同組合貸借対照表

1964年2月25日現在
単位 G/s

資産の部		負債の部	
勘定科目	金額	勘定科目	金額
現金	224,054.21	当座貯金	656,977.48
売掛金	332,042.82	預金	99,479.77
立替金	1,451,033.82	定期預金	18,500.00
連合会貯金	17,116.88	買掛金	124,747.00
貸付金	6,266,326.72	仮受金	385,054.00
前渡金	441,955.00	借入金	6,251,190.00
仮払金	20,000.00	前受金	370,000.00
未払込出資金	3,260,626.14	委託販売代金	26,271.94
繰越商品	1,076,248.21	未払利息	23,305.00
未収組合助成金	37,500.00	未払修理費	3,459.00
未収委託代金	61,553.00	道路修理積立金	87,307.38
未収販売手数料		アランブレ設置補助金	
土地	51,202.60	貸倒損失引当金	40,009.2
建物	557,844.75	機械償却引当金	108,321.56
車輌	1,760,452.02	職員退職引当金	6,980.95
備品	118,947.25	車輌償却引当金	596,822.78
機械装置	236,119.43	購買損失引当金	3,938.00
連合会出資金	557,293.60	備品償却引当金	11,000.25
教育補助金	10,499.82	建物償却引当金	35,279.80
治安協力会		為替損失引当金	206,830.00
マテ茶二次加工倉庫	223,607.34	未払法定福利費	
委託販売引当金	466.12	未払手数料	
		出資金	6,191,000.00
		当期剰利益	581,108.90
合計	16,686,894.73	合計	16,686,894.73

サンタ・ロサ農業協同組合損益計算書

自　1963年3月　1日
至　1965年2月25日
単位　$

損失の部		利益の部	
勘定科目	金額	勘定科目	金額
仕入	5,960,183.79	売上	6,657,600.52
給与	550,274.13	受取手数料	744,630.91
旅費日当	79,810.50	受取利息	328,355.02
交際費	24,598.31	使用料	12,479.00
燃料費	450,320.10	雑収入	6,560.94
事務用品費	28,026.50	トラック運賃	1,254,827.83
修理費	226,638.00	組合助成金	48,000.00
支払利息	342,814.26	前期修正益	2,441.10
消耗品費	27,911.00		
通信費	11,364.00		
交通費	3,771.00		
支払手数料	49,362.00		
支払運賃	45,713.02		
指導助成金	30,360.80		
退職金	71,518.20		
雑損失	28,700.00		
棚卸減耗損	33,373.07		
雑費	10,628.94		
法定福利費	47,606.07		
会議費	45,870.50		
役員報酬	6,861.00		
治安維持費	132,700.00		
現金過不足	64,869.00		
諸手当	2,000.65		
負担金	77,245.58		
借用料	34,050.00		
区長手当	17,216.00		
当期荒利益	581,108.90		
合計	9,054,895.32	合計	9,054,895.32

⑯ 教　　育

イ．パ国教育

(イ) 小学校生徒数

国籍＼学年	1年			2年			3年			4年			5年			6年			合計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
日本人	10	5	15	16	15	31	19	11	30	10	13	23	6	8	14	3	6	9	122
パ国人	2	1	3	—	—	—	1	—	1	—	2	2	3	3	6	—	—	—	12
合　計	12	6	18	16	15	31	20	11	31	10	15	25	9	11	20	3	6	9	134

（注）　a．相当離れた場所にあつた第一，第二の両校を本年統合。

b．学童通学用として交付金によりスクルバスを購入貸与の予定。

（近日到着）

(ロ) 教　　師　　1級　1名　　4級　2名

ロ．日本語教育

(イ) 生徒数

性別＼学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
男　　子	16	17	17	20	11	9	90
女　　子	13	13	11	15	15	8	75
計	29	30	28	35	26	17	165

(ロ) 教　　師　　筒井　正，木棉一二三，久岡　寛

(ハ) 教　　課　　国語，算数，社会

⑰ 治　　安

イ．警　　察

ニッポニア町，ラ・パスと同じく本年より有資格コミサリオが配属に

なり，治安の任に当つている。

ロ．判　　事

ニッポニア町，ラ・パスと同様の判事。

⑱ 地域内に在る事業団建築の施設

イ．小学校　　2棟（木造，第一，第二校を移築しサンタ・ローサ小学校として利用　　として利用）

ロ．共同販売所　　1〃（木造，組合事務所，購売部として利用）

ハ．倉　庫　　1〃（木造）

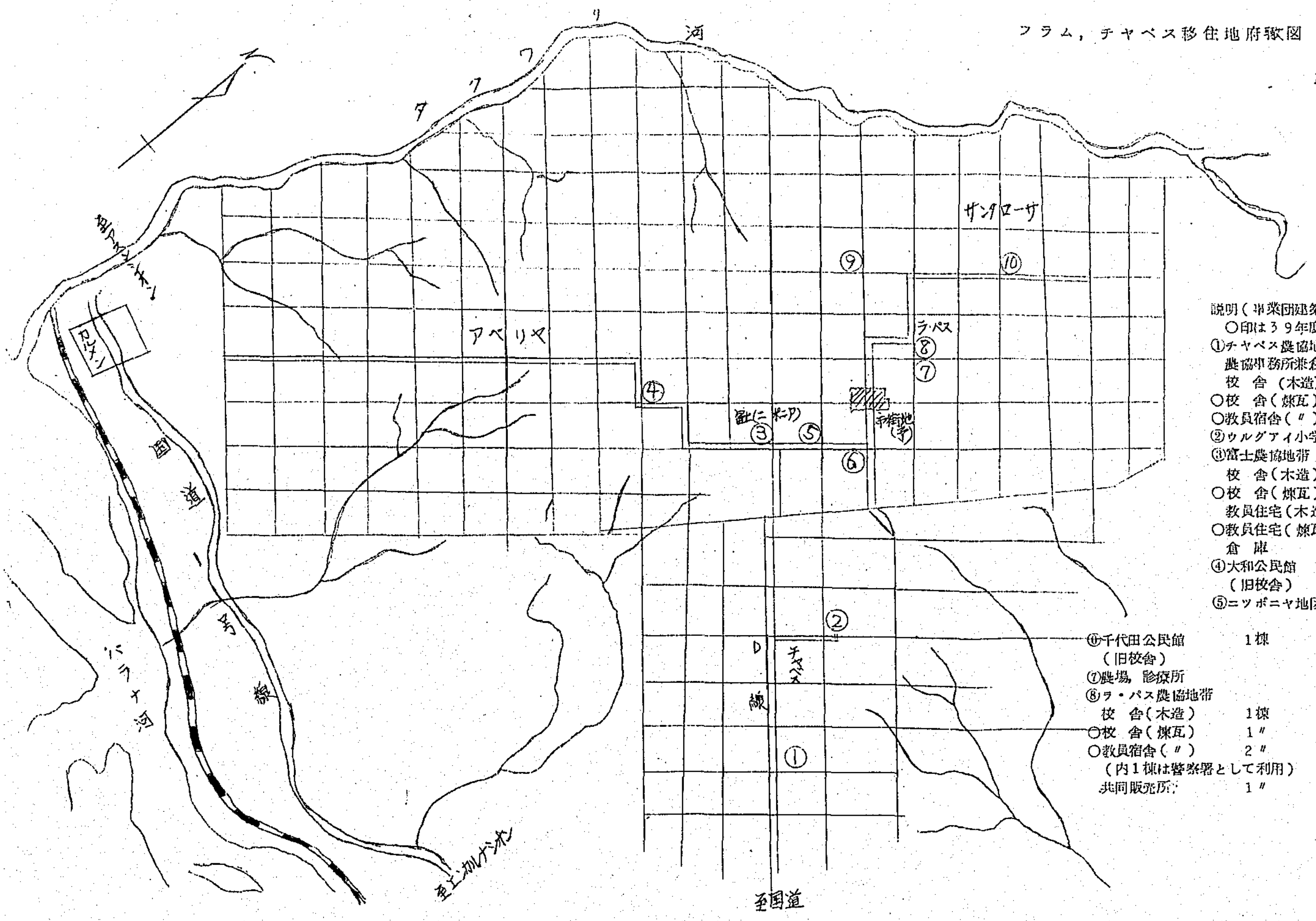
ニ．保安官駐在所　　半〃（木造，農協が半棟分負担）

ホ．マテ茶倉庫　　1〃（煉瓦）

ヘ．39年度中に煉瓦建小学校1棟，教員宿舎1棟および警察屯所を1棟建築。

フラム，チャベス移住地府瞰図

1：200,000



説明（事業団建築施設）
〇印は３９年度中に建築の予定

①チャベス農協地帯	
農協事務所兼倉庫	1棟
校　舎（木造）	1〃
〇校　舎（煉瓦）	1〃
〇教員宿舎（〃）	1〃
②ウルグアイ小学校	1〃
③富士農協地帯	
校　舎（木造）	2棟
〇校　舎（煉瓦）	1〃
教員住宅（木造）	1〃
〇教員住宅（煉瓦）	1〃
倉　庫	1〃
④大和公民館（旧校舎）	1〃
⑤ニッポニヤ地区警察署（煉瓦）	1〃
⑥千代田公民館（旧校舎）	1棟
⑦農場，診療所	
⑧ラ・パス農協地帯	
校　舎（木造）	1棟
〇校　舎（煉瓦）	1〃
〇教員宿舎（〃）（内1棟は警察署として利用）	2〃
共同販売所	1〃
⑨ラ・パス第2小学校	1棟
⑩サンタ・ロサ農協地帯	
校舎（木造）	2棟
〇校舎（煉瓦）	1〃
〇教員宿舎（〃）	1〃
共同販売所（木造）	1〃
倉庫（木造）	1〃
保安官駐在所	半〃
〇警察屯所（煉瓦）	1〃
マテ茶倉庫（〃）	1〃

他に地区内にマテ茶第１次加工場（融資）が３ヶ所に在る。

4. アルト・パラナ(ALTO PARANA)移住地

① 移住地の創設

イ．土地の取得

アルドパラナ移住地は，エンカルナシオン市の東北約８０キロメートルの地点を中心に，パラナ河にそつて巾約２０キロメートル長さ約４０キロメートルで，面積は８３,５８０ヘクタールの大集団移住地である。

当初１９５８年３月，事業団の前身である，日本海外移住振興会社が移住地の中核をなすピラポ地区約２２,０００ヘクタールをアルカストレ植民会社から購入したのをはじめとして，翌１９５９年６月にその東北側，カピタンメサ移住地よりのカーレンズ地区約４３,０００ヘクタールを２人の地主から，更に同年１０月西南側オブリガード移住地よりのアカカラジヤ地区１８,０００ヘクタールを５人の地主より購入し，あわせて「アルト・パラナ移住地」と称し，同年造成（１ロッテ３０ヘクタール）に着手した。

なお，この年１９５９年後半には，日パ移住協定が締結され，１９６０年から１９６４年までの５ヶ年間に邦人移住者2,０００世帯を入植せしめることになつた。

ロ．地形および土質

パラナ河より奥地に向いゆるやかな傾斜で高まり，地区内にはピラポ河およびマンドビジウ河の２河川が縦断し，さらにこれに小河川がそそぎ全体的に波状形の起伏をなしている。

標高はパラナ河沿岸の林森地帯で２００メートルといわれている。

土質は極めて良好で一般に「テーラロシヤ」と称される赤褐色粘土質土壌である。

（なお，パラナ河沿いのわずかな地帯は砂質まじりで土質は若干低下している。）

地区内にはカーレンズ，ピラポ，アカカラジヤの三港（舟つき場）があるが，将来カーレンズ港は農産物搬出港として有望のため，築港のうえ利用する予定である。

ハ．気　象

パラナ河沿い１００メートル以内は殆ど降霜はないが，他は年数回降霜ももあり，気温も零下に下ることがしばしばある。参考までに事業団アート・パラナ事業所で観測した気象統計をかかげると

気象観測表　　　１９６２年度

区分＼月別		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間
気温	最高極	—	25.5	285	26	29	35	355	43	42	41	39	37	34.6
	最高平均	—	21.2	20	179	22	266	28.1	33	35	36.6	33.6	31.5	27.7
	平均	—	153	135	12.2	152	205	21.7	28.2	30.1	308	28.7	26.6	22
	最底極	—	0	0	−3	−7	6	3	7.5	10	11	12	8	4.3
	最底平均	—	83	5.8	5.5	7	13.4	9.9	15	17.4	203	193	189	12.8
降雨量		—	40	25	46.3	78.6	135.4	84.7	116.7	155.5	239.1	46.4	1303	1093
降雨日数		—	3	2	7	6	7	8	4	2	13	4	9	65
湿度		—	89	85	90	83	77	70	67	70	72	75	84	783
降霜日数		—	—	4	7	5	—	—	—	—	—	—	—	16

気象観測表　　１９６３年度

区分＼月別		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間
気温	最高極	34	29	26.5	28	33	34	37	39	37	39	37	37	34.2
	最高平均	27.4	23.7	22.8	24.1	232	258	279	29.7	325	38.5	32	323	283
	平均	20.7	17.7	13.7	15.1	15.2	197	23.1	24.2	26.4	285	27.5	26.5	215
	最底極	55	3	−35	−15	−45	6	95	75	8	12	12	5	4.5
	最底平均	129	10.7	69	93	89	133	15.1	15	16.4	16	20.4	18.4	136
降雨量		112.2	205.1	1635	309	56	206.7	286	2675	300	32	147	985	1907
降雨日数		4	5	5	4	4	10	7	8	6	2	4	4	63
湿度		87	88	74	87	86	85	79	79	74	676	76	72.7	796
降霜日数		—	—	4	2	4	—	—	—	—	—	—	—	10

二．造成工事

造成工事は１９５９年１１月に測量工事より着手し現在までに約三分ノ一地域が完了している。主なものをあげると

(イ) ロッテ割工事　　９１３ロッテ（１ロッテ平均３０ヘクタール）
２７,３９０ヘクタール

(ロ) 道路工事
○ 幹線新設（道路敷地巾５０メートル有効巾８メートル）１３５,０００キロメートル
○ 支線新設（道路敷地巾１６メートル有効巾６メートル）１９１,０００キロメートル
○ 市街地道路新設　８キロメートル
○ 域外道路補修　５４.６０キロメートル
○ 域内道路補修　４２.９０キロメートル

(ハ) 橋梁工事
ピラポ大橋　コンクリート　４０メートル×７メートル
（１９６１年５月１０日竣工）

マン・ビシニ橋　木橋　22.6メートル×6メートル

（1963年3月19日竣工）

小橋梁　　5ケ所

暗　梁　　161ケ所

(ニ)　建物施設

管理本部事務所兼倉庫	（煉瓦建）	1棟		266.20㎡
独身職員宿舎	（〃）	1〃		216.10〃
家族宿舎	（〃）	3〃		@59.50〃
警察本部	（〃）	1〃		138.00〃
発電室	（〃）	1〃		35.00〃
雇員家族宿舎	（木　造）	1〃	（2戸）	77.60〃
雇員独身宿舎	（〃）	1〃	（5戸）	75.00〃
判事事務所	（〃）	1〃		事務所 30.00〃 宿　舎 24.00〃
一般車輛および機械庫，その他機材置場	（〃）	1〃		306.00〃

（炊事場，食堂，井戸，便所）

(ホ)　造成機械

ブルトーザー	D7　（CAT）	4台
〃	D4　（CAT）	1〃
スクレーパー	（CAT）	1〃
グレーダー	D12（CAT）	1〃
トラック（いすゞ，トヨタ）		各1〃
ハーフトラック（ファールゴ）		1〃
トラクター		1〃
ジープ（ウイリス）		4〃

ステーション，ワゴン　　　　　　　　　1台

ホ．航空測量

従来本移住地は平面的な測量によつてロツテ割，道路造成等がなされていたが，地域全体（地形，河川）の把握が出来ず，総合的開発利用計画の樹立が困難であつたため，本年度（３８，３９年度予算）航空測量を実施し，その万全を期することにした（８月現在実施中）

ヘ．市街地

現在移住地内に「ピラポ市街地」および「カーレンズ市街地」の２ケ所を計画している。

(イ)　ピラポ市街地

移住地のほぼ中央で，幹線３号（国道予定線）およびピラポ河を中心とし市街地総面積７４２ヘクタールを予定している。

この市街地には，つとめて行政的機関，公共施設等の集中をはかり名実ともに移住地のセンターとすべく計画している。

また分譲地としては商業区，居住区，郊外区に分類し造成する予定である。

(ロ)　カーレンズ市街地

パラナ河沿いのカーレンズ港を移住者（アルト・パラナのみでなく，場合によつてはフラム地区も含めて）の生産物搬出港として建設し，その周辺に商工業を主とした市街地を建設するものである。

総面積２３５ヘクタールの予定。

（注）　港湾施設としては，現在３８年度予算にて臨時的桟橋（スベリ台式）を建造し，更に本年度木造倉庫（ピラポ７杆倉庫）を移築した。

ト．移住地の分譲

(イ)　移住地全体としては約2,３００ロツテ（１ロツテ３０ヘクタール）を

造成分譲する計画であるが，現在までに９０１ロッテの造成が完了し，移住団ごとに地域を指定し計画的配耕を行なつている。なお将来隣接に増地が可能（追加２０ロッテ位）なように虫食い的に入植せしめている。

(ロ) 分譲条件

a．分譲価格

一括払の場合　３５０,０００円（　９７２.２３弗）

分割払の場合　４６３,５００円（１,２８７.５０弗）

（契約時７０,０００円を頭金とし残金を４年据置，５ケ年均等年賦払）

b．分譲ロッテ数

一括払	内地契約	１８ロッテ
	現地〃	８〃
分割払	内地契約	２９８ロッテ
	現地〃	４８〃
	合　計	３７２ロッテ
契約解除	一括払	０ロッテ
	分割払	３１〃
差引合計	一括払	２６〃
	分割払	３１５〃

② 入植の経緯

１９６０年（昭和３５年）８月２日第一次移住者がアカカラジア地区より入植を開始して以来今日（１９６４年３月末日）までに３１２家族が入植した。その内訳次のとおり。

入植家族数	内地より	308家族	1,665名
	ドミニカより	4 〃	24〃
退耕家族数		29 〃	148〃
帰国 〃		2 〃	6〃
差引定着数		281 〃	1,535〃

（注） ① 退耕家族の多くは，アスンシオン近郊にてそ菜栽培およびペドロフアン・カバレイロ市方面（アマンバイ）にて営農に従事のための転耕である。

② 帰国家族は世帯主死亡のため帰国。

③ 移住地内の事業団機関（施設）

イ．アルト・パラナ事業所

事務所をピラポ市街地におき，別記造成関係にて記述した関係施設，機械，車輌類をようして，同移住地の造成，分譲，諸施設の建築，移住者の受入れ，定着のための諸指導，農協指導等の任にあたつている。

ロ．アルト・パラナ指導農場

(イ) 1962年度（昭和37年）よりピラポ22粁地帯に，用地面積100ヘクタールで開設に着手した。（現在の利用面積40ヘクタール）

(ロ) 主として移住者の営農指導に従事し試験としては，STICA（パ国農事試験場）と提携して一般作物の栽培試験を行なつている（図面参照）

(ハ) 主なる施設および車輌類等

事務所 本館	（煉瓦）	1棟
収納舎	（〃）	1〃
職員住宅	（〃）	1〃

職員住宅　　　（木造）　　　3棟

ペオン小屋　　（〃　）　　　2〃

発電庫　　　　（煉瓦）　　　1〃

他に旧海協連事務所位置（ピラポ22粁）に

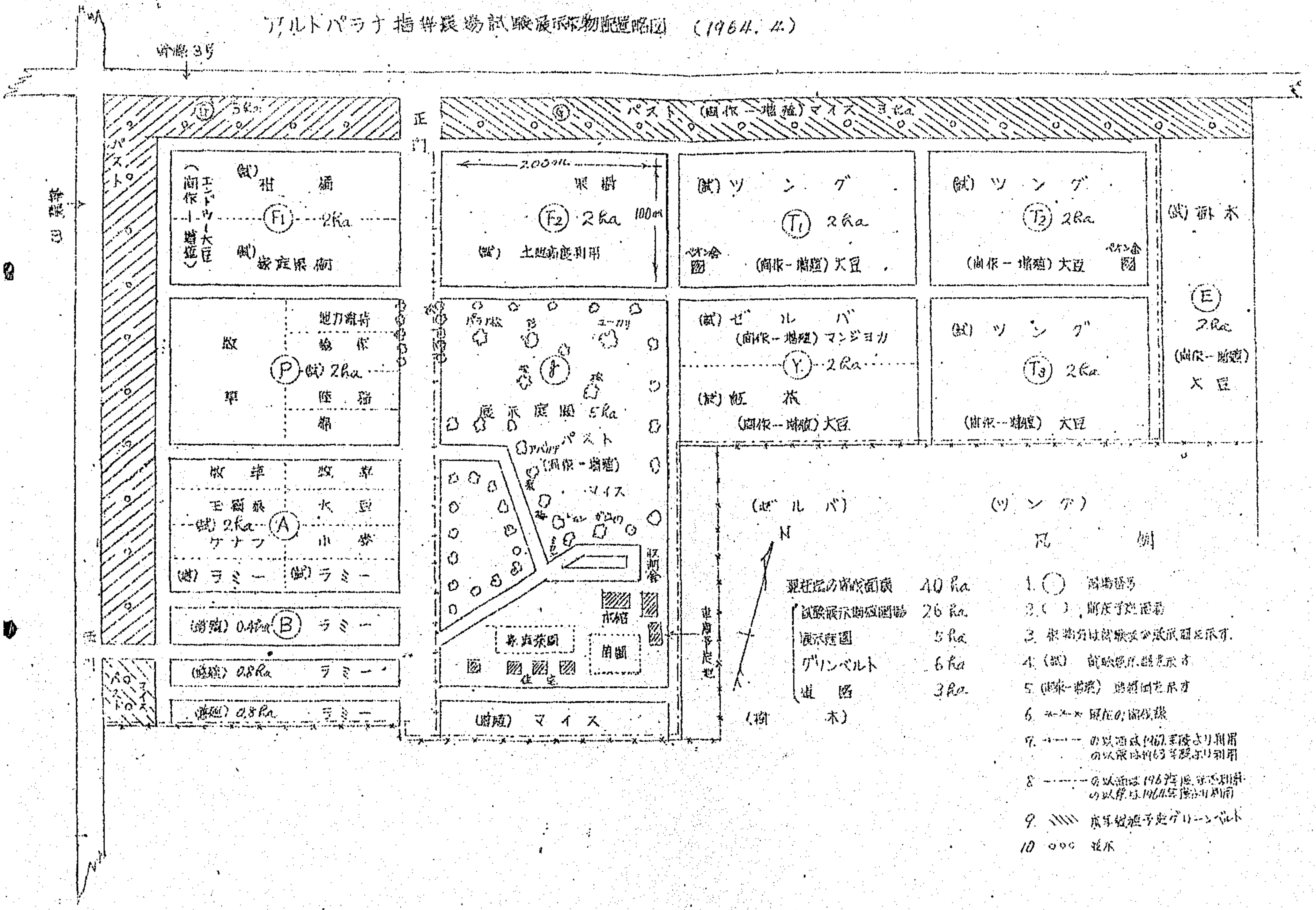
独身宿舎（旧事務所＝木造）　1棟

車　庫　　　　　　　　　　　1〃

車輌としては……トラック（トヨタ6t），ジープ（トヨタ），トラクター各1台

主なる機械としては……トウリヤドーラ，ラミー剝皮機各1台　その他小機械

アルトパラナ指導農場試験展示作物配置略図（1964. 4）



ハ．アルト・パラナ診療所

現在ピラポ22粁地帯に木造平屋建の事業団直営診療所が開設されている。（近くピラポ市街地の新築診療所に移転する。）常駐医師としては，産婦人科兼外科医が1名で入院も可能である。

この他毎週1回現地人歯科医師をエンカルナシオン市から派遣し（嘱託）歯科診療に従事せしめている。

重症患者についてはエンカルナシオン慈善病院と提携し，受診が可能になつている。

病院の規模

病　棟		1棟	
病　室	大	1室	5～6ベット
	小	1〃	1　〃

主な医療機械類

レントゲン機械	1式
手　術　台	1台
外科手術機械	1式
シンメルブッシュ蒸汽滅菌器	1組
産婦人科応診要具	1式
そ　の　他	
歯科診療機械	1式

車輌機械類

ジープ（トヨタ）	1台
発　電　機	1基

従　業　員

看　護　婦	4名

事　務　員　　　　　　1名

炊　事　婦　　　　　　1〃

④　アルト・パラナ農業協同組合

イ．設立の経緯

この組合は1960年11月3日初年度入植者84家族中離脱者6家族を除き，78家族をもつて移住地全体を事業区とする組合として創立された。

（当初地区全体を一つの事業区とするか，造成4工区毎の組合とするかにつき相当研究されたが，結局全体を一つとする組合として発足した）

翌1961年10月6日正式に「アルト・パラナ農業協同組合」として農牧省より認可された。認可時組合員数248家族。

その後1962年中半から63年にかけ，過去組合運営の放慢から生じた多額の赤字が表面化し，そのため感情的対立が生じ，組合は相当に混乱した。更に引続き指定農産物の横流し等が行なわれ，一時は相当数にのぼる除名者，離脱者を出すにいたつた。

なおこのため1963年12月4日これ等除名，脱退者による任意組合「アルト・パラナ生産販売組合」が結成された。

然し，その後状況は徐々に好転し，組合復帰者も出つつあるので近く一本の組合として共存態勢が出来ると考える。

ロ．認可年月日

1961年10月6日

ハ．組合の事業区面積（別添図面）

約84,000ヘクタール

ニ．組合員数

241戸　（1964年4月1日現在）

ホ．組合の役員

理　事　9名（任期2年）　組合長，専務理事常勤

監　事　3名（　〃　）

ヘ．出　資　金

(イ) 1口　41,000グアラニース

加入時現金　2,000グアラニース

残は指定農産物販売代金の4％を積立て

(ロ) 組合の目標額

9,881,000グアラニース

(ハ) 既払込出資金額

2,010,000グアラニース

ト．組合の資産

(イ) 建物……職員炊事場　3棟（アカカラジヤ23K，ピラポ22K，13K）

教員宿舎　2棟（アカカラジヤ23K，17K）

(ロ) 車輛……トラック　1台（ボルボ9t……融資）

小型トラック　2〃（1台は県人会より借上，1台は融資）

ジープ　3〃（県人会より借上）

オートバイ　2〃（自己資金購入）

(ハ) 他にトラック2台（トヨタ6t）が事業団より貸与されている。

チ．営農状況

(イ) 1963年度までの永年作物植栽面積

単位　ヘクタール

年次別＼種類	油　桐	マテ茶	柑　橘
1961	247.5	2.0	—
62	733.6	55.85	3.0
63	1,301.0	—	13.0
合　計	2,282.1	57.85	16.0

（注）　a．植栽面積のなかには地域内非組合員40家族分を含んでいる。

　　　　b．1964年度の油桐作付予定面積は1,739.5ヘクタールである。

(ロ)　1963年度所有家畜数　（2月末現在　組合員のみ）

牛　　　73頭（主に肉牛）

馬　　　48〃（耕馬，乗馬）

豚　　3,231〃（油肉兼用）

鶏　　8,242羽（主として肉用鶏）

(ハ)　1963年度耕地面積（組合員のみ）

2,900ヘクタール

（1戸平均　12.1ヘクタール）

(ニ)　1戸当り平均粗収入

131,870グアラニース

（1964年8月調査の営農統計93名分を基とした）

(ホ)　1戸当り平均生活費

47,310グアラニース　　（(ニ)に同じ）

(ヘ)　1戸当り平均営農費

64,330グアラニース　　（(ニ)に同じ）

リ．参考事項

(イ)　１９６３年度作付（短期）面積　　（単位　ヘクタール）

マイス	1,230
大豆	1,192
棉	424
雑豆	354
水稲	45
落花生	34
小麦	29
タバコ	11
マンジョカ	184
合計	3,503

（注）　当移住地の営農もフラム地区と同様油桐，マテ茶等の永年作物を主体としているが，これ等の収入が安定する迄の間換金作物として目下マイス，大豆，棉等の短期作物が栽培されている。また自給食糧として水稲，小麦，マンジョカ等が生産されている。

なお小麦は気候の関係か現在生育が良好でない。

(ロ)　１９６３年度に組合で扱つた農産物販売状況

マイス	829.7トン	368,755.00グアラニース
大豆	1,182.4 〃	10,065,044.10 〃
棉花	253.2 〃	4,423,772.43 〃
雑豆（農協連）	156.8 〃	1,638,165.00 〃
〃（自販）	45.4 〃	351,214.00 〃
豚油（グラサ）	4,978.0 〃	52,069.00 〃
合計		16,899,018.53 〃

(ハ) 最高級所得者の営農状況（１９６４年８月の営農実態調査より）

a．（Ｔ氏＝１９６０年１０月入植，家族数９人，稼働者６人）

土地所有面積　９０.０ヘクタール

開墾済　〃　４５.５　〃

所有家畜数　豚５０頭　鶏７０羽

資　産　鶏舎１棟（７２m²），収納舎１棟（７５m²）
原動機２台，動噴機１台，動脱機２台
動力精米製粉機１台

収　入　農業収入(A)

マイス	4.0ヘクタール	10,000キログラム	
大　豆	30.0　〃	25,000　〃	
棉	8.5　〃	8,500　〃	
雑　豆	12.0　〃	7,000　〃	
稲	0.5　〃	2,500　〃	
油　桐	4,500本	0　〃	
マテ茶	1,000〃	0　〃	
柑橘橘	312〃	0　〃	

現　金	短期作	399,000グアラニース	425,000〃 (A)
	畜　産	26,000　〃	
自家保有（評価）	食　糧	74,000　〃	125,000〃
	飼　料	51,000　〃	
	合　計	650,000グアラニース	

農外収入(B)　０

支　出　家計費(C)

主　食　15,000グアラニース

副食調味料	20,000	グアラニース
被　　服	5,000	〃
教　　育	3,000	〃
医　　療	7,000	〃
そ の 他	27,000	〃
計	77,000	グアラニース

営農費(D)

伐　　開	75,000	グアラニース
人　　夫	76,000	〃
農薬，肥料	7,000	〃
材　　料	17,000	〃
そ の 他	3,000	〃
計	178,000	グアラニース
租税公課諸負担	7,000	グアラニース

差引余剰　(A+B)−(C+D+E)=163,000グアラニース

b．(K氏=1961年5月入植，家族数6人，稼働者3人)

土地所有面積　　30ヘクタール

開墾済　〃　　25　〃

所有家畜数　　馬1頭，豚12頭，鶏10羽

資　　産　収納舎1棟(16m²)
　　　　　原動機1台，動脱機1台，動力米麦製粉機1台

収　入　農業収入(A)

	面積(本数)	収　量	金　額
マイス	(3.5ヘクタール)	7,000Kg	

		面積（本数）	収量	金額
	大豆	（4.0ヘクタール）	5,000Kg	
	棉	（2.0 〃 ）	2,000〃	
	雑豆	（3.5 〃 ）	2,500〃	
	稲	（0.2 〃 ）	300〃	
	油桐	（470本）	0〃	
	マテ茶	（188本）	0〃	
	現金	短期作		233,000グアラニース (A)
	自家保有（評価）	食糧		28,000 〃
		飼料		15,000 〃
	合計			276,000グアラニース
	農外収入(B)			0
支出	家計費(C)			
	主食			16,000グアラニース
	副食調味料			8,000 〃
	被服			2,000 〃
	教養			3,000 〃
	医療			3,000 〃
	その他			1,000 〃
	計			33,000グアラニース
	営農費(D)			
	伐開			28,000グアラニース
	人夫			21,000 〃
	農薬，肥料			4,000 〃
	材料			3,000 〃

その他	3,000グアラニース
計	59,000グアラニース
租税公課諸負担(E)	12,000グアラニース

差引余剰　(A+B)−(C+D+E)=129,000グアラニース

(二) 融資貸付状況

種類	貸付金額	グアラニー貨換算額	使途目的	貸付期間
短期営農資金	US$40,865.—	G/s 5,148,996.	伐開，作付け，収穫	1年払い
長期 〃	〃 3,98222	〃 501,760.	永年作作付	4年据置2年賦
入植時 〃	〃 14,26522	〃 1,797,418.	携行資金不足の者に対するもの	3 〃 4 〃
輸入農具資金	〃 43,23790	〃 5,447,975.	エンジン，脱穀機，脱粒機	4 〃 4 〃
携行農具 〃	〃 8,93230	〃 1,125,470.	シート，リヤカー，噴霧器	3 〃 4 〃
その他農具 〃	〃 2,880.—	〃 362,880.	現地製脱穀機	2 〃 2 〃
トラック購入 〃	〃 7,936.50	〃 1,000,000.	ボルボトラック 1台	3年払い
運転資金	〃 23,810.—	〃 3,000,060.	組合運転資金	1年未払い
合計	〃145,909.14	〃18,384,553.		
ドミニカ移住者長期営農資金	〃 5,534.73	〃 697,376.		

この他渡航前に出身市町村の保証があれば，移住者1家族当り農機具購入資金として¥300,000，営農資金として¥200,000を限度として融資を行なつているが，現在までの貸付実績は，農機具購入資金¥24,401,500，営農資金¥18,725,500，計43,127,000となつている。この渡航前融資の貸付を受けているのは，

９７戸であり，移住者総数の約３２パーセントに相当する。

⑤ 教　　育

イ．パ国教育（小学校）

(イ) アカカラジヤ２３粁校

a．生　徒　数

国籍＼学年別	1年			2年			3年			4年			5年			6年			合計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
日本人	15	12	27	14	11	25	16	19	35	17	11	28	5	2	7	—	—	—	122
パラグアイ人	7	6	13	3	3	6	—	3	3	3	3	6	—	—	—	—	—	—	28
合計	22	18	40	17	14	31	16	22	38	20	14	34	5	2	7	—	—	—	150

b．教　　師　　　1級2名

(ロ) アカカラジヤ１７粁校

a．生　徒　数

国籍＼学年別	1年			2年			3年			4年			5年			6年			合計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
日本人	8	4	12	6	6	12	4	9	13	6	5	11	2	—	2	—	—	—	50
パラグアイ人	6	1	7	—	—	—	3	—	3	2	—	2	1	—	1	—	—	—	13
合計	14	5	19	6	6	12	7	9	16	8	5	13	3	—	3	—	—	—	63

b．教　　師　　　1級1名　7級1名

(ハ) ピラポ２２粁校

a．生　徒　数

国籍＼学年別	1年			2年			3年			4年			5年			6年			合計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
日本人	9	10	19	15	16	31	16	10	26	—	4	4	—	—	—	—	—	—	80
パラグアイ人	1	2	3	1	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4
合計	10	12	22	16	16	32	16	10	26	—	4	4	—	—	—	—	—	—	84

b．教　師　　1級2名

(ニ)　ピラポ13粁校

a．生　徒　数

国籍＼学年別	1年			2年			3年			4年			5年			6年			合計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
日本人	8	8	16	12	11	23	20	11	31	—	—	—	—	—	—	—	—	—	70
パラグアイ人	2	2	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4
合計	10	10	20	12	11	23	20	11	31	—	—	—	—	—	—	—	—	—	74

b．教　師　　1級1名　7級1名

(ホ)　カーレンズ8粁校

a．生　徒　数

国籍＼学年別	1年			2年			3年			4年			5年			6年			合計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
日本人	12	13	25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	25
パラグアイ人	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	12	13	25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	25

（注）　本年度新規開設校である。

b．教　師　　7級1名

ロ．日本語教育

(イ) アカカラジヤ23杆校

a．生徒数

性別	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
男子	28	16	12	14	—	—	70
女子	25	18	6	6	—	—	55
計	53	34	18	20	—	—	125

b．教　師　　岡田一男，山田右治

c．教　課　　国語，算数

(ロ) ピラポ22杆校

a．生徒数

性別	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
男子	6	20	12	6	—	—	44
女子	7	10	9	21	—	—	47
計	13	30	21	27	—	—	91

b．教　師　　土居 茂，岩見光子，伊藤善二郎

c．教　課　　国語，算数，理科，図工

(ハ) ピラポ13杆校

a．生徒数

性別	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
男子	20	24	—	—	—	—	44
女子	18	13	—	—	—	—	31
計	38	37	—	—	—	—	75

b．教　師　　水本ミヨ，蓬田輝彦

c．教　課　　国語，算数，社会，図工，音楽

ハ．青年教育

本年3月1日開設。移住地内の男女青年を対象に毎月第1，第2日曜日ピラポ市街地に建築されてある収容所兼校舎（将来中学校として利用予定）に集合し，勉学にいそしむ。

この青年学級の目的は，日本において満足に受け得なかつた普通教育の補完的意味を併せ，移住地の青年層に情操教育を行なうことにより次代をになうにふさわしく育てあげることにある。

教課は，日本語（読書，作文，社会等），西語，社会道徳，保健衛生，農業，簿記，機械工学，土木工学等で，教師は事業団職員および移住者の学識者があたつている。

⑥ 治　安

イ．警　察

従来の請願巡査に変り，警察学校出の有資格コミサリオが本年度より配属され治安の任にあたつている。

なお警察署は従来ピラポ市街地1ケ所だけであつたが，ピラポ13粁地区を追加して2ケ所に警察署がおかれることになつた。

ロ．判　事

アルト・パラナ全移住地を司法区とする判事事務所が，昨年度（11月1日付）より設置され，判事および書記が常駐し，戸籍上の手続，税務諸手続，労働法規に関する手続，調停等の任にあたつている。

⑦ 地域内に在る事業団建築の施設（事業所，農場を除く）

イ．アカカラジヤ23粁地区

校　舎　　（木造）　　2棟（アカカラジヤ23粁校として利用）

倉　　庫	（木造）	1棟	農協本所購売品倉庫として利用
共同販売所	（〃）	1〃	農協事務所，購売部
移動事務所	（〃）	1〃	農協職員宿舎として貸与（貸借契約書）

ロ．アカカラジヤ17粁地区

校　　舎	（木造）	1棟	（アカカラジヤ17粁校として利用）
倉　　庫	（〃）	1〃	農産物一時保管倉庫
共同販売所	（〃）	1〃	農協旭支所，購売部

ハ．ピラポ市街地地区

診療所	（煉瓦）	1棟	39年度中に増築し完成する。診療室，手術室，歯科診療室，レントゲン室，薬剤室，病室，事務室をもつ。
医師住宅	（〃）	1〃	
〃	（木造）	1〃	
校　　舎	（煉瓦）	1〃	（現在公民館として利用，逐次中学校に転用の予定）
電話局	（木造）	1〃	（18.5平方米で電話交換局を65年1月より利用）

ニ．ピラポ22粁地区

校　　舎	（木造）	2棟	（1棟はピラポ22粁校とし，他の1棟は暫定的に「農業講習所＝3ケ月」として利用）
倉　　庫	（〃）	2〃	（農産物一時保管および集会等に利用）

共同販売所	（木造）	1棟	農協ピラポ支所，購売部
診療所（附，患者用自炊場）	（〃）	1〃	（市街地移転までの間診療所としして利用）
診療所附属炊事場（兼職員宿舎）	（〃）	1〃	（看護婦，事務員の宿舎として兼用）
職員宿舎	（〃）	2〃	（現在事業団職員利用）

ホ．ピラポ13粁地区

校舎	（木造）	2棟	（1棟はピラポ13粁校，他は現在集会場として利用）
共同販売所	（〃）	1〃	（農協ピラポ13粁支所，購売部）

へ．ピラポ7粁地区

収容所兼校舎	（木造）	2棟	（現在収容所として利用）
倉庫	（〃）	1〃	移住者荷物用倉庫
共同販売所	（〃）	1〃	農協購売品移動販売所

ト．カーレンズ15粁地区

収容所兼校舎	（木造）	1棟	新移住者到着迄待期
倉庫	（〃）	1〃	〃
共同販売所	（〃）	1〃	〃

チ．カーレンス8粁地区

収容所兼校舎	（木造）	1棟	（カーレンズ8粁校として利用）
倉庫	（〃）	1〃	（新移住者の収容所兼倉庫として利用中）
共同販売所	（〃）	1〃	農協カーレンズ支所購売部

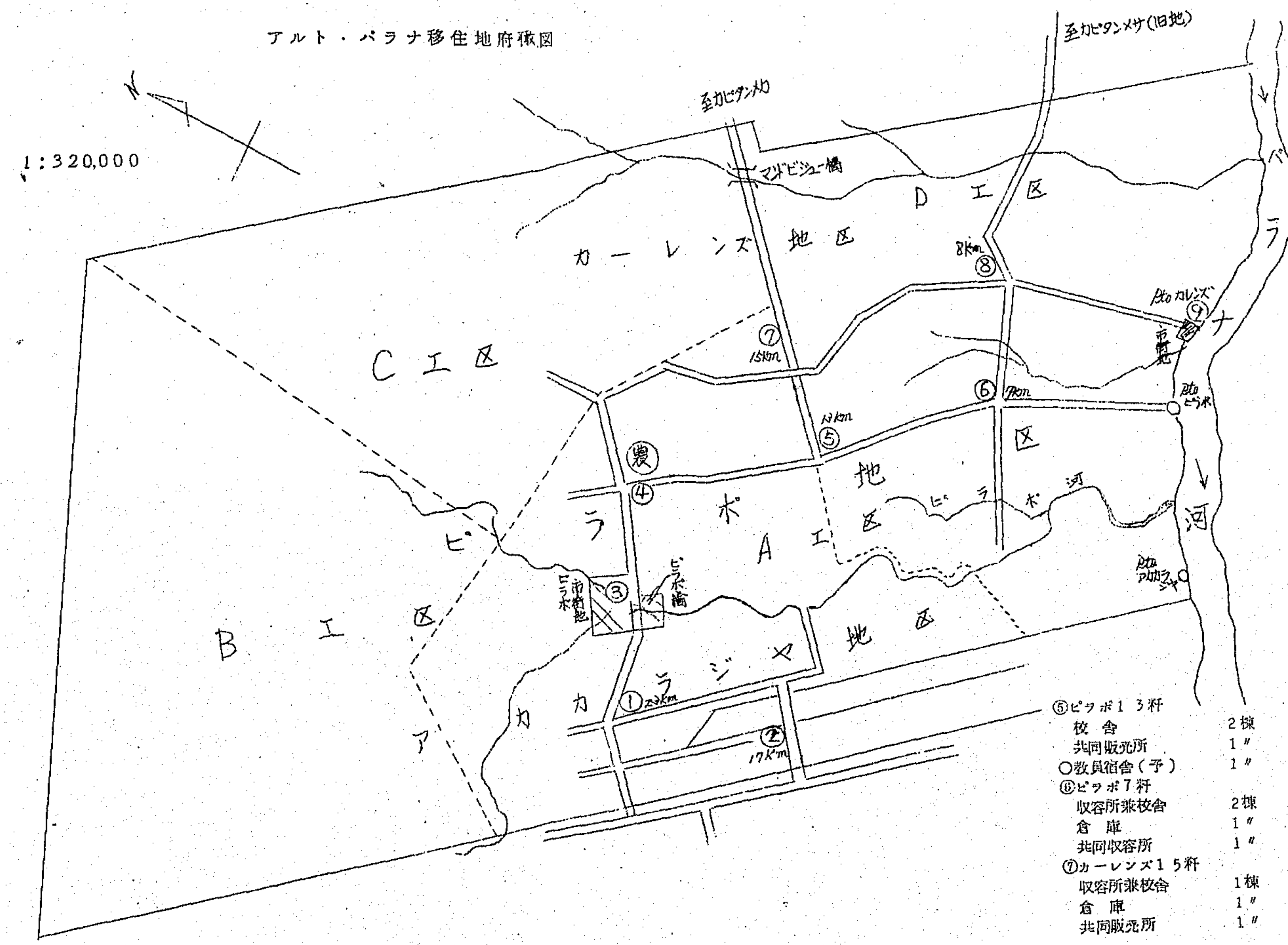
リ．カーレンズ港地区

倉　　庫　（木造）　1棟　（ピラボ7粁より移築，船積農産物の一時保管用）

桟　　橋　（〃）　1基　一時的な仮桟橋

ヌ．以上の他アカカラジヤ23粁，同17粁，ピラボ22粁，同13粁，およびカーレンズ8粁地区に39年度中に煉瓦建教員住宅各1棟を建築する。

アルト・パラナ移住地府瞰図



説明(事業団建築施設)
○印は39年度中に建築の予定

①アカカラジヤ23粁

校舎	2棟
倉庫	1〃
共同販売所	1〃
移動事務所(宿舎)	1〃
○教員宿舎(予)	1〃

②アカカラジヤ17粁

校舎	1棟
共同販売所	1〃
倉庫	1〃
○教員宿舎(予)	1〃

③ピラボ市街地

診療所(煉瓦建)	1棟
医師住宅(〃)	1〃
〃(木造)	1〃
校舎(煉瓦建)	1〃
電話局(木造)	1〃
警察署(煉瓦建)	1〃
判事事務所(木造)	1〃

④ピラボ22粁

校舎	2棟
共同販売所	1〃
倉庫	2〃
診療所(旧)	1〃
職員宿舎兼炊事(診療所附属)	1〃
職員宿舎	2〃
○教員宿舎(予)	1〃

⑤ピラボ13粁

校舎	2棟
共同販売所	1〃
○教員宿舎(予)	1〃

⑥ピラボ7粁

収容所兼校舎	2棟
倉庫	1〃
共同収容所	1〃

⑦カーレンズ15粁

収容所兼校舎	1棟
倉庫	1〃
共同販売所	1〃

⑧カーレンズ8粁

収容所兼校舎	1棟
共同販売所	1〃
倉庫	1〃
○教員宿舎(予)	1〃

⑨カーレンズ港

倉庫	1棟
桟橋	1基

5. イタプア農業協同組合連合会

① 沿　革

イタプア県下に入植した日本人移住者は，それぞれ地域毎に農業協同組合を結成（チヤベス，富士，ラ・パス，サンタ・ローサ）したが，小さな単協個々では，生産物の販売にも隘路が多く，又生活必需物資の購入も余り思わしくないため，１９５８年春頃より，これら単協を組合員とする連合体を組織し，販売，購売が出来る様にしようの気運が盛り上り，各農協の組合長，専務合同協議の結果，連合会を組織することを決定した。

この様にして暫時任意団体の連合会として進んだが，１９５９年２月25日，当国農牧省の認可の下に法定組合としての創立総会を開き名実共にイタプア農協連が誕生した。その後，運賃プール問題などでチヤベス農協の脱退さわぎもあつたが，再び復帰し，今日に至つている。

② 認可年月日　　１９５９年１０月１６日

③ 構成組合　　（結成時）チヤベス，富士，ラ・パス，サンタ・ローサ
（その後加入）アルト・パラナ

④ 連合会の役員　　理事　各単協より３名，計１５名（任期２年）会長，専務は役員の互選で常勤である。
監事　３名（任期２年）チヤベス及び富士より１名，アルト・パラナより１名，ラ・パス，サンタ・ローサより１名の選出方法を執る。

⑤ 出 資 金

イ．１口　1,１００,０００グアラニース

(イ) 加入時現金　１００,０００グアラニース

(ロ) 一部は出荷代金より積立（単協積立４%の内１%）

ロ．目標額　5,500,000グアラニース

ハ．既払込出資金額　1,723,786.24グアラニース

内訳　チャベス農協　216,235.02　〃

富士農協　310,466.98　〃

ラ・パス農協　294,417.66　〃

サンタ・ローサ農協　556,988.14　〃

アルト・パラナ農協　345,678.44　〃

⑥　連合会の資産

イ．建物　食堂1棟，車庫2棟，麻袋工場（融資）1棟，宿舎1棟，発電室1棟，アランブレ施設。

土地約2ヘクタール（車庫，麻袋工場敷地）

ロ．車輌　トラック（融資）1台（ベンツ，トレラー付）

小型トラック1台（プリンス）

⑦　主なる事業及び成績　（1963年度）

イ．受託販売事業

(イ)　大　豆　販売量　3,100,003.__　キログラム

販売金額　26,669,848.31　グアラニース

販売手数料　266,698.48　〃

(ロ)　マイス　販売量　1,358,663.__　キログラム

内　（合格品）　1,260,151.__　〃

（不合格品）　98,512.__　〃

販売額　5,788,409.21　グアラニース

販売手数料　57,884.10　〃

(ハ)　棉花及び落花生

販売量　769,020.__　キログラム

販売額　　13,677,101._ グアラニース

販売手数料　　136,771.01　〃

(ニ) 油桐及び雑豆

販売量　　345,105._ キログラム

販売額　　2,519,290.30 グアラニース

販売手数料　　30,084.27　〃

(ホ) 農協連受託販売手数料合計　　491,437.86 グアラニース

ロ．購売事業（1963年度年間取扱事業成績は下記の通り。）

繰越商品	2,316,888.60	グアラニース
仕入高	13,384,795.72	〃
売上高	14,899,342.50	〃
商品残高	2,343,092.50	〃
当期荒利益	1,540,750.68	〃
利　率	11パーセント	

ハ．運輸事業

事業団貸与のトラック（いすゞ6屯車）6台（内1台はアルト・パラナへの転貸）及びベンツ9屯車にて，農産物運搬，購売品搬送等を行なつた。（但し7月15日現在では，貸与車6台の内，4台を返換し，後2台を利用中である。）

◎運輸収入合計　1,973,939.57 グアラニース

ニ．給油事業

ESSO契約し，スタンド経営を行なう。

（主なる目的は，資金操作の為）

ホ．信用事業

(イ) 当座預金（中央銀行，スペイン銀行，ニューヨーク・シテイー銀行

の3銀行)

年間預金高　　66,836,886.61グアラニース

年間引出高　　67,670,330.08　〃

(ロ) 当座預り金(単協より)

年間預り高　　70,015,193.73グアラニース

年間引出高　　70,005,925.59　〃

ヘ．利用事業

(イ) 穀物乾燥工場(事業団貸与)

本年度は，操業を行わず，維持のみにとどまつた。

(ロ) 麻袋工場

原反をパキスタンより輸入し，ボルサに加工。組合員の適時出荷に協力するかたわら収入事業の一つとなつている。(利益は一般会計で計上。)

ト．宿泊所

移住者の便を計るため，実費方針で宿泊所を経営。購買及び書籍の斡旋を行なつている。

チ．参考事項

(イ) 1964年度指定農産物

とうもろこし(マイス)，大豆，棉花，油桐，(マテ茶は加工の都合上，本年度は，準指定とする。)

(ロ) 事業団より，貸与を受けている施設

a．施設　乾燥工場(在所パククア)(乾燥機，発電機を含む)

　　　　マテ茶倉庫(サンタ・ローサ農協所在地)

b．倉庫(賃貸)……第一倉庫(市内目抜で事務所兼倉庫として利用)

　　　　第二倉庫(パククアに在り本年度より賃貸契約)

c 、車輌　トラック2台（いすゞ6屯車）

リ．融資貸付状況（事業団資金）

（単位＝グアラニース）

	使途別貸付金	貸付月日	貸付金額	備考
イタプア農協連	トラック購入資金	1960.11.25	1,489,635G/S	
	第三次原反購入資金	1962.10.30	2,016,000	
	団体運転資金	1963. 9. 6	2,520,000	
	第四次原反購入資金	1964. 2.29	2,268,000	
	第一次原反購入資金	1961. 7. 4	2,420,000	償還済
	マイス集荷資金	1961. 6. 1	1,500,000	〃
	農産物集荷資金	1961.12.29	400,000	〃
	第二次原反購入資金	1962. 3. 7	1,890,000	〃
	マイス集荷資金	1962. 5.21	2,520,000	〃
	合計		17,023,635	

イタプア農業協同組合連合会貸借対照表

自　１９６３年３月　１日
至　１９６４年２月２９日

単位　G/S

資産の部		負債・資本の部	
勘定科目	金額	勘定科目	金額
現金	1,480,92752	当座預金	833,44347
売掛金	1,30560735	預り金	924820
立替金	32,170.00	借入金	6,391,85400
仮払金	3,008,12200	買掛金	4,443,65650
前渡金	3,663,000.00	前受金	3,620,00000
未収金	2,91000	仮受金	18000
繰越商品	3,121,73498	未払金	99,340.00
貯蔵品	3815324	事業資金	3,000,00000
主要材料	2157668	設備償却引当金	719,526486
補助材料	2,33600	部品購入引当金	97,87800
未収出資金	3,776,21376	設備償却引当金	4,040,774.16
未収運賃	114,96300	出資金	5,500,00000
未収受託販売代金	9123120	受託販売引当金	282,90
未着商品	51358542	未払利息	5032000
小口現金	3,00000	未払家賃	103,00000
備品	67839839	未払光熱費	1,800.00
建物	894,076.50	未払通信費	7,300.00
土地	251,573.48	退職給与引当金	155,60650
車輌	5,081,76554	為替差損引当金	121,09350
機械装置	479,04500		
電話加入権	23,46048		
前払家賃	20,10000		
未経過保険料	2045520		
繰延消耗備品	147,04200		
繰延燃料費	6,000.00		
繰延消耗品	40,43500		
繰延補修費	69,07400		
繰延保険料	75,788.00		
繰延用品費	13968000		
当期損失	4,095320.306		
合計	29,197,845.716	合計	29,197,845716

イタプア農業協同組合連合会損益計算書

自　1963年3月　1日
至　1964年2月29日

単位 G/S

損失の部		利益の部	
勘定科目	金額	勘定科目	金額
仕入	2814809516	売上	3567382663
売上原価	23190884.2	運送料	197392857
会議費	8342350	使用料	1049620
役員報酬	29700000	受取手数料	3312323
給料	200102359	販売手数料	59952966
諸手当	56064475	受取利息	40206328
法定福利費	27850693	受取利用料	4164950
家賃	53056500	為替差益	43240450
厚生費	43516.00	助成金	14240800
旅費	37906243	賃租金	147500.00
交通費	26,26000	雑収入	35350778
用品費	11312470	事業外雑収入	100.00
消耗備品	45587670	固定資産処分益	2,03300
消耗品	2651200	道路管理費	1006913
通信費	12473702	前期損益修正益	5195780
光熱費	5904175	当期損失	4095,320306
燃料費	70715070		
修理費	27489020		
交際費	8803333		
維持費	1444450		
寄附金	1083000		
農事研究費	23,19500		
図書費	62800		
宣伝広告費	23,80000		
税金	37,45000		
保険料	11572890		
支払手数料	346068.14		
支払利息	70759973		
支払運賃	51,89400		
印紙代	9486229		
材料費	63999550		
雑費	32,45500		
減耗損	13368.15		
欠損金	5996200		
一般管理及び販売費	198787824		
人夫賃	1831200		
為替差損	10206620		
加工賃	1,456.90		
減価償却費	22371332		
退職金	18560650		
繰越損失金繰入	422328745		
合計	43642263584	合計	43642263584

6. イグアスー（YGUAZU）移住地

① 移住地の創設

イ．土地の取得

イグアスー移住地は，首都アスンシオン市から国際道路にて東方 286 キロメートル，ブラジルに国境（国際橋）手前４１キロメートルの位置にに，国際道路をはさんで購入された総面積８７,７６３ヘクタールの大集団移住地である。

土地はかつて「マルチン商会」所有のものを１９６０年１０月３日付で購入し，１ロッテ３０ヘクタールに造成のうえ邦人移住者２,０００世帯を入植せしめることにした。

ロ．地形および土質

地区の北辺はイグアスー河に沿つて境し，最南部にはモンダウ河が横断し，更にこれ等２河川に幾多の小河川が地区内よりそそいでいるため全体に波状形の起伏をなしている。標高は２００～３００メートルの高度を有する。

土質は極めて良好で，アルト・パラナ移住地と同様の「テーラロシヤ」と称する中世代の玄武岩の風化した赤褐色粘土質土壌である。

なお現状地目を参考までにかかげると

原始林	62,545.69	ヘクタール
灌木林	5,686.93	〃
草原	17,788.46	〃
湿地	1,575.55	〃
河川敷	166.12	〃
合計	87,762.15	〃

ハ．気　　象

イグアスー移住地の気象観測は１９６１年７月より普通観測器で，１９６２年７月よりは自記観測器により事業所所在地で観測中である。

全体に亜熱帯性気候ということが出来るが参考までに平均値のみ次にかかげると

	フランコ １１年間平均	1961年7月～ 1962年6月まで	1962年7月～ 1963年2月まで	1963年3月 ～１２月まで
年間平均気温	23.4°C	22.5°C	20.1°C	22.4°C
気温冬期（5～9月）	18.6°C			
〃 夏期（10～4月）	24.7°C			
最高平均気温		27.3°C	26.6°C	27.8°C
絶対最高気温		36.5°C	37.2°C	37.8°C
最低平均気温		12.6°C	14.2°C	27.7°C
絶対最低気温		−2.0°C	−1.4°C	−4.1°C
年間平均湿度	77%	77.3%	82.7%	87.2%
年間平均雨量	1,540mm	1,868.1mm	1,088.7mm	1,957.4mm
日平均蒸発量			4.8mm	3.1mm
年間平均気圧			970.4mb	749.6mb
年間平均風速		1.6m／sec	1.14m／sec	
年間降霜回数			4～5回	10回

（注）フランコは移住地東方４０粁の国境の街である。

ニ．造成工事

(イ)　航空測量

１９６１年から翌年にかけて航空写真測量を実施した。この目的は移住地全体の地形を知ることによりロッテの均一化，道路線の選定お

よび単価の低減（湿地帯などの土盛を要する地形をさける等），橋梁，暗梁の架設量の減少および集水面積からの正確な断面決定をし，洪水時の流出の懸念をなくし，正確かつ理想的な全体計画を樹立するにある。

また水蝕防止対策，等高線栽培指導，防風林設置計画および地質，地形別による営農指導が可能である。その他現況地目を把握でき土地配分，利用計画に基づき，地目別割合と造成工事計画により正確なロッテ原価の算定が出来る。

(ロ) 年次別造成状況

工事種類		38年度	39年度	合計
道路	伐開	64,850m	5,600m	70,450m
	盛土	5,869㎥/40,161m	500㎥/350m	6369㎥/40511m
	仕上	47,244m	0	47,244m
	補修	31,570m	700m	32,270m
橋梁・暗梁工事	橋梁	12ケ所	1ケ所	13ケ所
	暗梁	60ケ所	2ケ所	62ケ所
ロッテ割工事	ロッテ	286ロッテ	22ロッテ	308ロッテ
	測量線	495,750m	45,500m	541,250m

(ハ) 建物施設

本部 地区事務所 （木造） 1棟

所長宿舎 （〃） 1〃

職員〃 （〃） 2〃

雇員〃 （〃） 1〃 （2家族用）

独身〃 （〃） 1〃

	車　　庫	（木造）	1棟
支所	事務所兼宿舎	（木造）	1棟
	車　　庫	（〃）	1〃
	警察屯所	（〃）	1〃
	監視所	（〃）	1〃

(ニ) 造成機械

ブルトーザー	2台
スクレーパー	1〃
グレーダー	1〃
トラクター	1〃
トレーラートラック	1〃
トラック（トヨタ）	2〃
小型トラック	1〃
ジープ	1〃
ステーションワゴン	1〃

(ホ) 市　街　地

中央市街地は従来一応選定したものを本年度（39年度）と来年度において再調査し地形，水利，社会的位置，輸送関係等を考慮し最終的に決定する。（目下調査中）。

ホ．移住地の分譲

(イ) 当地方の営農方式から考えて，当然1ロッテでは不足すると思われるので，将来のロッテ拡張が可能（2〜3ロッテ）なように集団100ロッテに対し，30戸位の入植で推進する。

(ロ) 分譲条件

a．分譲価格（1ロッテ30ヘクタールを基準）

一括払の場合　400,000円（1,111.12ドル）

分割払　〃　　529,000〃（1,469.45　〃　）

（契約時80,000円を頭金とし残金は4年据置き5ケ年均等年賦払）

b．分譲ロツテ数

一括払　　　1ロツテ

分括払　　48　〃

② 木材開発

本移住地の特殊事業として木材開発事業がある。これは地区内特にモンダウ河，イグアスー河附近にある森林資源（ラパーチヨ，セイゾロ，グアタンブ，ローロネグロ，インシエンソ，カンチヤラーナ等）を開発して移住地造成費の原価並びに分譲価格の軽減をはかり，更に2等材を製材して移住者の住宅，倉庫材の便宜をはかるべく計画している。

③ 入植の経緯

1961年8月チヤベス，フラム地区入植者の2,3男14戸（35名）を，主として分家的意味と，内地よりの移住者受入れの基地的意味を併せて入植せしめたのがはじまりである。

なお，当初の予定と大きく異なりしばらくの間殆ど内地より移住者が送出されなかつた。

その後一昨年末頃よりわずかずつ移住者が到着し，更に現地より希望があつて今日次のような数字になつている。

邦人入植者	現地より	32戸（125名）
	内地より	11〃（　50名）
		（うち2戸11名離脱）
現地人入植者		6戸（　32名）

差引現在数　　　　　　49戸（207名）

（注）　㋑　入植の経路としては，将来国際橋が完成した場合，ブラジル国パラナグア港より国際道路をバス等にて入植することも考えられるが，現在はブエノス・アイレスよりエンカルナシオンを通つて入植している。

㋺　本地区の入植については，最近にいたり国際道路沿線のロッテ割作業の進捗と国際道路の完全舗装にともない，現地芭国人およびアスンシオン近郊にてそ菜栽培に従事する日本人（かつてフラム，アルト・パラナ方面より転耕した者）の当地区に対する入植希望が目立つて来た。

㋩　本地区の東側隣接の「ストロエスネル植民地」にはフラム方面より転耕の日本人25家族が，野菜栽培，製材業等に従事している。

㊁　本地区の両隣マジョルキン植民地（42,000ヘクタール）およびストロエスネル植民地（40,000ヘクタール）は殆んど満植に近い状態である。従つて本イグアスー移住地も早期に入植を推進しなければ，他に開放等種々の問題がおこるおそれがある。

④　移住地内の事業団機関（施設）

イ．イグアスー事業所

事務所を移住地内におき，別記造成関係にて記述した施設，機械，車輛類をようして，移住地の造成，分譲，諸施設の建築，移住者の受入れ，定着のための諸指導の任にあたつている。

ロ．イグアスー指導農場

(イ)　1962年度（昭和37年）予算にて設置が決定し，同年後半にい

たり現位置を選定し開設に着手した。

用地面積約１１７ヘクタール。

(ロ) 本農場は従来の農場がいずれも移住者入植後に開設され満足した指導のできなかつたことに鑑み，出来うれば早期に開設し，入植者到着の場合，当初より指導面で役立つべく計画されたものである。

(ハ) 現在は，同移住地入植者の一般営農指導を主とし，試験としては，油桐の栽培，植林，香料作物およびセンイ作物の栽培試験を行なつている。

その他乳牛（現在ホルスタイン種３頭），豚を飼育し有畜農業形態についての研究を行なつている。

(ニ) 主なる施設および車輛等

建物

事務所 本館	（煉瓦建）	１棟
収納舎	（〃）	１〃
車庫	（木造）	１〃
職員住宅	（煉瓦建）	３〃
ペオン小屋	（木造）	２〃
発電庫	（煉瓦建）	１〃

車輛類

ジープ	１台
トラック（トヨタ６ｔ）	１〃
小型トラック（トヨタ1.5ｔ）	１〃
トラクター	１〃

機械類

トウリヤドーラ	１台

ラミー剝皮機　　　　1台

発　電　機　　　　　1基

その他小機械類

ハ．イグアスー診療所

1962年度（昭和37年）予算にて農場隣接に木造平家建の診療所が建築され，昨年より内科兼小児科医師1名が常駐している。

入院も可能ではあるが，交通条件が良好のため重症患者の多くはアスンシオン市の病院に赴いている。

病院の規模

病　　棟　　　1棟

病室1　　ベット3

主な医療機械類

レントゲン機械　1式

その他

従　業　員

看護婦　　　　1名

⑤　イグアスー農業協同組合　（1964年3月末現在）

イ．入植者数が少ないため未だ任意組合であるが，近く入植者の増加に伴ない法定組合とする予定である。

ロ．組合員数　　31戸

ハ．組合の役員

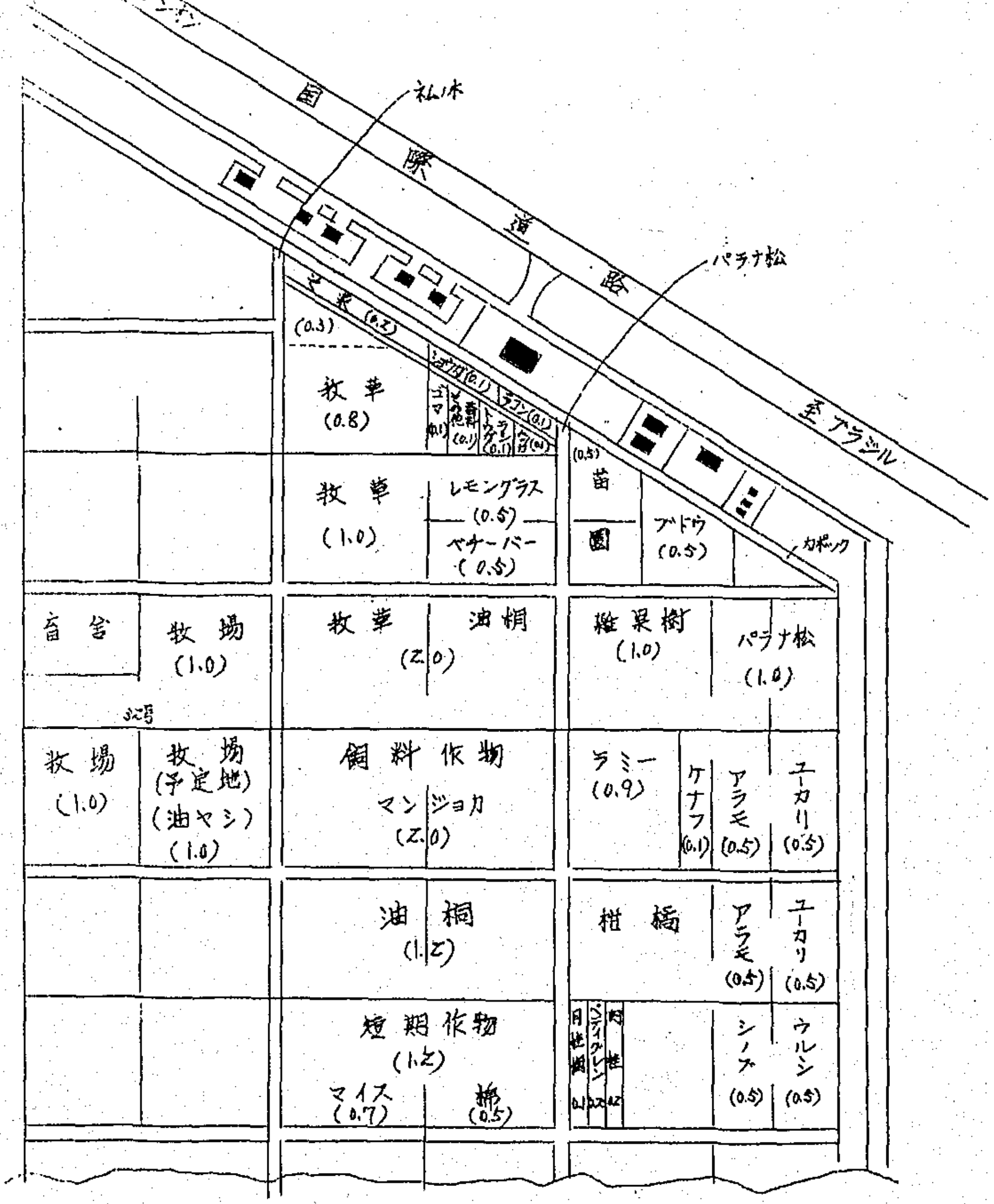
理　事　　　4名　（任期1年）専務常勤

監　事　　　2名　（　〃　）

ニ．組合費（出資金）

各戸　2,000グアラニースで計62,000グアラニース

イグアスー指導農場



土地利用状況

総面積	117,268	敷地用地	8,840	伐開地	22,500
国道用地	4,317	道路用地	5,000		
保留地	4,317	耕地用地	94,794		
農場用地	108,634	未伐開地	72,294		

ホ．組合の資産

資産としてあげる施設等はないが，事業団よりトラック（トヨタ6t）1台の貸与をうけ運輸面を担当している。

へ．営農状況

本移住地の営農形態は自然的条件がほぼアルト・パラナ移住地に類似しているため，これに準じて考えられていたが，国際道路の完全舗装と国際橋の完成により社会的，経済的条件が大巾に変化するため相当形態の変つたものになると考えられる。

ト．参考事項

(イ) 次に61年度入植者14戸分についての営農統計をかかげると（1964年8月の営農実態調査より）

a．（永年作物）

油桐	8.5ヘクタール
マテ茶	0.8 〃
ポメロ	2.1 〃

他にバナナ930本，ブドウ121本が植栽されている。

b．（家畜）

牛	3頭
馬	6〃
豚	124〃
鶏	673羽

c．（短期作物）

種類	面積（ヘクタール）	収量（キログラム）
稲	4.5（ 6戸）	12,300
とうもろこし	39.0（13〃）	72,500

大　　豆	10.7（　8戸）	14,300
雑　　豆	15.4（12〃）	14,030
マンジョカ	10.9（14〃）	233,000
棉	1.0（　1〃）	1,000
煙　　草	3.5（　3〃）	3,900

d．1963年度耕地面積（14戸対象）

普通畑	118.0ヘクタール
樹園地	13.2　〃
その他	31.2　〃
計	162.4　〃

（1戸平均　11.6ヘクタール）

e．1戸当り平均粗収入

119,700グアラニース（現金のみ）

f．1戸当り平均生活費

37,619グアラニース

g．1戸当り平均営農費

45,976グアラニース

(ロ) 最高級所得者の営農状況

（T氏＝1961年8月入植，家族数5人，稼働者2人）

土地所有面積　　30ヘクタール

開墾済　〃　　15　〃

所有家畜数　　豚16頭，鶏100羽

資　　産　　鶏舎1棟（30m²）収納舎1棟（32m²）

収入　農業収入(A)

内訳　とうもろこし（2ヘクタール）　4,500キログラム

大豆	(1ヘクタール)	2,000キログラム		
雑豆	(1.2 〃)	1,500 〃		
マンジョカ	(1 〃)	30,000 〃		
バナナ		30本		
現金	短期作	102,400グアラニース	202,400 〃 (A)	
	畜産	100,000 〃		
自家保有(評価)	食糧	10,000 〃		
	飼料	12,000 〃		
	合計	224,400 〃		

農外収入(B)　　0グアラニース

支出

家計費(C)

主食	10,000グアラニース
副食調味料	26,000 〃
被服	1,000 〃
教育	1,000 〃
医療	10,000 〃
その他	20,000 〃
合計	68,000グアラニース

営農費(D)

伐開	0グアラニース
人夫賃	11,000 〃
農薬肥料	1,000 〃
材料	0 〃
飼料	10,000 〃

その他　10,000グアラニース

合　計　32,000グアラニース

諸負担
租税公課(E)　0グアラニース

差引余剰　(A＋B)－(C＋D＋E)＝102,400グアラニース

(ハ) 融資貸付状況

貸付種類	貸付金額	貸付残額	備考
長期営農資金	882,000	882,000	1件
短期営農資金	165,000	165,000	1件
合計 (1人当り平均)	1,047,000 (74.785.71)	1,047,000 (74.785.71)	2件

⑥ 教　育

イ．パ国教育

(イ) 生徒数

国籍別＼学年別	1年			2年			3年			4年			5年			6年			合計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
日本人	7	3	10	6	9	15	3	8	11	－	－	－	2	1	3	－	－	－	39
パラグアイ人	－	－	－	－	－	－	2	－	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2
合計	7	3	10	6	9	15	5	8	13	－	－	－	2	1	3	－	－	－	41

(ロ) 教師　1級1名，7級1名

ロ．日本語教育

(イ) 生徒数

性別＼学年別	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	合 計
男 子	5	5	—	3	2	3	18
女 子	3	5	—	7	2	4	21
計	8	10	—	10	4	7	39

(ロ) 教 師　平野正照，岩崎妙子

(ハ) 教 課　国語，社会

⑦ 治 安

イ．警 察

事業所所在地（A地区）に警察本署をおき，本年度よりイタプア地方と同様有資格者の大巾に権限を有する警察署長が配属され治安の任にあたつている。なお，J地区に派出所（支署）をおき請願によるコミサリオが派出所長として警備にあたつている。

ロ．判 事

判事は，カークアスー判事事務所（100キロ西方）の管轄であるが，近く隣接パ国移住地に新たな判事事務所が設置されることになろう。

⑧ 地域内にある事業団建築の施設（事業所，農場，診療所を除く）

イ．A地区

収容所兼校舎　1棟（小学校兼収容所として利用）

共同販売所　1〃

倉 庫　1〃

○教員宿舎（煉瓦建）　1〃

ロ．事業所所在地

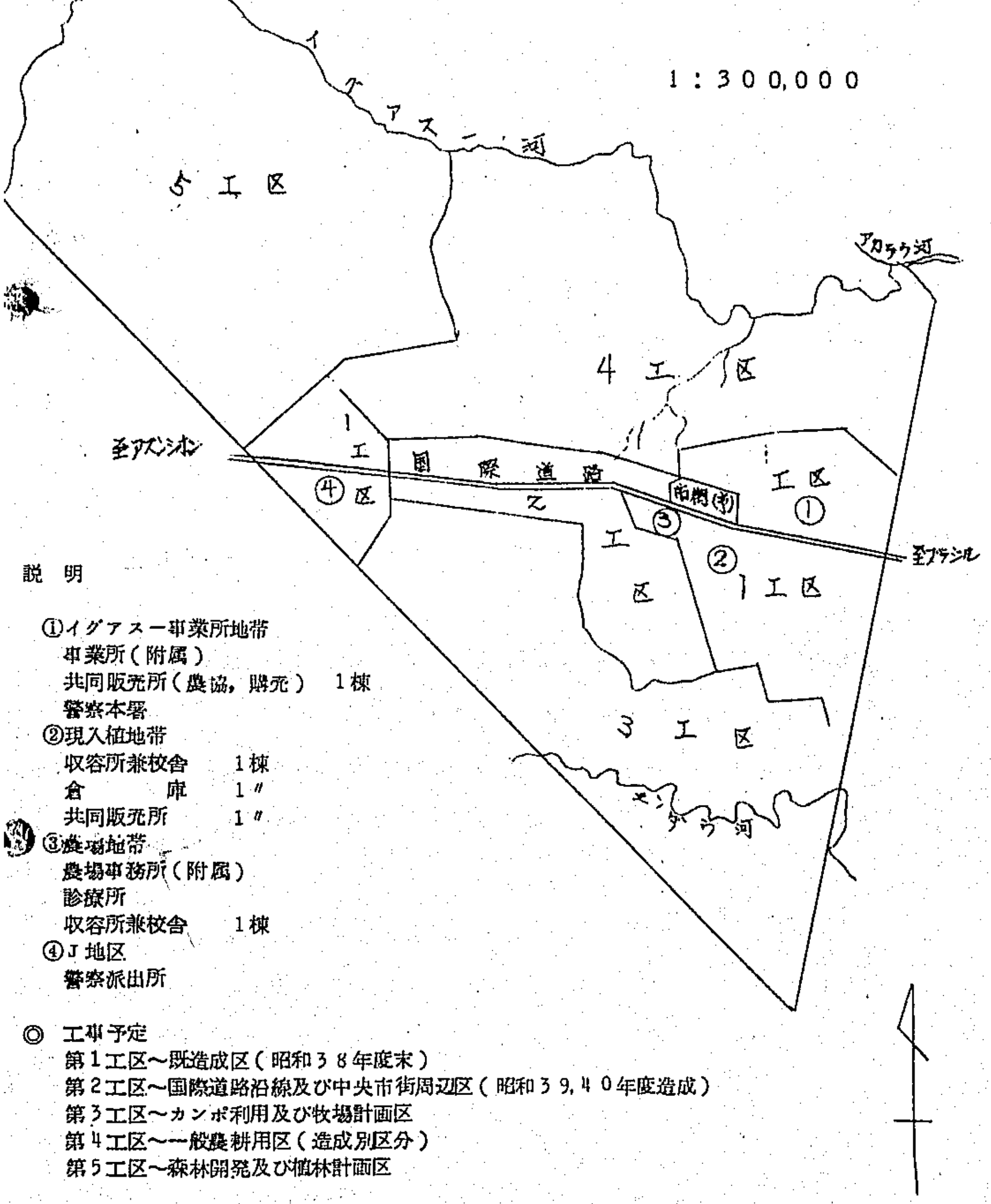
共同販売所　1棟（農協事務所兼販売所として利用）

○警察官宿舎（煉瓦建）　1〃

ハ．農場用地内

収容所兼校舎　1棟　（収容所としての使命終了後は農業講習所として利用の予定）

イグアスー移住地附近図



説　明

①イグアスー事業所地帯
　事業所（附属）
　共同販売所（農協，購売）　1棟
　警察本署
②現入植地帯
　収容所兼校舎　1棟
　倉　　庫　1〃
　共同販売所　1〃
③農場地帯
　農場事務所（附属）
　診療所
　収容所兼校舎　1棟
④J地区
　警察派出所

◎　工事予定
　第1工区～既造成区（昭和38年度末）
　第2工区～国際道路沿線及び中央市街周辺区（昭和39,40年度造成）
　第3工区～カンポ利用及び牧場計画区
　第4工区～一般農耕用区（造成別区分）
　第5工区～森林開発及び植林計画区

7. アマンバイ（ペドロ・フアン・カバレイロ）移住地

① 入植の経緯

当初１９５６年（昭和３１年）より１９５８年（昭和３３年）にかけ，ペドロ・フアン・カバレイロ市に在る米人経営のＣＡＦＥ耕地（社長ジョンソン氏）のコロノとして１２８戸が移住した。

このＣＡＦＥ耕地は中途より経営不振となり賃金の遅払い，不払いのため多くの転耕者を出し大部分ブラジルへ移住して行き残りのものはこの附近で独立を計画し定着した。そして１９５９年１０月ＣＡＦＥ耕地は遂に破産の宣告を発するにいたつた。

なお１９６０年の契約満了時には耕地に残留していた邦人移住者は，わずかに６０戸に減少していた。

これ等の者は従来ＣＡＦＥ耕地より出ていたものと合流しこの地にて自営農としての道を開くべく協同して土地の調査選定を行ない旧移住会社の独立資金等の援助を受け独立した。

その後フラム，アルト・パラナ方面からも多くの転耕者が到来し，現在１２６戸の邦人が，それぞれ市を中心として３～４０粁の間に農業に従事している。

また最近，ブラジル国境の「カピタンバード」地区（ペ市より７０粁位）の国有地に（１ha　400 G/S 位）直接，内地より移住者を迎え入れたいとの動きも出ている。

② アマンバイ農業協同組合

イ．前記ＣＡＦＥ耕地の残留者のうちこの地方に定着しようと計画した人達は，協同して土地選定を行なつたり，購入資金の導入等をはかるべく任意組合を結成した。

その後更に法定組合とすべく1960年12月，59名により創立総会を開き，認可申請を行なつた。

ロ．認可年月日　　1961年6月8日

ハ．組合の事業区面積（別添図面）　　約2,500ヘクタール
（組合員所有面積）

ニ．組合員数　　126戸

ホ．組合の役員

理　事　　7名（任期1年）専務常勤

監　事　　3名（　〃　）

ヘ．出資金

(イ)　加入時最低3,000グアラニースを出資以後農産物販売代金より積立。

(ロ)　組合の目標額（組合員1人当り50,000グアラニース）

6,200,000グアラニース

(ハ)　既払込額

956,871グアラニース

ト．組合の資産

(イ)　土　地　　1ヘクタール

(ロ)　建　物　　農業倉庫1棟，住宅1棟，車庫1棟

(ハ)　工　場　　精米工場1棟（機械設備一式）

(ニ)　他に事業団よりジープ1台，トラック1台（トヨタ6ｔ）の貸与をうけている。

チ．営農状況

(イ)　1963年度末の永年作物植栽状況

植付総面積　　583.1ヘクタール（開拓総面積994.3ヘクタール）

コーヒー樹　2年生以上　4 1 1,5 5 1本

1年生　1 0 4.5 1 4 〃

マテ茶　4 0,1 8 4 〃

果樹　3,9 7 0 〃

オリーブ　5 0 0 〃

（6×6 m＝3 0 0本＝1ヘクタール）

(ロ)　1 9 6 3年度末所有家畜頭数

牛　2 7頭（肉牛）

鶏　9,4 6 0羽（白レグ　産卵率7 0％）

(ハ)　1戸当り平均粗収入（1 9 6 4年8月実施の営農実態調査7 5人の平均）

1 1 1,6 0 0グアラニース（現金収入のみ）

(ニ)　1戸当り平均生活費

2 8,8 4 0グアラニース

(ホ)　1戸当り平均営農費

5 2,9 6 0グアラニース

リ．参考事項

中級所得者の営農状況

(イ)　（O氏＝1 9 6 0年1 0月入植　家族数3人，稼働者3人）

土地所有面積　2 6ヘクタール

開墾済　〃　6ヘクタール

所有家畜数　豚4頭，鶏4 0 0羽

資　産　畜舎1棟（1 5㎡）；鶏舎3棟（6 0㎡），

収納舎1棟（4 0㎡）

原動機2台，動脱機1台，動力米麦製粉機

1台

収入	農業収入(A)			
	とうもろこし	(3ヘクタール)	5,400Kg	
	も　み	(2　〃　)	12,000〃	
	コーヒー	(6,000本)	1,200〃	
	現　金	短期作	80,000グアラニース	
		永年作	60,000　〃	260,000〃 (A)
		畜　産	120,000　〃	
	自家保有	食　糧	8,000　〃	
		飼　料	30,000　〃	
		合　計	298,000グアラニース	
	農外収入(B)	給　料	50,000グアラニース	
支出	家計費(C)	主　食	10,000グアラニース	
		副　食 調味料	7,000　〃	
		被　服	5,000　〃	
		教　育	3,000　〃	
		医　療	2,000　〃	
		その他	1,000　〃	
		計	28,000グアラニース	
	営農費(D)	伐　開	30,000グアラニース	
		人　夫	45,000　〃	
		農薬肥料	3,000　〃	
		材　料	8,000　〃	
		飼　料	30,000　〃	
		支払利息 その他	6,000　〃	

合　計　122,000グアラニース

諸負担租税公課(E)　　3,000グアラニース

差引余剰　(A＋B)－(C＋D＋E)＝157,000グアラニース

(ロ)　(M氏＝1960年10月入植　家族数8人，稼働者6人)

土地所有面積	30ヘクタール
開墾済 〃	17 〃
所有家畜数	馬1頭，豚10頭，鶏400羽
資　産	畜舎1棟(20m²)，鶏舎1棟(40m²)，収納舎1棟(30m²) 原動機1台，耕耘機1台，動脱機1台，トラック1台

収入　農業収入(A)

とうもろこし	(7 ヘクタール)	14.000Kg
菜　豆	(3 〃)	1,800〃
も　み	(2.5 〃)	3,000〃
大　豆	(1.5 〃)	1,800〃
そ　菜	(3 〃)	40,000〃
マテ茶	2,000本	
コーヒー	11,000〃	

現　金	短期作	100,000グアラニース
	畜　産	120,000 〃
	計	220,000グアラニース
自家保有(評価)	食　糧	12,000グアラニース
	飼　料	20,000 〃
	合　計	252,000グアラニース

農外収入(B)　　0 〃

支出　家計費(C)

主　　食	12,000グアラニース
副食調味料	12,000　〃
被　　服	8,000　〃
教　　育	4.000　〃
医　　療	4.000　〃
そ の 他	3,000　〃
計	43,000グアラニース

営農費(D)

伐　　開	15,000グアラニース
人　　夫	15,000　〃
農薬肥料	10,000　〃
材　　料	8,000　〃
飼　　料	80,000　〃
支払利息 そ の 他	6,000　〃
計	134.000グアラニース

諸負担租税公課(E)　　6,000グアラニース

差引余剰　（A＋B）－（C＋D＋E）＝37,000グアラニース

(ロ)　融資貸付状況（1964年度総会資料より）

（単位 グアラニース）

種別		金額	備考
長期	土地購入資金	5,100,000	
	共同利用設備（農倉）	350,000	
	永年作植付資金	2,520,000	
	ハッカ蒸溜設備資金	150,000	
	共同利用精米工場〃	1,000,000	
	小計	9,120,000	
短期	短期営農資金	1,500,000	
	団体運転資金	1,150,000	
	緊急営農〃	500,000	
	小計	3,150,000	
合計		12,270,000	

アマンバイ農業協同組合貸借対照表

1964年12月31日現在

単位 G/S

資産の部		負債及び資本の部	
内訳	金額	内訳	金額
信用事業資産		信用事業負債	
現金	67,316	当座的預金	881,966
預け金	250,644	借用金	15,378,178
貸出金	11,324.213		
信用事業雑資産			
未収利息	68,272		
信用事業資産合計	11,710,445	信用事業負債合計	16,260,144
経済事業資産		経済事業負債	
棚卸資産	669,037	購買品買掛金	183,324
経済事業雑資産		購買前受金	136,000
販売品売掛金	63,493	未払金	3,320
販売仮渡金	1,888,204	預り金 a／c	106,776
立替金	72,231	仮受金	36,432
未収金	600	償還積立金	76,606
購買前渡金	20,000	飼料購入積立金	34.290
仮払金	11,105	倉庫資金償還積立金	300,000
経済事業資産合計	2,724.670	医療積立金	72,440
固定資産		経済事業負債合計	949,188
土地	380,593	資本	849,000
農倉，工場	1,879,761	出資金	849,000
機械装置	1,268,910	出資充当積立金	32,024
器具備品	125,977		
固定資産合計	3,655,241	資本合計	881,024
合計	18,090,356	合計	18,090,356

アマンバイ農業協同組合損益計算書

自　１９６４年　１月　１日
至　１９６４年１２月３１日

単位　ØS

		総合計算の部		部門別計算の部							
				信用	購買	販売	利用	工場	トラック	指導	管理
事業収益	信用収益	貸出金利息	587,572	587,572							
		信用雑収益	652716	652,716							
		計	1,240,288	1,240,288							
	売上総利益	売上高	1,986,966		1,986,966						
		売上原価	1,873,350		1,873,350						
		計	113,616		113,616						
	その他直接収益		763,267	0	0	258892	448,838	155,350	246677	57,510	
	間接収益		70,315								70,315
	小計		2,187,486	1,240,288	113,616	258892	44,838	155,350	246,677	57,510	70,315
事業費用	信用費用	貯金利息	7,300	7,300							
		借用金利息	824,546	824,546							
		信用雑費用	209,427	209,427							
		計	1,041,273	1,041,273							
	その他直接費用		314,506	0	0	25	83,742	52,843	133,758	44,138	—
	管理費	人件費	582,856								582,856
		旅費	103,888								103,88[illegible]
		事務費	40,263								40,263
		業務費	43,533								43,533
		諸税負担金	37,063								37,063
		雑費	1,502								1,502
		償却費	0								0
		計	809,105								809,105
	小計		2,164,884	1,041,273	0	25	83,742	52,843	133,758	44,138	809,105
事業利益金			22602	199015	113,616	258,867	△ 38,904	102,507	112,919	13,372	△ 738,790
事業外損益	収益		23220								
	費用		45,822								
	小計		△ 22602								
当期間損益金				U							

③ 教　育

イ．パ国教育

㋑ シリグエロ校

a．生徒数

国籍別＼学年別	1年			2年			3年			4〜6年	合 計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計		
日 本 人	2	10	12	1	3	4	−	−	−		16
パラグアイ人	−	3	3	1	3	4	−	−	−		7
合 計	2	13	15	2	6	8	−	−	−		23

b．教　師　　7級1名

㋺ サンハブイタン校　（交付金対象外）

a．生徒数

国籍別＼学年別	1年			2年			3年			4〜6年	合 計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計		
日 本 人	5	10	15	3	2	5	−	−	−		20
パラグアイ人	6	9	15	5	8	13	−	−	−		28
合 計	11	19	30	8	10	18	−	−	−		48

b．教　師

ロ．日本語教育

(イ) シリグエロ校　（土・日曜日10時間実施）

a．生徒数

学年 / 性別	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	合 計
男 子	2	2	—	1	3	1	9
女 子	4	2	3	1	1	3	14
合 計	6	4	3	2	4	4	23

b．教 師　　堀 多加雄，広田英郎

c．教 課　　国語，算数，理科，社会，西語

(ロ) サンハブイタン校　（土・日曜日10時間実施）

a．生徒数

学年別 / 性 別	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	合 計
男 子	3	3	1	6	1	7	21
女 子	2	4	2	1	5	1	15
合 計	5	7	3	7	6	8	36

b．教 師　　法守正信，藤代勇夫，榑木 寿，岡本利雄，

c．教 課　　国語，算数，理科，社会，西語

(ハ) アマンバイ中央校　（月・火・水曜日18時間）

a．生徒数

学年別 / 性 別	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	合 計
男 子	4	2	5	5	—	—	16
女 子	6	1	1	—	1	—	9
合 計	10	3	6	5	1	—	25

b．教 師　　石橋一三

c．教 課　　国語，算数，音楽，体操

(二) サンハブイタン中学校 （毎週金曜日６時間）

a．生徒数

性別＼学年別	1 年	2 年	3 年	合 計
男 子	1	8	−	9
女 子	1	3	−	4
合 計	2	11	−	13

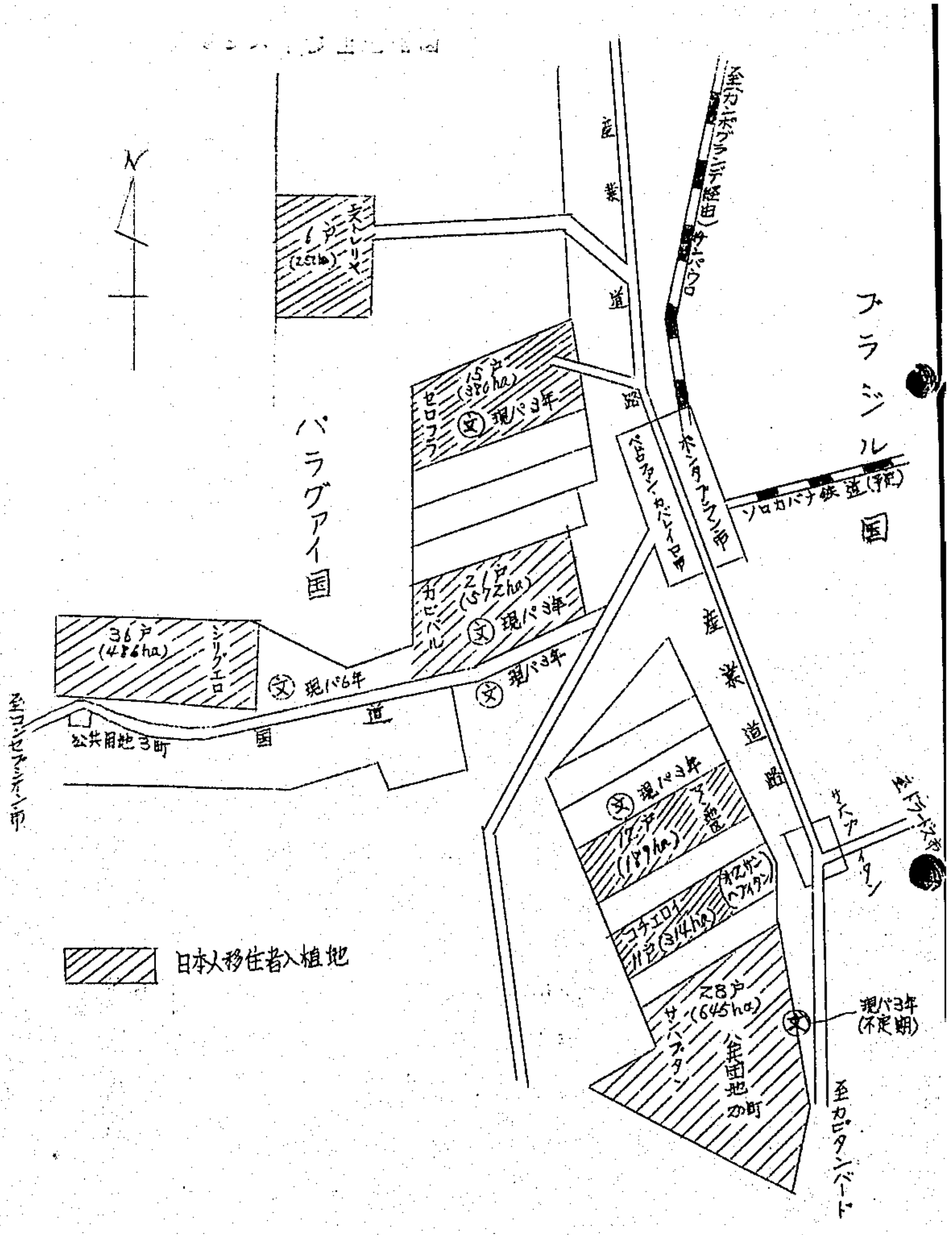
b．教師はサンハブイタン小学校教師兼務

④ アマンバイ移住地の特殊性

南米における移住地中で特殊な移住地と言えるのが，アマンバイ移住地である。

即ち①移住地発生の過程，②経済環境，③社会環境，④その他立地条件等が全くの特殊である。

①の移住地発生も，当部は米人のコーヒー園コロノとして入植し会社が破産した為，自分達の手で旧移住会社と交渉，独立資金の導入，組合の結成等自力で完成した移住地であること。②の経済環境はパ国内であり乍らブラジル経済圏に属しクルゼーロ貨を使用し，日用品，販売品はブラジル。特殊な小麦，コーヒー，米，棉等だけはパラグアイ国に販売する様になつており，特にコーヒーはブラジルの３倍で１俵４５K入穀付1,２００ǥ（3,６００円）である。③社会環境も芭国伯国の総てを揃えており，日本映画が週１回づつ見られる良さをもつている。④その他の立地条件も，南米移住地のうちで一番良く揃えており，今后発展する入植適地として内外共注目されている所である。この地区に住むものは自力独立を果した自信の上にたつて，コーヒー園の完成を目前に控え営農の拡張を画つている。


ブラジル国
パラグアイ国
産業道路
国道
ソロカバナ鉄道(予定)
公共用地3町
36戸
(486ha)
15戸
(380ha)
21戸
(572ha)
28戸
(645ha)
現パ6年
現パ3年
現パ3年
(不定期)
日本人移住者入植地

8. アスンシオン近郊蔬菜地帯

① 現在アスンシオン市郊外からカアグアス（１８０粁位）にかけて４６戸の邦人が，それぞれそ菜の栽培に従事している。

これ等は，古くは，ラ・コルメナより，また最近ではイタプア方面（チャベス，フラム，アルト・パラナ）から転耕したもので，殆んどがトマトを主とし，なかには西瓜，メロン，その他の野菜等を併せ栽培しているもののもある。このトマトはアスンシオン市に供給される，因みに最近アスンシオン市で消費されるトマトの９０パーセントは邦人栽培のものといわれている。

② 次に土地問題であるが，トマトは連作を嫌うため毎年場所を替えなければならない，このため案外多くの土地を必要とするが，近郊ほど地価が高いので入手が困難である。従つて多くのものは借地で経営している。

なお近郊は，地価が高いにもかかわらず，長いりやくだつ農業のため土地は相当にやせており，多くの肥料を必要とする。

③ 最近国際道路が殆んど舗装され，雨天による道路閉鎖がなくなり，生産物運搬上極めて便利になつた。このため近郊のやせ地で，多くの肥料を用いるより，若干の運賃がかかつても肥沃地で栽培した方が能率的であるとして，イグアスー移住地（２８０粁）あるいは手前カアグアス方面へ転耕しようとする気運がたかまつている。

④ これとは別に又最近，近郊農家のうち十数戸のものが共同販売，融資金の借入れ等のため農業協同組合を結成することになり，目下手続中である。

⑤ 参考までに近郊農家の営農状況をかかげると

（１９６４年８月実施の営農実態調査より）

イ．（Ｙ氏＝１９６０年チャベスより転耕，チャベス入植１９５５年

家族7人，稼働者6人）

土地所有面積	35.0ヘクタール		
耕地面積	3.0 〃		
	（普通畑2.5〃　樹園地0.5）		
所有家畜	0		
資　　産	収納舎　1棟（24㎡）		
	原動機1台，自動耕耘機1台，動噴1台		

収入	農業収入(A)			
	トマト	2.5ヘクタール	37.0キログラム	
	その他野菜	1.2 〃	―	
	ポメロ	50本	―	
	現金収入			
	短期作		750,000グアラニース	
	農外収入(B)		0(A)	
	自家保有（評価）	食糧	21,000グアラニース	
支出	家計費(C)	主食	43,000	〃
		副食調味料	30,000	〃
		被服	51,000	〃
		教育	20,000	〃
		医療	7,000	〃
		その他	5,000	〃
		計	156,000グアラニース	
	営農費(D)	伐開	0グアラニース	
		人夫	25,000	〃
		農業肥料	150,000	〃

材　　料　　２０,０００グアラニース

飼　　料　　０

そ の 他　　３２０,０００　〃（土地代一部償還，機械購入費）

計　　５１５,０００グアラニース

諸負担租税公課(E)　　１５,０００グアラニース

差引余剰　（Ａ＋Ｂ）－（Ｃ＋Ｄ＋Ｅ）＝６４,０００グアラニース

ロ．（Ｔ氏＝１９６３年チャベスより，チャベス入植１９５５年，家族９人，稼働者６人）

土地所有　　借　地

耕地面積　　2.5ヘクタール

所有家畜　　０

資　　産　　収納舎１棟（２３.５㎡）

原動機３台，耕耘機１台，動噴２台，動脱機１台，

動力麦米製粉機１台，小型トラック２台

収入　農業収入(A)

ト　マ　ト　　2.5ヘクタール　　５０.０キログラム

メ　ロ　ン　　7,０００本

現金収入

短　期　作　　８２３,０００グアラニース (A)

農外収入(B)　　０

自家保有　　０

支出　家計費(C)　　主　　食　　４２,０００グアラニース

副食調味料　　７２,０００　〃

被　　服　　０　〃

教　　育　　６３,０００　〃

	医　　療	30,000グアラニース
	その他	25,000
	計	232,000グアラニース
営農費(D)	伐　　開	0グアラニース
	人　　夫	60,000　〃
	農薬肥料	100,000　〃
	材　　料	15,000　〃
	飼　　料	0　〃
	その他	47,000　〃
	計	222,000グアラニース
諸負担 租税公課(E)		0

差引余剰　（A＋B）－（C＋D＋E）＝369,000グアラニース

附

パラグアイ共和国の概要

① 自然的事情

② 社会，経済的事情

③ 諸　制　度

④ 主要都市および県の概況

パラグアイ共和国の概要

1. 位　　置

西経５４.４５度より６３.２７度，南緯１７.５６度より２７.３０度

2. 面　　積

４０６,７５２平方キロ（日本全土に九州を併せた程度）

3. 気　　象

季節：　おおむね３月から８月まで涼季（冬期）

　　　　　９月から翌年２月まで暑季（夏期）

温度：　最高４１.９度，最低０.２度，平均２３度（アスンシオン市）

湿度：　７０パーセント

雨量：　降雨事情は不規則で乾期と雨期の別が判然とせず。年平均１,７００ミリメートル位

4. 人　　口

１,８１６,８９０人（１９６２年度国勢調査）

男　子　　８９５,５５１人

女　子　　９２１,３３９〃

人口密度　　１平方キロ　　４.６人

人口増加率　　２.３パーセント

5. 人　　種

原住民たるグアラニー族とスペイン系白人との混血で，新しい民族（パラグアイ人）を形づくつている。その比率は全住民の９６.５パーセントをしめている。その他わずかのドイツ人，ポーランド人，白系ロシア人が居る。（黒人は全くいない。）

6. 歴　　史

1535年スペインの植民地となり，1811年独立し，1844年共和国となつた。

首都アスンシオン市。

7. 国の一般予算（1963年度中の4月1日より12月末日までの分）

歳入　5,203,261,768グアラニース

歳出　5,203,261,768　〃

(1) 各省別総額

イ．立法府

国会	24.420,500グアラニース	0.47パーセント

ロ．行政府

大統領府	25,845,000	〃	0.50	〃
内務省	394.885,090	〃	7.59	〃
外務省	117,188,740	〃	2.25	〃
大蔵省	582,086.470	〃	11.19	〃
文部省	613,145,970	〃	11.73	〃
農牧省	72,993,670	〃	1.40	〃
土木省	1,027,630,010	〃	19.75	〃
国防省	832,437,890	〃	16.00	〃
厚生省	248,243,700	〃	4.97	〃
司法労働省	33,727,950	〃	0.65	〃
商工省	12,243,000	〃	0.24	〃
無任省	1,505,000	〃	0.03	〃
国家諮問機関 (Consejo de Estado)	64.161,000	〃	1.23	〃

ハ．司法府　64.161,000　〃　1.23　〃

ニ．国家の各種負債	1,149,973,678グアラニース	22.10パーセント
合　　計	5,203,261,768 〃	100.00 〃

(2) 歳入源別総額とそのパーセント

イ．通常歳入	3,380,577,764グアラニース	64.97パーセント
ロ．国債よりの歳入	300,000,000 〃	5.76 〃
ハ．特別法に基く歳入	819,339,000 〃	15.75 〃
ニ．外国よりの貸付金	703,344,998 〃	13.52 〃
合　　計	5,203,261,768 〃	100.00 〃

8. 行　政

（行政府）大統領のもとに，内務，外務，大蔵，文部，農牧，土木，国防，厚生，司法労働，商工の１０省がある。

（地方行政）首府を特別区として全国を１６の県（別添図面）に分け，県知事は内相の任命制になつている。更にその下部組織として市町村があるが，市制は人口３,０００人以上を原則としている。

9. 経　済

(1) 概　況

低開発の農牧林国である。地下資源が貧弱なうえに交通の未発達と資本，技術の貧困のため思うような開発が進まない状況にある。然し先進国の借款，外資導入，技術援助等により早期発展をはかるべくつとめている。

(2) 貿　易

イ．類　型

第一次産品を輸出して，工業製品を輸入する典型的な低開発国貿易

ロ．貿易額

輸出入それぞれ年平均３,０００万ドル前後。

ハ．貿易政策基調

1957年幣制改革以来，自由貿易・自由為替主義をとつている。

ニ．貿易バランス

1959年まで例年黒字，1960年以降毎年赤字。

ホ．相　手　国

アルゼンチン及び米国を主なるものとし，輸出入それぞれ両国との貿易額がパ国全貿易額の約半分をしめている。

ヘ．品　　目

(イ) 輸　出

食肉，木材，ケブラチヨ・エキス，棉花等を主とする農牧林産品一般。

(ロ) 輸　　入

例外的に小麦が筆頭に位する。他は，機械類，輸送機器，燃料等を主とする，工業製品一般。

ト．対日貿易

大体の年平均，輸出15万ドル，輸入200万ドル程度である。

特徴は顕著な片貿易である。

(3) 最近の貿易統計（単位　1,000ドル）

年度	輸出	輸入	バランス
1959	31,194	26,194	(+) 5,000
〃 60	26,973	32,463	(−) 5,485
〃 61	30,677	30,531	(−) 146
〃 62	33.467	34.263	(−) 796

(ｲ) 主要輸出品目および主要輸出先国

イ．主要輸出品および金額　（単位　千ドル）

品目	1961年	1962年
食肉製品	8,626	7,474
木材	6,451	6,660
牛皮等	2,010	1,700
タンニン	2,648	2,530
棉花	1,598	4.864
植物油	1,895	2,334
マテ茶	1,487	6,920
香油	1,054	—
煙草	1,528	3,091
桐油	1,388	1,568

ロ．主要輸出先国および輸出額　（単位　千ドル）

国名	1961年	1962年
米国	7,157	6,971
アルゼンティン	3,719	9,719
英国	3,615	3,472
オランダ	2,205	2,652
ドイツ	4,81	6,841
ウルグアイ	1,099	1,145
ベルギー	303	373
スペイン	975	963
フランス	497	942
イタリヤ	25	218

(5) 主要輸入品目および主要輸入先国

イ．主要輸入品および金額 （単位 千ドル）

品目	1961年	1962年
食料品（大部分が小麦）	7,058	7,130
機械器具等	3,882	5,457
輸送機具及同部品	3,910	5,050
燃料及潤滑油	3,494	3,536
繊維及同製品	2,695	3,096
鉄及同製品	1,575	1,633
化学製品及薬品	1,498	1,626
非鉄金属及同製品	1,126	982
紙類	931	818
農機具及同部品	334	326

ロ．主要輸入国および金額 （単位 千ドル）

国名	1961年	1962年
アルゼンティン	8,337	5,032
米国	5,331	10,771
ドイツ	4,171	4,721
南領アンテイリアス	2,212	2,349
英国	2,661	2,583
スペイン	1,733	684
スエーデン	799	1,034
ベルギー	440	532
オランダ	486	477
フランス	315	530

10. 産業（農牧林業）

(1) 概　況

前記のパ国経済一般の特色および概況は，その一部でかつ基本部門たる農牧林業部門には，最も顕著な形で現われている。つぎのとおり。

イ．パ国の基本，と云うよりほとんど唯一の産業である。

ロ．しかし，未開後進性の典型の一として，また封建的残さいとの下に，膨大な未開墾地を抱き，一方においては広大な土地を持つ限られた数の土地資本家もある。一方農民の６０パーセントは土地を所有せず旧来の習慣に従つて他人の土地を事実上占拠しおる情況であり，地主の場合も概して原始的な粗ほうりやく奪農牧法に終始している。

ハ．政府の農牧政策も，財政および技術能力上，農牧省予算が国家総予算の４パーセント内外に過ぎざる情況の示すとおり，概して貧困消極的的である。ただ，最近の傾向として，進歩同盟その他諸外国から技術的・金融的並びに経済的協力援助が増大するにおよび，農地造成（移住地設定）・国内移住・土地改革・農牧業助成等の施策が急に活ぱつ化した。

ニ．市場は，一定の種類を除きおおむね国内に限られていたが，ＬＡＦＴＡの出現後は少なくとも理論的には急激に１億数千万の人口を有する広大なものへ発展した。

(2)

イ．土　地

国土総面積	40,675,200ヘクタール	100パーセント
森　林	21,899,000　〃	53.8　〃
草　原	16,100,000　〃	39.6　〃
農地（既耕地）	1,675,200　〃	4.1　〃
その他	1,001,000　〃	2.5　〃

ロ．土　質

特徴は，パラナ河流域の粘土質の残積土壌いわゆるテーラロシア土質で，この土壌は地味すこぶる肥沃なことで知られている。

ハ．農業人口

総数は，国民の約75パーセント，135万人。配置状況は，政府の国内移住政策の結果逐次変化して来ているとはいうものの，今なおアスンシオン周辺200キロメートル半径内に全農業人口の約70パーセントが密集している。

ニ．主なる農産物

マンジョカ，マテ茶，砂糖キビ，モミ米，煙草，ポロト豆，トウモロコシ，サツマいも，落花生，アルファアルファアー・馬鈴薯，棉花，小麦等。

このうち，輸出されるものは，マテ茶・煙草・豆，トウモロコシ，砂糖，落花生等の食料油脂であり，一方輸入が必要なものは小麦である。

(3) 牧　畜

イ．家畜頭数

全種類を合わせ500万以上。うち，牛はほぼ400万頭。

ロ．年間屠殺牛数

60万頭。うち輸出向けになる食肉加工用12万頭。

ハ．食肉輸出額

輸出総額の約5分の1。

ニ．牧場面積（推定）

16,000,000ヘクタールで全土の約40パーセント。

(4) 林　業

森林面積が広いため，一般の木材は豊富であるが，主たる有用材は，ラパーチヨ，セドロ等建築及び合板用材及びケブラッチヨなるタンニン用材等。

いずれもほとんど全部輸出向けで，向け先はアルゼンティン，又前者は総輸出額の約5分の1，後者は約10分の1にのぼる。

◎ 参考までに中銀による1962年主要生産物調をかかげる。

(1) 1962年度生産高 （単位：千トン） （中銀資料）

マンジヨカ	996.8
棉花	32.5
甘蔗	272.0
とうもろこし	123.5
たばこ	15.0
豆類	17.6
罐詰肉	13.5
皮革	9.9
牛脂	1.3
食肉	47.7
輸出用原木	167.3
製材	53.0
タンニン	35.5
桐油	5.2（35,000t皮付き）

(2) 工業は，極めて小規模で，しかも限られており，農牧林産物の加工さえも未だ充分開発されていない。

主なものの生産状況はつぎのとおり。（1962年）

綿織物	2,600トン

毛織物	100トン
砂糖	32,800
ビスケット類	30,200
食用油	1,900
棉実油	1,600
マテ茶	11,500

11. 教育

制度としては，小学，中学（高校）大学とあり，他に特殊学校として，士官学校，商工農業学校，保健学校等がある。

義務教育は年限6年で就学率約80パーセント程度。

学校および生徒数次のとおり。

小学校	アスンシオン市（近郊）	194校	54,750人
	地方	1,928〃	241,789〃
	教師数		10,411人
中高校	中高校	78校	10,994人
	商業学校	32校	4,849〃
	師範学校	37校	7,108〃
	教師数		2,808人
大学	2校	学生数	3,500人

（地方に分校あり）

12. 軍事

(1) 特徴

イ．軍人は，伝統的に，待遇上優遇されるとともに国政上潜在的ながら最終最大の発言力を持つている。

ロ．軍の現在の兵員や装備等から考え，現在の国際情勢から見て，軍の

主たる存在目的はむしろ国内の治安維持にあると云わざるを得ない。

ハ．国民皆兵で軍の所要人員以外の徴兵者は警察ついで諸官庁の補助要員に廻される。

(2) 現有勢力

陸軍が主で，将校下士官2,000名，兵士12,000名。海軍は河上砲艦2隻で，兵員は将校下士官250名，海兵500名。なお，航空隊は保有総機数18台，兵員500名で，陸軍の一部をなしている。

（注） 徴兵制度

満17歳（男子）より2年間兵役に服する義務がある。（江上軍＝海軍の場合は志願）。

ただし，チャコ地方に勤務した場合10ケ月から18ケ月で免除される。（場所により異なる）。また高校に進学した場合，毎夏3ケ月（休暇中）づつ3年勤務（9ケ月）することにより予備役下士官として遇される。

その他カトリック僧の学校に入学した場合は完全に免除される。

13. 交　通

(1) 特　徴

パ国の未開後進性の最大の現われの一つは交通の未発達にある。それだけこれが開発は何よりも緊要であるが，現政権は，その経済社会開発の最重点としてこの交通開発を推進している。

(2) 概　況

イ．陸　上

(イ) 鉄　道

英国資本によつて，1860年開設された南米最古のもので，アスンシオン～エンカルナシオン間370Kmを走つている。パ国政府

は，１９６１年２０万ポンドでこれを買収し，目下乏しい財政能力のなかからこれが再建整備に乗り出している。

(ロ) 道　　路

㋑ 国道の総延長は2,745.32Kmで，うち舗装部分は，現時点で約300Km。㋺ パ国の道路交通の特徴は，雨天には地方の道路で舗装されないものについては一切の車輛による交通が禁止されることにある。道路維持と車輛を使用する利用者の保護を目的とする。㋩ 国際道路（国道No.2及びNo.7）。これはアスンシオンより真直ぐ東に延びて，大西洋岸パラナグワ港に達する道路でパンアメリカン道路の一部をなし，数年前に開設された。

ラ・プラタ河と並び，パ国の重要な対外交易路２本のうちの一つである。

ロ．河　　上

(イ) 従来は，三国同盟戦争に惨敗して以来船舶をほとんど保有しなかつたために，パ国は，数年前までその唯一の対外交易路であつたラ・プラタ河上航行をほとんどアルゼンテインの独占にゆだねざるを得なかつた。

よつて，経済上の理由を第一とし，それに国民感情的な意義をも加えて，現政権は自国船保有を決意し，１９５９年スペイン及び日本，又１９６３年スペインの協力を得て，これが実現に着手した。

(ロ) 現有船舶は，総数３０隻，２０,４０６屯，又目下スペインで建造中のものは客船２隻・国内交通用貨客船２隻及び乾ドック。

(ハ) 先般，オランダ資本による「パラグアイ太洋汽船会社」が設立され，２隻の外航船（但し，1,１００トン程度のもの）がパ国国籍に入つた。

ハ．航　空

(イ) 国内航路

道路不備のため，これが利用度は大きいが，資金的関係からすこぶる未発達。僅か6台の軍用機がこれにあてられ，軍において管理運営している。

(ロ) 国際航空

主に貨物の輸送用で，ブラジル，アルゼンテインに至る・国[illegible]の航空会社ＬＡＰＳＡがある。近く四発機を購入して，航路を北米にのばす予定。

ニ．参　考

(イ) 邦人移住地の交通事情

a．ラ・コルメナ植民地

最近移住地手前30粁（アカイ～コルメナ）の道路が補修されたため交通事情は極めて良くなり，アスンシオン市との間に毎日4往復のバス便がある。

（アスンシオンより1往復，コルメナより3往復）

b．チヤベス，フラム移住地

1962年補助金にて幹線が大改修されたため交通事情は良好となり，エンカルナシオン市との間に毎日バス4往復が通つている（うち3台は邦人経営）が雨天の場合は閉鎖される。

○ エンカルナシオン，アスンシオン間は飛行機毎週3回（月，水，土），陸路は国道1号線をバスが毎日数往復している。更に週3回の汽車便もある。

c．アルト・パラナ移住地

エンカルナシオン市との中間オエナウ迄は国道（6号線）であ

り，移住地までも近い将来国道に編入される予定である。

バスは毎日５往復が通つているが雨天の場合は閉鎖される不便がある。

（５往復のうち３往復はアルト・パラナより更に奥のドイツ人移住地カピタン・メサまで通つている）。

d．イグアスー移住地

国際道路が地区の真中を縦断しているため交通事情は最上に良いということが出来る。

なお殆ど舗装が完成したため雨天にても閉鎖されない。

現在アスンシオンと国境の港街フランコとの間を毎日急行，普通バス併せて１５往復がはしつている。

e．アマンバイ移住地

アスンシオン市との間は飛行機（週５回）または船便陸路（コンセプシオン経由）のため必ずしも最良の交通条件ではないが，ブラジル国のサンパウロへは陸路，鉄道で通じている。

地区内は入植地が散在しているため全体的には良否を論ずるわけにはいかないが，幹線沿いは極めて良好ということが出来る。

(ロ)　道路委員会（フンタビヤール）

道路を維持管理する制度（組織）として土木省の下に「道路委員会＝フンタビヤール」がある。

この道路委員会は本部をアスンシオンに置き，各県（県庁所在地）に「県委員会＝フンタビヤール・レヒオナル」を，更に各郡（市）に「地方委員会＝フンタビヤール・ローカル」を置いている。

なおこの下部機構として「コミシオン・プロ・カミーノ」をおく

ことが出来る（正式に登録はされない）。

○ 労働手帳

前記の道路委員会は，労働手帳による収入でまかなうことになつている。

現在，当国に住居を有する男子（パラグアイ国人は勿論，外国よりの移住者でも在パ2年以上になつた場合は対象となる）が，20歳に達した場合は労働手帳の交付を受けなければ，如何なる職業に従事することが出来ない制度になつている。

（注） a．男子20歳以上になつた場合，毎年日限を区切つて道路補修の労役に服する義務がある。この労役に代り，定められた額のグアラニー貨を支払うことにより免除される。

b．道路補修に服する年令別義務日数およびその額は次のとおり。

年令	日数	金額
20〜30歳	6日	360グアラニース
31〜40〃	5〃	300 〃
41〜50〃	4〃	240 〃

c．フンタビマール・ローカルの処理する事項としては，

・3ケ月毎に県委員会に報告書を提出する。

・現金による収入（労役の分は除外）の50％は土木省に，10％は県委員会に提出する。

・残りの40％にて人件費，事務費に充当する。

・原則として，道路補修費は計画書を土木省に申請して工事費の交付をうけることになつている。

（実際には不可能のため地元にて負担している）。

○　邦人移住地のフンタビヤール

ⓐチャベス植民地はカピタミランダ地方委員会に属し，ⓑフラム移住地は特別のはからいで「コミシオン・プロカミーノ」であるがエンカルナシオンの県委員会に直結し，定期報告，納付金等を免除されている。ⓒアルト・パラナ移住地は本年度よりフンタビヤール・ローカルとして登録した。

14．そ　の　他

(1) 言　　語

パラグアイ人の民族の言語はグアラニー語である。パラグアイ人はスペイン語とグアラニー語を上手につかいわけている。

スペイン語は一般に公用，商用等に用い，グアラニー語は感情を表現するに多く用いている。

（下層階級に属する者の日常用いられる言語は殆んどグアラニー語である）。

(2) 主なる都市および県

イ．アスンシオン市

当国の首都で人口は約35万人と称されている。政治，経済，文化の中心地であり，また当国の表玄関として，空よりはブエノス・アイレス，サンパウロ，リマ，　サンチヤゴ，ラ・パスに通じ，河川を利用してはコルンバ（伯，ボ国境）に週1回ブラジル国貨客船が，更にブエノス・アイレスにはパラグアイ国営商船隊が就航している。

日本側機関としては駐パ大使館，移住事業団アスンシオン支部があり，大使館は外交，邦人保護等の任にあたり，事業団は移住者の受入，

定着指導等の任にあたつている。

現在在留邦人としては，近郊そ菜栽培者（多くはイタプア県内へ入植した戦後移住者が転来したもので，主としてトマト栽培に従事している）を含めて約９０戸が居住している。

○ 標高 １００メートル

ロ．エンカルナシオン市

アスンシオンにつぐ第２の都会といわれているが，人口はわずかに５2,２５２人（６２年国勢調査）である。

イタプア県庁の所在地（Capital de Itapua）で，この地方の経済，文化の中心地であるとともに当国南の玄関口である（首都アスンシオンとは国道で３７０粁離れている）。

またパラナ河をへだてて亜国（ポサーダス）と接しているため国防上からも重要な地位にある。

○ 標高 １３０メートル

(イ) 人 口 ５2,２５２人

(ロ) 主要官公庁（政府出先機関）

県庁（含警察），水上警察，税関，郵便局，電報電話局，税務署，土木局，道路委員会，裁判所（民事，刑事），判事事務所（戸籍関係），兵事部，騎兵隊，銀行（パラグアイ，アルゼンチン，スペイン）

(ハ) 教 育（学校）

大学 １校（アスンシオン大学の分校）

夜間，５年制（４年修了後，大学院１年で論文提出）

商科，経済，教養の３科

中高校 ４校（師範１，商業１，普通２）

教師数　　　１０２名

生徒数　　1,２１４名

小学校　８校（６年制）

教師数　　　　７５名

生徒数　　2,９９４名

㈢　参考事項

○　市の予算（１９６３年度）　１2,８５5,０００グアラニース

○　土木局の予算（　〃　）　１0,７４8,８９３　〃

道路（国道及び準ずるもの）延長5·１０Km

No.1　８５Km（イタプア管内のみ　サン・ラモン迄）

附属道　１７５Km

No.6　４０Km（オエナウ迄）

附属道　２１０Km

○　銀行（３行），融資額（１９６３年度）

２1,５００グアラニース

〇. エンカルナシオン測候所の気象統計

a. 降 雨 量

年 度	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
1958	372	341.2	53.2	153.5	539	522	1193	77.1	898	638	321.9	282.2	1,644.8
〃59	146.1	614.0	3390	2096	1937	141.8	404	1485	1168	2683	134.7	141.2	2,494.1
〃60	843	130.0	174	104.1	528	212.8	845	1373	2470	236.6	462	132.4	1,485.4
〃61	1930	123.9	164.2	327.9	246.8	159.0	1452	815	3132	152.8	167.9	485	2,128.9
〃62	106.7	126.5	149.4	126.7	142.9	182	269	692	1466	403	119.9	935	1,166.8
〃63	1726	762	163.0	911	111.4	222.5	811	1055	2025	1428	4200	785	1,867.2
〃64	262	1325	1515	306.4	605	400	752						

（注） 〇 特徴としては毎年不規則な降雨状態で，一定したすう勢が見られない。

b. 気 温 ℃

年 度	1 月		2 月		3 月		4 月		5 月		6 月		7 月		8 月		9 月		10月		11月		12月	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
1961	—	—	31.2	20.8	28.1	18.2	251	15.4	243	125	21.0	12.6	219	11.4	268	142	23.3	152	276	170	298	179	316	190
〃62	31.8	18.4	—	—	31.1	18.2	259	15.1	21.4	100	215	89	173	72	215	95	256	14.1	250	120	306	169	332	197
〃63	33.3	22.0	31.6	21.0	315	20.9	272	13.4	245	133	21.4	106	243	13.8	24.7	13.0	24.6	162	276	170	277	174	303	190

㈥ 在留邦人および日本側出先機関

a．市内および近郊に居住する邦人（チャベス，フラム，アルト・パラナ等の入植者として移住し転居したもの）約６０戸が，そ菜栽培，酪農経営，その他商業等に従事し，市の発展上ようやくなくてはならない存在として重視されつつある。

b．市内にある日本側出先機関としては領事館（本年度より開設）および移住事業団エンカルナシオン事業所があり，前者は，正式には駐パ日本国大使館駐在官事務所と称し在留邦人の保護の任にあたつている。

後者は市内パククアに新来移住者受入れのため建築された（１９６２年度予算）収容所に同居し，移住者の受入れ，定着指導，視察（調査）者の便宜供与等の任にあたつている。

c．その他

前記の他，市内に邦人移住者の組織としてイタプア県農業協同組合連合会（組合員はチャベス，フジ，ラ・パス，サンタ・ロサ，アルト・パラナ農協により組織）の事務所があり，組合員，生産物の販売，購買品の支入れ，運輸，宿泊所経営等の業務を行つている（後述）。

その他市内居住邦人商工業者（約３０戸）によりエンカルナシオン日本人商工組合を結成し，共存体制をかためている。

ハ．イタプア県概要

(イ) 面　積　　１６,５２５平方キロメートル

(ロ) 人　口　　１６６,３８５人　　（１９６２年国勢調査）

（内４０％は外国人または外国系）

人口密度　　1平方キロ　9.5人

人口増加率　　2.7パーセント

(ｲ) 行　　政

大統領任命の県知事を主とし，各官庁の出先機関によりそれぞれ業務が行われている。

行政区画としては，次表のように県都としてエンカルナシオン市(Capital de Itapua)の他，県を16郡に分割し，それぞれ任命による郡長が業務の処理にあたつている。

HABITANTES DEL DEPARTAMENTO DE ITAPUA

		人口
1	Encarnacion	52,252
2	Bella Vista	6,256
3	Cambyreta	6,655
4.	Capitan Meza	5,249
5	Capitan Miranda	6,870
6	Capitan Vicente Matiauda	4.895
7	Carmen del Parana	3,207
8	Coronel Bogado	12,724
9	Fram	12,083
10	General Artigas	11,433
11	General Delgado	6,573
12	Hoenau	4,425
13	San Cosme	3,943
14	Obligado	4,297
15	San Pedro del Parana	17,582
16	Jesus	4.852
17	Trinidad	3,089
	Total	116,385

（注） 郡の下部機構として更に市（町）があり（Capitalを除く），それ等も皆任命による市長がそれぞれ統轄の任にあたつている。

(二) 経　済

イタプア県はパ国における主要農産県の一つでありその主な産物は次のとおりである。

a．1963年度産主要農産物一覧表　（STICA）

永年作物		短期作物	
油　桐（殻剝ぎ）	22,400t	とうもろこし	34,000t
マテ茶（カンチヤーダ）	21,700〃	さとうきび	33,000〃
ポメロ	3,200〃	米	7,800〃
ブドウ	2,990〃	棉　花	5,400〃
（家畜飼育頭数）		大　豆	4,750〃
牛（含乳牛）	237,269頭	小　麦	4,050〃
馬	50,000〃	マンジヨカ	180,000〃
豚	100,000〃	煙　草	635〃

b．エンカルナシオン港の輸出入統計（1963年度）

ⓐ 輸出（ポサーダス経由ブエノスあるいはヨーロッパ方向へ）

371,924.697グアラニース

内主なるもの

材　木	151,880,596グアラニース
油　桐	105,860,345　〃
マテ茶	45,690,337　〃
棉　花	21,314,996　〃
大　豆	9,854,004　〃

その他　とうもろこし，棉実油，ポメロ，大豆粕，コーヒ

ー（密輸入で入つたものの輸出）等。

ⓑ 輸入（ポサーダスより）

19,578,463グアラニース

主なもの　小麦粉及びその製品，缶づめ，食油等，

(ホ) 教　育（エンカルナシオン市関係を除く）

a．中高校　7校　（3年制）

カルメン	（3年制）
デルガード	（〃）
アベレア	（〃）
サンペドロ	（〃）
オエナウ	（6年生）
オブリガード	（〃）
フラム	（〃）㊀事業団建築による校舎

教師数　52名

生徒数　406名

b．小学校

6年制	24校	
5〃	24〃	230校
3〃	182〃	

教師数　591名

生徒数　19,852名

県別特産物

①コンセプシオン県
牛

②サンペドロ県
牛

③ラ、コルデイリエラ県
マンジヨカ
マイス
甘蔗
煙草
落花生

④グアイラ県
マイス
甘蔗
煙草
米
落花生

⑤カーグアスー県
煙草

⑥カアサパ県
マイス

⑦イタプア県
棉
マンジヨカ
マイス
米
油桐
マテ茶
野菜、大根

⑧ミシオネス県
米
牛

⑨パラグアリ県
棉
マンジヨカ
マイス
甘蔗
煙草
米
落花生
牛

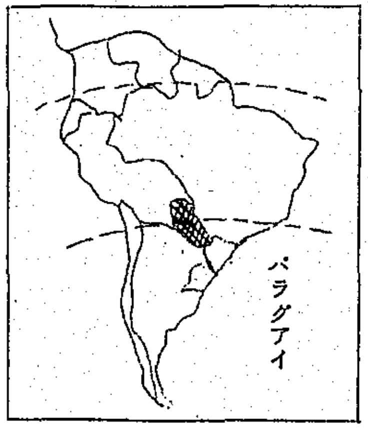
⑩アルトパラナ県

⑪セントラル県
棉
マンジヨカ
甘蔗
米
野菜
落花生

⑫ニエムブク県
落花生
牛

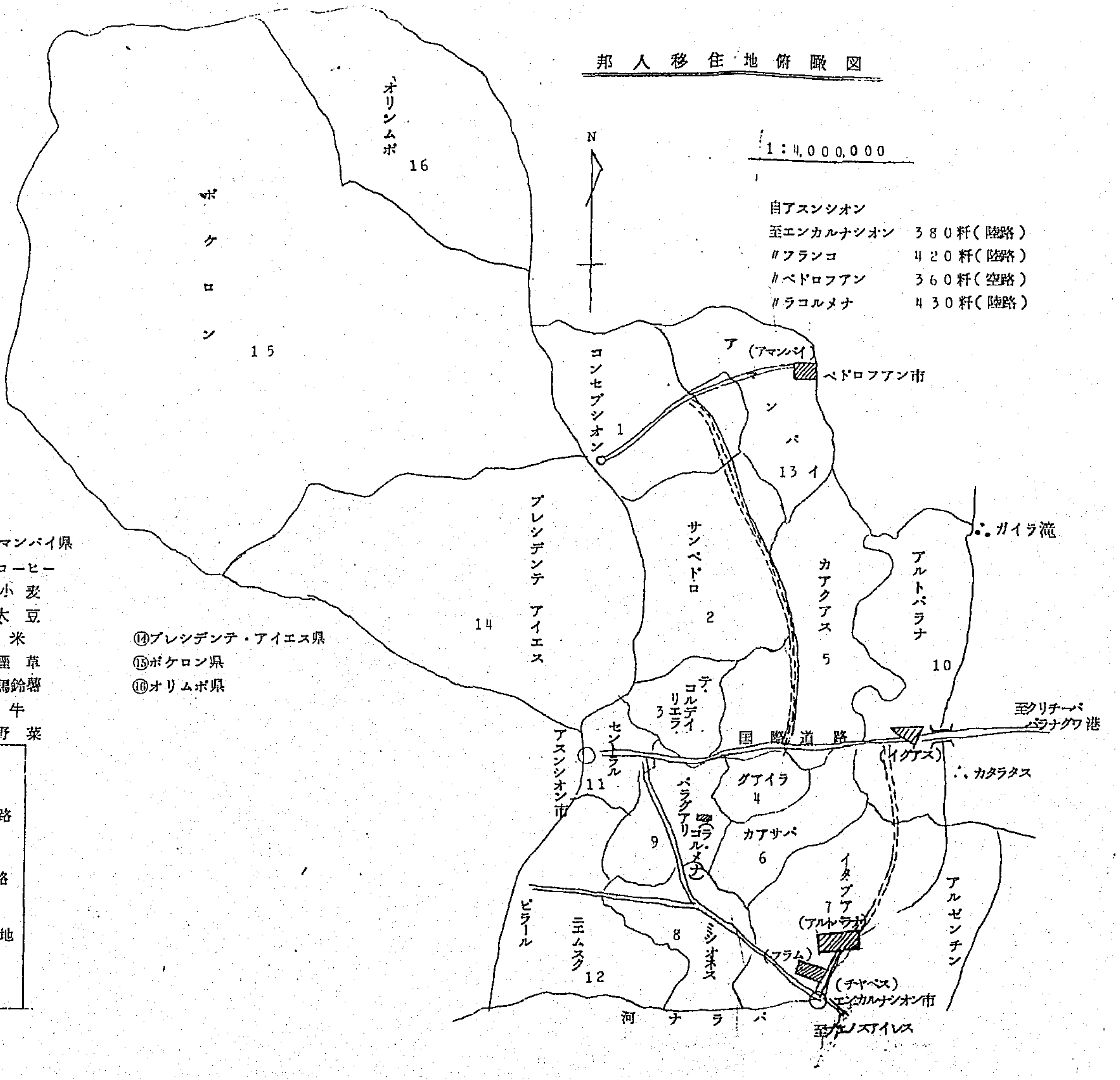
⑬アマンバイ県
コーヒー
小麦
大豆
米
煙草
馬鈴薯
牛
野菜

⑭プレシデンテ・アイエス県
⑮ボケロン県
⑯オリムボ県



凡例	
═══	道路
═══（破線）	計画道路
▨	移住地
∴	滝

邦人移住地俯瞰図

1：4,000,000

自アスンシオン
至エンカルナシオン　380粁（陸路）
〃フランコ　420粁（陸路）
〃ペドロフアン　360粁（空路）
〃ラコルメナ　430粁（陸路）